

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン

～子育てで選ばれる町！おいそ～

進行管理書《令和6年度》

大磯町

目 次

1. 実施計画進行状況		1
2. 事業一覧表		2
3. 進捗管理シート		6
進捗管理シートの見方		6
基本目標 1		8
基本目標 2		46
基本目標 3		78
基本目標 4		124
基本目標 5		152
基本目標 6		176
4. 量の見込みと確保方策		198
幼児期の教育・保育		198
地域子ども・子育て支援事業		201
5. 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン総括		214

1. 実施計画進行状況

第2期大磯町こども笑顔かがやきプラン

～子育てで選ばれる町！おいそ～

基本方針

- ① 安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進
- ② 家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進
- ③ 多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実

計画の目標値

	評価指標	単位	現況	R2	R3	R4	R5	R6	目標
実績	0～14歳の人口割合	%	11.5 (H30)	11.1	11.1	10.9	10.8	10.6	11.5

評価の基準

全計画からの事業の評価方法であるABC評価については、継続的に実施している事業は「B」とされ、行政サービスを安定して提供することの評価が適当な評価となっていないことから、継続している事業の評価等を見直し、次のとおり新たに定めた。

A… 事業目標を達成した、または達成した事業を継続的に実施できている。

B… 事業目標に達していないが、概ね成果があった。

C… 事業が未着手、または検討段階にある。

※ 各事業において、担当課ごとに進捗状況が異なる場合は、評価の高いもので集計する。

計画事業の進行状況一覧表（令和6年度）

基本目標	項 目	進行状況			事業数
		A	B	C	
1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり	14	5	0	19
2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	14	1	1	16
3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	12	11	0	23
4	地域が支える子育て環境づくり	8	5	1	14
5	子育てと仕事の両立支援	9	3	0	12
6	心配りが必要な子どもたちへの支援	9	2	0	11
計		66	27	2	95

2. 事業一覧表

基本目標	施策の方向	No.	通しNo.	事業名（具体的事業）	5年間の目標	区分	所管課
1. 子どもたちの生きる力を育む環境づくり	1-1 教育・保育環境の整備	①	1	老朽化した設備の整備	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		②	2	公立幼稚園・公立保育所のあり方についての検討	・継続実施	継続	子育て支援課
	1-2 質の高い教育・保育、地域子育て支援	①	3	保育士、教諭の質の向上（研修、人材育成）	・組織的な学校研究への取組実施率100%	継続	学校教育課
					・私立園への補助金交付	継続	子育て支援課
					・継続実施		
		②	4	魅力ある教育・保育の推進	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		③	5	少人数指導や外部人材の活用	・「地域ふれあい学習」協力者 延べ2,000人/年	継続	学校教育課
		④	6	職業体験学習などのキャリア教育の推進	・中学校3年間の学習の中で、全ての生徒が職業体験学習を行う	継続	学校教育課
	1-3 小学校教育への円滑な移行	①	7	子ども同士の交流	・継続実施	継続	子育て支援課
					・「地域ふれあい学習」協力者 延べ2,000人/年	継続	学校教育課
		②	8	幼稚園、保育所、小学校のネットワーク強化（円滑な移行）	・継続実施	継続	学校教育課
	1-4 家庭教育への支援				・継続実施	継続	子育て支援課
		①	9	親子同士のコミュニケーション講座	・継続実施	継続	生涯学習課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		②	10	町内幼稚園・保育所等における相談環境の整備	・各子育て関連施設に1人（コーディネーター）配置	継続	子育て支援課
	1-5 子どもの心と体の健康づくり	①	11	乳幼児とのふれあい体験	・継続実施	継続	学校教育課
		②	12	性に関する正しい知識の啓発	・継続実施	継続	学校教育課
		③	13	喫煙や薬物使用の知識啓発	・継続実施	継続	学校教育課
		④	14	犯罪に巻き込まれない対策	・各中学校1回/年（町内全中学校開催） ・大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会1回/年	継続	町民課 学校教育課
		⑤	15	自殺対策の推進	・各小中学校1回/年 ・各小中学校1回/年	新規 新規	スポーツ健康課 学校教育課
		⑥	16	町内幼稚園・保育所等巡回歯磨き指導	・町内各園等1回/年	新規	子育て支援課 （スポーツ健康課）
	1-6 食育の推進	①	17	規則正しい食生活の推進	・継続実施	継続	スポーツ健康課
					・継続実施	継続	産業観光課
		②	18	食生活に関する講座の開催	・食育講座8回/年	継続	スポーツ健康課
		③	19	給食の充実	・小学校給食の地場産物（県内産）の使用割合30% ・継続実施	継続	学校教育課 子育て支援課
2. 子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	2-1 子どもの居場所づくり	①	20	学童保育の推進	・継続実施	継続	子育て支援課
		②	21	放課後子ども教室の推進	・実施回数の増加	継続	子育て支援課
		③	22	全ての子どもの居場所づくりの推進	・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会2回/年	継続	子育て支援課
		④	23	公園等の整備	・公園・緑地の樹木剪定の実施 ・遊具点検及び修繕1回/年	継続	都市計画課
	2-2 世代間交流の充実				・継続実施	継続	子育て支援課
		①	24	地域住民との交流事業	・「地域ふれあい学習」協力者 延べ2,000人/年 ・人材登録者数100人 ・継続実施	継続 継続	学校教育課 生涯学習課 福祉課
		②	25	青少年指導員活動	・自主事業3回/年	継続	生涯学習課

基本目標	施策の方向	No.	通しNo.	事業名（具体的事業）	5年間の目標	区分	所管課
2. 子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	2-3 スポーツ活動の推進	①	26	各幼稚園・保育所等や学校におけるスポーツの取組	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		②	27	スポーツ少年団活動やスポーツ推進委員の活動支援	・継続実施	継続	スポーツ健康課
		③	28	スポーツ大会や教室の開催	・継続実施	継続	スポーツ健康課
	2-4 文化・芸術活動の推進	①	29	地域の伝承文化に親しむ郷土愛の育成	・継続実施	継続	生涯学習課
		②	30	文化・芸術体験の機会の提供	・「青少年おもしろ講座」3回/年	継続	生涯学習課
					・継続実施	継続	学校教育課
		③	31	読書活動の推進	・児童書の団体貸出冊数1,500冊/年 ・団体貸出用児童書の購入冊数100冊/年 ・おはなし会の参加人数1,500名/年 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数100冊/年	継続	生涯学習課
					・継続実施	継続	学校教育課
	2-5 子どもの健全育成	①	32	環境学習の推進	・各小学校の施設見学 1回/年 ・子供向け体験学習の実施 1回/年	継続	環境課
		②	33	人権教育	・継続実施	継続	学校教育課
		③	34	平和学習	・継続実施	継続	総務課
	2-6 社会参加への支援	①	35	子どもの意見を反映する機会の充実	・継続実施	継続	政策課
3. 子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	3-1 妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援	①	36	母子の健康保持、増進（新生児・未熟児訪問）	・対象児の全数把握、全数訪問	継続	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		②	37	出産育児不安の解消（情報提供・訪問・子育て講座等）	・マタニティスクール10回/年	継続	子育て支援課 （スポーツ健康課）
					・こんにちは赤ちゃん事業（乳幼児全戸訪問事業）訪問率100% ・2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」訪問率100% ・子育て講座「ベビーマッサージ」4回/年 ・健康に関する講座5回/年	継続	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		③	38	不妊等への支援	・継続実施	継続	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		④	39	乳幼児健診、予防接種の推進	・乳幼児健診受診率100% ・予防接種率100%	継続	子育て支援課 （スポーツ健康課）
	3-2 医療体制の充実	⑤	40	母子の健康保持、増進（産後ケア事業）	・デイサービス型実施施設数1か所 ・アウトリーチ型 対象家庭への訪問率100% ・宿泊型実施施設数1か所	新規	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		⑥	41	利用者支援事業（母子保健型）	・妊産婦の全数把握 ・子育て世代包括支援センター1か所 ・妊婦健康診査受診率100%	新規	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		①	42	救急医療の確保	・継続実施	継続	スポーツ健康課
		②	43	妊婦健康診査	・受診率100%	継続	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		③	44	周産期・小児医療の確保	・継続実施	その他	スポーツ健康課
		④	45	新生児聴覚検査	・受診率100%	新規	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		⑤	46	産婦健康診査	・受診率100%	新規	子育て支援課 （スポーツ健康課）
	3-3 経済的な支援	⑥	47	歯と口腔の健康づくり	・2歳児歯科健診受診率100% ・継続実施	新規	子育て支援課 （スポーツ健康課）
		①	48	児童手当の支給	・継続実施	継続	子育て支援課
		②	49	こども医療費の助成（～R5 小児医療の助成）	・継続実施	継続	子育て支援課
		③	50	養育医療	・継続実施	継続	子育て支援課
		④	51	就学援助	・継続実施	継続	学校教育課
		⑤	52	ひとり親への援助	・継続実施	継続	子育て支援課
		⑥	53	障がいを持つ子どもへの援助	・継続実施	継続	子育て支援課
		⑦	54	保育料以外の実費負担への費用助成	・継続実施	継続	子育て支援課

基本目標	施策の方向	No.	通しNo.	事業名（具体的事業）	5年間の目標	区分	所管課
3. 子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	3-4 生活環境の整備	①	55	公園や道路等の環境整備、バリアフリー	・町内歩道整備延長L=943m (国府本郷西小磯1号線、幹線28号線)	継続	建設課 (道路課)
					・町内全ての公園で点検・修繕、公園検査を実施	継続	都市計画課
		②	56	公共施設での子育て支援（授乳室やベビーベッド等）	・赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年	継続	子育て支援課
		③	57	通学路や公園などの安全確保	・町内の防犯灯の維持管理	継続	町民課
					・公園・緑地の樹木剪定の実施	継続	都市計画課
					・遊具点検及び修繕1回/年	継続	学校教育課
		④	58	交通安全、防犯対策	・継続実施	継続	町民課
					・継続実施	継続	学校教育課
					・子どもSOS事業推進研修会1回/年	継続	生涯学習課
4. 地域が支える子育て環境づくり	4-1 子育て相談体制の充実	①	59	気軽に相談できる環境の整備	・継続実施	継続	子育て支援課 (スポーツ健康課)
					・継続実施	継続	子育て支援課
		②	60	子どもの病気や発育の相談体制	・継続実施	継続	子育て支援課 (スポーツ健康課)
					・継続実施	継続	子育て支援課
		③	61	町内幼稚園・保育所等における育児相談	・各園1人ずつ配置（コーディネーター）	継続	子育て支援課
		④	62	妊婦、乳幼児訪問	・新生児（未熟児）訪問 対象児の全数把握、全数訪問 ・産後ケア事業（アウトリーチ型）対象家庭への訪問率100%	継続	子育て支援課 (スポーツ健康課)
					・こんにちは赤ちゃん事業（乳幼児全戸訪問事業）訪問率100% ・2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」訪問率100%	継続	子育て支援課
		⑤	63	不登校やいじめの相談	・継続実施	継続	学校教育課
	4-2 子育て支援の充実	①	64	つどいの広場事業	・利用者数15,000人/年	継続	子育て支援課
		②	65	保育所開放保育、幼稚園施設開放	・体験入園1回/月	拡充	子育て支援課
		③	66	一時預かりの促進	・継続実施	継続	子育て支援課
		④	67	子育て短期支援事業の充実	・検討継続	継続	子育て支援課
		⑤	68	主任児童委員、民生委員・児童委員の活動	・継続実施	継続	福祉課
	4-3 子育て情報の発信	①	69	ネット等による情報発信	・継続実施	継続	子育て支援課
		②	70	子育て情報誌（ガイドブック）の発行	・継続実施	継続	子育て支援課
	4-4 子育て世代の社会参加への支援	①	71	保育ボランティアの活動支援	・継続実施	継続	子育て支援課
		②	72	ファミリー・サポート・センター事業の促進	・会員数の拡充	継続	子育て支援課
5. 子育てと仕事の両立支援	5-1 多様な保育サービスの提供	①	73	待機児童解消（保育所・小規模保育事業所等の充実）	・待機児童数0人	拡充	子育て支援課
		②	74	保育所・認定こども園・小規模保育事業所等の事業実施の支援	・継続実施	継続	子育て支援課
		③	75	認定こども園の活用	・継続実施	継続	子育て支援課
		④	76	育休、産休明け保育の充実	・子育てコンシェルジュ 3か所配置	拡充	子育て支援課
		⑤	77	延長、一時、休日、夜間保育	・継続実施	継続	子育て支援課
		⑥	78	病児、病後児保育	・利用児童数 年間延べ80人以上	継続	子育て支援課
		⑦	79	保育士の確保	・継続実施	継続	子育て支援課
		⑧	80	利用者への支援（子育てコンシェルジュ等）	・子育てコンシェルジュ 3か所配置 ・コーディネーター 8人配置	拡充	子育て支援課
	5-2 放課後児童対策の充実	①	81	学童保育の充実	・継続実施	継続	子育て支援課
		②	22	全ての子どもの居場所づくりの推進（再掲）	・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会2回/年	継続	子育て支援課

基本目標	施策の方向	No.	通しNo.	事業名（具体的事業）	5年間の目標	区分	所管課
5. 子育てと仕事の両立支援	5-3 仕事と生活の調和の実現	①	82	男女共同参画の講演会、講座	・「大磯町男女共同参画推進プラン」の見直し及び新プランの策定	継続	町民課
					・男女共同参画講演会・講座を年1回以上実施		
					・継続実施	継続	学校教育課
		②	83	男女が共に子育てに参加する環境づくりの推進	・継続実施	継続	生涯学習課
					・マタニティスクール 5回/年	継続	子育て支援課（スポーツ健康課）
					・イクメン講座 3回/年	継続	子育て支援課
					・ファミリー教室 3回/年	継続	生涯学習課
6. 心配りが必要な子どもたちへの支援	6-1 配慮が必要な子どもへの支援	①	85	(発達) 障がいのある子どもへの支援	・パンフレット配布 70事業所	継続	産業観光課
					・継続実施	継続	子育て支援課（スポーツ健康課）
					・子ども発達支援会議3回以上/年	継続	子育て支援課
		②	86	園や学校における人材配置や相談体制	・継続実施	継続	福祉課
					・子ども発達支援会議3回以上/年	継続	子育て支援課
		③	87	専門職による相談機能の充実	・継続実施	継続	学校教育課
					・相談件数100件/年	継続	子育て支援課
					・継続実施	継続	子育て支援課（スポーツ健康課）
					・継続実施	継続	福祉課
	6-2 児童虐待防止体制の充実	①	88	ネットワークの強化	・継続実施	継続	学校教育課
					・要保護児童対策地域協議会（代表者会議ほか）8回/年 ・研修会1回/年	継続	子育て支援課
		②	89	早期把握や支援（乳幼児訪問・養育支援訪問）	・継続実施	継続	子育て支援課（スポーツ健康課）
					・こんにちは赤ちゃん事業（乳児全戸訪問事業）訪問率100%	継続	子育て支援課
		③	90	家事や育児への援助	・利用件数200件/年、会員数200人	継続	子育て支援課
					・こんにちは赤ちゃん事業（乳児全戸訪問事業）訪問率100%	継続	子育て支援課
	6-3 いじめや不登校への対応	④	91	地域の見守りの充実	・2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」訪問率100%	継続	子育て支援課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		⑤	92	児童虐待防止の予防	・子どものしつけ等についての講義、講座の開催	継続	子育て支援課
					・継続実施	継続	学校教育課
	6-4 子どもの貧困への対策	①	93	相談員、スクールカウンセラーの配置	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		②	94	保護者、児童の相談体制	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		③	51	就学援助（再掲）	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		④	52	ひとり親への援助（再掲）	・継続実施	継続	学校教育課
					・継続実施	継続	子育て支援課
		③	95	スクールソーシャルワーカー等と福祉の連携	・継続実施	新規	学校教育課
					・継続実施	新規	子育て支援課
		④	54	保育料以外の実費負担への費用助成（再掲）	・継続実施	継続	子育て支援課
					・継続実施	継続	子育て支援課

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート						
事業名		老朽化した設備の整備			学校教育課／子育て支援課	
基本目標		子どもたちの生きる力を育む環境			所管課名	
施策の方向		教育・保育環境の整備				
当初計画		基本目標 ⇒子育ての様々な課題の解決に向けて設定した目標				
事業概要		安全で快適な学校及び園生活につづいた計画的な整備を行います。				
目標値		継続実施			施策の方向性 ⇒基本目標を実現するための方向性	
区分		新規			完了 (事業終了)	その他
進捗状況		目標値 ⇒5年間で目指す取り組みの目標値				
年度		実績				
令和2年度 (実績)	学校教育課	設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。			施設設備運営のために必要な保守点検等を行い、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 また、修繕や改修、さらには改築を計画的に実施し、これらに必要な予算をできるだけ平準化するため、大磯町教育施設等長寿命化計画を策定した。	
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。			国府保育園3歳児保育室マルチエアコン取替修繕、園庭壁面時計修繕、大磯幼稚園外廊下照明器具修繕工事、たかとり幼稚園公共下水道接続工事、非常用電源設置工事、保育園、幼稚園遊具修繕の実施の他、各園で必要な修繕等を実施した。	
令和3年度 (実績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。			学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 また、新型コロナウイルス感染症対策として各小中学校に自動水栓の設置や網戸の設置を行った。	
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。			国府保育園沐浴室改修修繕、1階ホールサッシ・アクリル板修繕修繕、大磯幼稚園保育室フローリング他修繕、たかとり幼稚園4歳児保育室手洗修繕、保育園・幼稚園遊具修繕の実施の他、各園で必要な修繕等を実施した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保育園・幼稚園自動水栓設置工事を実施した。	

年 度		課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実 績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、大磯町教育施設等長寿命化計画等を踏まえ、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 また、国府小学校非常放送設備工事、大磯中学校3号館トイレの改修工事を行い、校内環境の改善を図った。	A	
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園乳児避難用通路整備工事、沐浴室他壁面タイル・天井等補修工事、乳児室・5歳児保育室空調機設置工事、大磯幼稚園I階保育室引き戸等修繕、屋外トイレ修繕、たかとり幼稚園職員室前廊下雨漏り修繕の他、各園で必要な修繕等を実施した。	A	
令和5年度 (実 績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、大磯町教育施設等長寿命化計画等を踏まえ、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 主な修繕工事としては、大磯小学校では照明器具更新修繕や家庭科室ロールスクリーン交換修繕、国府小学校では救助袋更新修繕や門扉修繕、大磯中学校では放送室放送設備更新工事や体育館照明更新工事、国府中学校では理科室給湯器交換修繕やテニスコート改修工事などを実施した。 また、学校教育施設整備基本構想を策定し、町立小中学校4校の整備内容及び時期を具体的にロードマップとして示した。	A	
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園照明器具LED化交換工事、職員室空調機更新工事、園舎北側屋根等漏水箇所修繕工事、大磯幼稚園窓ガラス修繕、たかとり幼稚園テラス雨樋改修工事の他、各園で必要な修繕等を実施した。	A	
令和6年度 (実 績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	令和6年度の評価 令和6年度実績		
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。			
評価Cの場合			令和6年度の評価がcの場合、理由や対応策		
未着手の理由と今後の対応等					

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート				Ⅰ	
事業名	老朽化した設備の整備			学校教育課／子育て支援課	
基本目標	Ⅰ	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	Ⅰ-Ⅰ	教育・保育環境の整備			
当初計画					
事業概要	安全で快適な学校及び園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行います。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 また、修繕や改修、さらには改築を計画的に実施し、これらに必要な予算をできるだけ平準化するため、大磯町教育施設等長寿命化計画を策定した。		A
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園3歳児保育室マルチエアコン取替修繕、園庭壁面時計修繕、大磯幼稚園外廊下照明器具修繕工事、たかとり幼稚園公共下水道接続工事、非常用電源設置工事、保育園、幼稚園遊具修繕の実施の他、各園で必要な修繕等を実施した。		A
令和3年度 (実績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 また、新型コロナウイルス感染症対策として各小中学校に自動水栓の設置や網戸の設置を行った。		A
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園沐浴室改修修繕、1階ホールサッシアクリル板修繕修繕、大磯幼稚園保育室フローリング他修繕、たかとり幼稚園4歳児保育室手洗修繕、保育園・幼稚園遊具修繕の実施の他、各園で必要な修繕等を実施した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保育園・幼稚園自動水栓設置工事を実施した。		A

		I		
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、大磯町教育施設等長寿命化計画等を踏まえ、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 また、国府小学校非常放送設備工事、大磯中学校3号館トイレの改修工事を行い、校内環境の改善を図った。	A
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園乳児避難用通路整備工事、沐浴室他壁面タイル・天井等補修工事、乳児室・5歳児保育室空調機設置工事、大磯幼稚園1階保育室引き戸等修繕、屋外トイレ修繕、たかとり幼稚園職員室前廊下雨漏り修繕の他、各園で必要な修繕等を実施した。	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、大磯町教育施設等長寿命化計画等を踏まえ、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 主な修繕工事としては、大磯小学校では照明器具更新修繕や家庭科室ロールスクリーン交換修繕、国府小学校では救助袋更新修繕や門扉修繕、大磯中学校では放送室放送設備更新工事や体育館照明更新工事、国府中学校では理科室給湯器交換修繕やテニスコート改修工事などを実施した。 また、学校教育施設整備基本構想を策定し、町立小中学校4校の整備内容及び時期を具体的にロードマップとして示した。	A
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園照明器具LED化交換工事、職員室空調機更新工事、園舎北側屋根等漏水箇所修繕工事、大磯幼稚園窓ガラス修繕、たかとり幼稚園テラス雨樋改修工事の他、各園で必要な修繕等を実施した。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	安全で快適な学校生活を送ることができるよう、大磯町教育施設等長寿命化計画に基づいた施設、設備の維持管理を行うとともに、計画的な整備を行う。	学校施設運営のために必要な保守点検等を行い、大磯町教育施設等長寿命化計画等を踏まえ、施設・設備の修繕等の維持管理を行った。 主な修繕工事としては、大磯小学校では扉や手すりなどの木製建具の修繕や照明器具修繕、国府小学校では教室床の改修や体育館のバレー床金具更新修繕、大磯中学校では体育館鉄棒支柱及び握り棒修繕や3階教室のサッシ修繕、国府中学校では普通教室ロッカー改修工事や非常階段の踊り場補強修繕などを実施した。	A
	子育て支援課	安全で快適な園生活を送ることができるよう、施設、設備の維持管理を行うとともに、総合計画に基づいた計画的な整備を行う。	国府保育園公共下水道接続工事、屋上防水及び外壁等漏水箇所改修工事、給食調理室修繕工事、給水バルブ修繕工事、大磯幼稚園正面玄関門扉戸車交換工事、自動水栓交換工事、保育室空調室内機水漏れ修繕、たかとり幼稚園保育室インターホン設置工事、屋外通路照明灯設置工事、北側敷地防草シート設置工事の他、各園で必要な修繕等を実施した。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

2

事業名	公立幼稚園・公立保育園の在り方についての検討				子育て支援課	
基本目標	I	子どもたちの生きる力を育む環境づくり				
施策の方向	I-I	教育・保育環境の整備				
当初計画						
事業概要	公立幼稚園・保育所の定員の見直し等について検討します。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	公立幼稚園の在り方についての検討			令和6年度の開園をめざして町立幼稚園1園を幼保連携型認定こども園へ移行する計画について検討を行い、対象施設を大磯幼稚園とすること、また手法を民営化による公私連携幼保連携型認定こども園への移行とすることと決定し、事業の方向性を具体化した。		A
令和3年度 (実績)	認定こども園運営法人の公募及び選定の準備			アンケート調査(回答数72件)、大磯幼稚園保護者への意見交換(参加者6名)等を実施し、事業への理解を求めるとともに意見聴取を行い、事業の参考とした。また、設置運営事業者の募集・選定準備を行った。		B

		2	
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	認定こども園運営法人の公募及び選定 認定こども園運営法人による建築設計	認定こども園設置運営事業者選定委員会を開催し、公私連携幼保連携型認定こども園の設置運営事業者を選定した。その後、町長の方針転換に基づき、町立認定こども園整備に向けての準備及び、保護者説明会(参加者32名)を行った。	C
令和5年度 (実績)	町立認定こども園整備工事実施設計業務委託	認定こども園の開園及び待機児童対策について、町立化あるいは民間の力を借りるか、いずれの可能性も排除せずにゼロベースで再検討した結果、認定こども園の早期開園の実現に寄与できる民営化(公私連携幼保連携型認定こども園)で園舎を新設(新築)することを決定し、令和4年度に選定委員会により選定した事業者を設置運営事業者として再選定した。	C
令和6年度 (実績)	設置運営事業者による施設整備準備(新園舎の設計等)	令和9年度の開園をめざして、設置運営事業者と連携し、新園舎の基本設計や国交付金の申請手続き等を進めた。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

3

事業名		保育士、教諭の質の向上（研修、人材育成）		学校教育課／子育て支援課		
基本目標		1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向		1-2	質の高い教育・保育、地域子育て支援			
当初計画						
事業概要		学校教育	教育研究所事業として、特別研究や学校・研究分・個人グループが行う様々な研究を支援し、教育研究の充実を図ります。			
		子育て支援	・質の高い幼児期の教育・保育を推進するために、人材確保に向けた助成事業の実施を図ります。 ・幼稚園教諭及び保育士の質の向上を目指し、各種研修を行い人材育成の充実、処遇改善等を図ります。			
目標値		学校教育	組織的な学校研究への取組実施率100%			
		子育て支援	私立園への補助金交付 継続実施			
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標		実績		評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	教育研究所事業として、特別研究や学校・研究部・個人グループが行うさまざまな研究を支援し、教育研究の充実を図る。		・組織的な園及び学校研究への取組を全ての園、小・中学校にて実施した。 ・研究部及び個人グループが行う研究を支援し、教育研究の充実を図った。		A
	子育て支援課	・保育士就労支援事業交付金制度の導入の検討 ・町立幼稚園及び保育園の職員を対象に、教師としての資質向上を図る研修会を企画、実施。		・保育士就労支援事業交付金制度の導入を検討し、令和3年度実施に向けた制度設計を行った。 ・「ヨガを通して体の歪みや姿勢を整える方法を知ると共に、子どもたちへの指導法を学ぶ」をテーマとし、講師を招き研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止とした。		B*
令和3年度 (実績)	学校教育課	・教育研究所事業として、特別研究や学校・研究部・個人グループが行うさまざまな研究を支援し、教育研究の充実を図る。		・園・学校が教育課題に応じてテーマを設定し、研究を実施して、教職員の資質向上を図った。 ・研究部及び個人グループが行う研究を支援し、教育研究の充実を図った。 ・教育研究所が中心となり、特別研究としてICTの活用とカリキュラムマネジメントについて研究を行った。		A
	子育て支援課	・保育士就労支援事業交付金制度の実施 ・町立幼稚園及び保育園の職員を対象に、教師としての資質向上を図る研修会を企画、実施。		・保育士就労支援事業交付金制度の運用を開始し、保育士2名に対して交付金を交付した。 ・保育の資質向上支援研修として「ヨガを通して体の歪みや姿勢を整える方法を知ると共に、子どもたちへの指導法を学ぶ」等をテーマとし、年3回の研修会を企画、実施した。		A

			3	
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	教育研究所事業として、特別研究や学校・研究部・個人グループが行うさまざまな研究を支援し、教育研究の充実を図る。	・園・学校が教育課題に応じてテーマを設定し、研究を実施して、教職員の資質向上を図った。 ・研究部及び個人グループが行う研究を支援し、教育研究の充実を図った。 ・教育研究所が中心となり、特別研究としてICT活用と接続期のカリキュラムマネジメントについて研究を行った。	A
	子育て支援課	・保育士就労支援事業交付金制度の実施 ・町立幼稚園及び保育園の職員を対象に、教師としての資質向上を図る研修会を企画、実施。	・保育士就労支援事業交付金制度の運用を行った(交付対象者0人)。 ・保育の資質向上支援研修として「乳幼児の病気とケガの対応」等をテーマとし、年3回の研修会を企画、実施した。	B
令和5年度 (実績)	学校教育課	・教育研究所事業として、特別研究や学校・研究部・個人グループが行うさまざまな研究を支援し、教育研究の充実を図る。	・園・学校が教育課題に応じてテーマを設定し、研究を実施して、教職員の資質向上を図った。 ・研究部及び個人グループが行う研究を支援し、教育研究の充実を図った。 ・教育研究所が中心となり、特別研究として幼保小中一貫教育に向けてのカリキュラム・マネジメントと接続期のカリキュラムマネジメントについて研究を行った。	A
	子育て支援課	・保育士就労支援事業交付金制度の実施。制度継続の必要性について検討。 ・町立幼稚園及び保育園の職員を対象に、教師としての資質向上を図る研修会を企画、実施。	・保育士就労支援事業交付金制度の運用を行った(交付対象者7人)。 ・保育の資質向上支援研修として「アプローチカリキュラム等、指導計画やエピソード記録の作成」等をテーマとし、年4回の研修会を企画、実施した。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・教育研究所事業として、特別研究や学校・研究部・個人グループが行うさまざまな研究を支援し、教育研究の充実を図る。	・園・学校が教育課題に応じてテーマを設定し、研究を実施して、教職員の資質向上を図った。 ・研究部及び個人グループが行う研究を支援し、教育研究の充実を図った。 ・教育研究所が中心となり、特別研究としてICT活用と幼保小中一貫教育に向けてのカリキュラム・マネジメントと接続期のカリキュラムマネジメントについて研究を行った。	A
	子育て支援課	・町立幼稚園及び保育園の職員を対象に、教師としての資質向上を図る研修会を企画、実施。	・保育士就労支援事業交付金制度の運用を行った(交付対象者10人)。 ・保育の資質向上支援研修として「最新の乳幼児の病気とケガの対応」、「幼児教育の充実と指導力の一層の向上を目指し、指導方法に係る専門的な知識を学ぶ」をテーマとし、年4回の研修会を企画、実施した。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

4

事業名	魅力ある教育・保育の推進			学校教育課／子育て支援課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-2	質の高い教育・保育、地域子育て支援			
当初計画					
事業概要	学校教育	・大型テレビモニター・タブレットPC等、ICT関連機器を効果的に活用した教育を推進します。 ・小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努めます。 ・学校評議員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かします。			
	子育て支援	・幼稚園、保育所等の子ども同士の交流や幼稚園の教育課程及び保育所の保育指針に基づき、幼児教育を推進します。 ・豊かな心を育むために芸術鑑賞の場を提供します。			
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	・大型テレビモニター・タブレットPC等、ICT関連機器を効果的に活用した教育を推進。 ・小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・学校評議員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かす。	・各校のICT機器の利用状況についてまとめ、教員向けの研修会を実施し、ICT機器が効果的に活用されるように努めた。 ・外国人英語指導助手2名を雇用し、小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努めた。 ・学校評議員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かした。		A
	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・町立幼稚園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供。	・平成26年度に合併60周年事業として実施した幼保交流事業「いそっこフェスティバル」や、芸術鑑賞の場として、人形劇の公演を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止とした。		B*
令和3年度 (実績)	学校教育課	・大型テレビモニター・タブレットPC等、ICT関連機器を効果的に活用した教育を推進。 ・小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・学校評議員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かす。	・教育研究所が中心となり、特別研究としてICTの活用について研究を実施し、その成果を各校で共有して、ICTの活用の推進に努めた。		A
	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・町立幼稚園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供。	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」の内容を変更し、町内年長児童が制作した作品を展示する合同作品展を実施した(参加者8園198名)。 ・町立幼稚園・保育園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供した(参加者3園232名)。		B*

		4		
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・大型テレビモニター・タブレットPC等、ICT関連機器を効果的に活用した教育を推進。 ・小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・学校運営協議会委員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かす。(修正)	・教育研究所が中心となり、ICTの活用について研究を実施し、その成果を各校で共有して、ICTの活用の推進に努めた。 ・外国人英語指導助手2名を雇用し、小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努めた。 ・各校の学校運営協議会において、委員の意見を踏まえた教育目標・教育計画を策定した。	A
	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・町立幼稚園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供。	・町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を開催し、ダンスやかけっこをとおして交流を深めた(参加者8園167名)。 ・町立幼稚園・保育園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供した(参加者3園237名)。	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・大型テレビモニター・タブレットPC等、ICT関連機器を効果的に活用した教育を推進。 ・小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・学校運営協議会委員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かす。(修正)	・教育研究所が中心となり、ICTの活用について研究を実施し、その成果を各校で共有して、ICTの活用の推進に努めた。 ・外国人英語指導助手2名を雇用し、小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努めた。 ・各校の学校運営協議会において、委員の意見を踏まえた教育目標・教育計画を策定した。	A
	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・町立幼稚園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供。	・町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を開催し、ダンスやかけっこをとおして交流を深めた(参加者7園143名。感染症による学級閉鎖のため1園不参加)。 ・町立幼稚園・保育園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供した(参加者3園219名)。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・大型テレビモニター・タブレットPC等、ICT関連機器を効果的に活用した教育を推進。 ・小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・学校運営協議会委員等による外部からの意見を受け、次年度の教育計画に生かす。(修正)	・教育研究所が中心となり、ICTの活用について研究を実施し、その成果を各校で共有して、ICTの活用の推進に努めた。 ・外国人英語指導助手2名を雇用し、小学校での外国語活動を通じて、異文化への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の育成に努めた。 ・各校の学校運営協議会において、委員の意見を踏まえ、教育課題に対し、その方策を模索した。	A
	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・町立幼稚園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供。	・町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を開催し、ワークショップの体験を通じてSDGsの基礎を学びながら各園と交流を深めた(参加者8園128名)。 ・町立幼稚園・保育園の全児童を対象とした芸術鑑賞の場を提供した(参加者3園200名)。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

5

事業名	小人数指導や外部人材の活用				学校教育課
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-2	質の高い教育・保育、地域子育て支援			
当初計画					
事業概要	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援します。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施します。 ・中学校部活動充実のため、地域指導者を活用します。				
目標値	「地域ふれあい学習」協力者延べ2,000人/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・中学校部活動充実のため、地域指導者を活用。			・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援するため、小学校に2名の非常勤講師を配置。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し(延べ672人)、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・小・中学校部活動等の活動充実のため、地域指導者(20人)を活用。	B
令和3年度 (実績)	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・中学校部活動充実のため、地域指導者を活用。			・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援するため、小学校に4名の非常勤講師を配置。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し(延べ702人)、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・小・中学校部活動等の活動充実のため、地域指導者(28人)を活用。	B

		5	
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・中学校部活動充実のため、地域指導者を活用。	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援するため、小学校に5名の非常勤講師を配置。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し(延べ841人)、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・小・中学校部活動等の活動充実のため、地域指導者(25人)を活用。	B
令和5年度 (実績)	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・中学校部活動充実のため、地域指導者を活用。	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援するため、小学校に5名の非常勤講師を配置。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し(延べ653人)、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・小・中学校部活動等の活動充実のため、地域指導者(19人)を活用。	B
令和6年度 (実績)	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・中学校部活動充実のため、地域指導者を活用。	・少人数指導等学習形態を工夫し、基礎・基本の定着を図るとともに、35人学級編成を支援するため、小学校に5名の非常勤講師を配置。 ・豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し(延べ823人)、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。 ・小・中学校部活動等の活動充実のため、地域指導者(従来式13人)・部活動指導員(大磯式11人)を活用。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

6

事業名	職業体験学習などのキャリア教育の推進				学校教育課
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-2	質の高い教育・保育、地域子育て支援			
当初計画					
事業概要	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進します。				
目標値	中学校3年間の学習の中で、全ての生徒が職業体験学習を行う				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進。			将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進。 職場体験については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送った。	B*
令和3年度 (実績)	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進。			将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進した。 職場体験については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送った。	B*

			6	
年 度	年度別事業目標	実績	評価	
令和4年度 (実績)	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進。	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進した。 職場体験については、短時間での見学やインタビューなど、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から工夫して実施した	B	
令和5年度 (実績)	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進。	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進した。 職場体験については、地域コーディネーターの調整等により多様な体験先を開拓することができた。また、見学やインタビューなど、新型コロナウイルス感染症以前の内容に近い形で実施した。	A	
令和6年度 (実績)	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進。	将来の社会的・職業的自立に向けて、一人ひとりの児童生徒が目的を持って学べるようになることを目指し、各校種に応じたキャリア教育を推進した。 職場体験については、地域コーディネーターの調整等により図書館や資料館等、公共施設を中心に多様な体験先を開拓することができた。また、見学やインタビューなど、新型コロナウイルス感染症以前の内容に近い形で実施した。	A	
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

7

事業名		子ども同士の交流		子育て支援課／学校教育課			
基本目標		1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり				
施策の方向		1-3	小学校教育への円滑な移行				
当初計画							
事業概要		子育て	町内の幼稚園、保育所等の年長児が交流する「いそっこフェスティバル」開催など、園や地域の枠を超えた子ども同士の交流を図ります。				
		学校教育課	・幼保小の連携活動の一環として、小学1年生が小学校に入学する予定の幼稚園・保育所等の園児を学校に招待し、学校案内や遊びなどを通じての交流を図ります。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動（「地域ふれあい学習」）を推進していきます。				
目標値		子育て支援	継続実施				
		学校教育課	「地域ふれあい学習」協力者 延べ2,000人/年				
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況		評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	課	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・国府地区 町立幼稚園2園と保育園の3園で合同保育の実施を行う。 ・大磯地区 町立幼稚園と私立保育所の交流を図る。			・平成26年度に合併60周年事業として実施した幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を引き続き実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止とした。 ・国府地区 町立幼稚園1園と保育園の2園で合同保育を実施。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の年長で町立保育園の給食と一緒に食べる交流の実施。		B*
	学校教育課	・幼保小の連携活動の一環として、小学1年生が小学校に入学する予定の幼稚園・保育所の園児を学校に招待し、学校案内や遊びなどを通じての交流を図る。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動（「地域ふれあい学習」）を推進。			・幼保小の連携活動の一環としての園児と児童と交流については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施できなかった。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動（「地域ふれあい学習」）を推進した。		B
令和3年度 (実績)	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・国府地区 町立幼稚園2園と保育園の3園で合同保育の実施を行う。 ・大磯地区 町立幼稚園と私立保育所の交流を図る。			・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」の内容を変更し、町内年長児童が制作した作品を展示する合同作品展を実施した（参加者8園198名）。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の年長で交流会を実施。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の年長で町立保育園の給食と一緒に食べる交流の実施。		B*
	学校教育課	・幼保小の連携活動の一環として、小学1年生が小学校に入学する予定の幼稚園・保育所の園児を学校に招待し、学校案内や遊びなどを通じての交流を図る。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動（「地域ふれあい学習」）を推進。			・幼保小の連携活動の一環としての園児と児童と交流については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施できなかった。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動（「地域ふれあい学習 841人」）を推進した。		B

7				
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・国府地区 町立幼稚園2園と保育園の3園で合同保育の実施を行う。 ・大磯地区 町立幼稚園と私立保育所の交流を図る。	・町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を開催し、ダンスやかけっこをとおして交流を深めた(参加者8園167名)。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の交流会を実施。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の年長で町立保育園の給食と一緒に食べる交流の実施。	B
	学校教育課	・幼保小の連携活動の一環として、小学1年生が小学校に入学する予定の幼稚園・保育所の園児を学校に招待し、学校案内や遊びなどを通じての交流を図る。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動(「地域ふれあい学習」)を推進。	・幼保小の連携活動の一環として、園児と児童が学校案内や遊びなどを通して交流することができた。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動(「地域ふれあい学習 872人」)を推進した。	B
令和5年度 (実績)	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・国府地区 町立幼稚園2園と保育園の3園で合同保育の実施を行う。 ・大磯地区 町立幼稚園と私立保育所の交流を図る。	・町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を開催し、ダンスやかけっこをとおして交流を深めた(参加者7園143名。感染症による学級閉鎖のため1園不参加)。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の交流会を実施。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の年長で町立保育園の給食と一緒に食べる交流の実施。	B
	学校教育課	・幼保小の連携活動の一環として、小学1年生が小学校に入学する予定の幼稚園・保育所の園児を学校に招待し、学校案内や遊びなどを通じての交流を図る。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動(「地域ふれあい学習」)を推進。	・幼保小の連携活動の一環として、園児と児童が学校案内や遊びなどを通して交流することができた。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動(「地域ふれあい学習 653人」)を推進した。	B
令和6年度 (実績)	子育て支援課	・町立と私立、幼稚園と保育園を超えた年長児のふれあい交流を図る。 ・国府地区 町立幼稚園2園と保育園の3園で合同保育の実施を行う。 ・大磯地区 町立幼稚園と私立保育所の交流を図る。	町内の幼保交流事業「いそっこフェスティバル」を開催し、ワークショップの体験を通じてSDGsの基礎を学びながら各園と交流を深めた(参加者8園128名)。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の交流会を実施。 ・国府地区 町立幼稚園と町立保育園の年長で町立保育園の給食と一緒に食べる交流の実施。 大磯地区 町立幼稚園・私立保育園・子ども園との交流会を実施(年長児)	A
	学校教育課	・幼保小の連携活動の一環として、小学1年生が小学校に入学する予定の幼稚園・保育所の園児を学校に招待し、学校案内や遊びなどを通じての交流を図る。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動(「地域ふれあい学習」)を推進。	・幼保小の連携活動の一環として、園児と児童が学校案内や遊びなどを通して交流することができた。 ・学校、家庭、地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」を育むとともに、地域の教育力の再生・充実を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動(「地域ふれあい学習 823人」)を推進した。	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

8

事業名	幼稚園、保育所、小学校のネットワーク強化（円滑な移行）		学校教育課／子育て支援課
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり	
施策の方向	1-3	小学校教育への円滑な移行	

当初計画					
事業概要	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深めます。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所等職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めます。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所等職員が円滑な移行のための連絡会を開催します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他

進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	課	年度別事業目標	実績	評価	
令和2年度 (実績)	学校教育課	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深める。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深める。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	A	
	子育て支援課	相互の教育について理解を深め、幼稚園から小学校へ円滑な移行ができるようにする。	・小学校入学前後の連絡会の実施、就学時情報交換の開催。 ・大磯地区 年長児の小学校給食体験 ・国府地区 園児向けの小学校紹介動画の作成（新型コロナウイルス感染症により小学校との交流事業が実施できなかったため）	B*	
令和3年度 (実績)	学校教育課	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深める。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深める。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	・大磯町教育研究所事業において、接続期のカリキュラムマネジメント研究会を4回実施し、講演会や保育・授業研究を通じて、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	A	
	子育て支援課	相互の教育について理解を深め、幼稚園から小学校へ円滑な移行ができるようにする。	・小学校入学前後の連絡会の実施、就学時情報交換の開催。 ・大磯地区、国府地区 年長児の小学校との交流事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。	B	

				8
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深める。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深める。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	・大磯町教育研究所事業において、接続期のカリキュラムマネジメント研究会を6回実施し、講演会や保育・授業研究を通じて、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	A
	子育て支援課	・相互の教育について理解を深め、幼稚園から小学校へ円滑な移行ができるようにする。	・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。 ・年長児による給食体験の実施。 ・年長児が小学校見学や小学校教員・児童への質問、小学校内の映像視聴により、入学への不安軽減・期待感の高揚を図った。	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深める。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深める。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	・大磯町教育研究所事業において、「接続期のカリキュラムマネジメント研究会」を5回実施し、講演会や保育・授業研究を通じて、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	A
	子育て支援課	・相互の教育について理解を深め、幼稚園から小学校へ円滑な移行ができるようにする。	・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。 ・年長児による給食体験の実施。 ・年長児が小学校見学や小学校教員・児童への質問、小学校内の映像視聴により、入学への不安軽減・期待感の高揚を図った。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・職員間では保育参観や研修会を開催することで、相互の教育について理解を深める。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深める。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	・大磯町教育研究所事業において、「接続期のカリキュラムマネジメント研究会」を実施し、講演会や保育・授業研究を通じて、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。	A
	子育て支援課	・相互の教育について理解を深め、幼稚園から小学校へ円滑な移行ができるようにする。	・小学校教員が保育参観をしたり、幼稚園・保育所職員が小学校の授業を参観したりすることにより、相互の教育について理解を深めた。 ・小学校入学前後に、小学校教員と幼稚園・保育所職員が円滑な移行のための連絡会を開催。 ・年長児による給食体験の実施。 ・年長児が小学校見学や小学校教員・児童への質問、小学校内の映像視聴により、入学への不安軽減・期待感の高揚を図った。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

9

事業名	親同士のコミュニケーション講座			生涯学習課／子育て支援課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-4	家庭教育への支援			
当初計画					
事業概要	幼児から思春期の子どもをもつ保護者及びその家庭を対象とした講座を開催し、子育て中に学習を行うことにより、親としてのあり方を考え家庭教育を実践するきっかけとします。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	生涯学習課	ファミリー教室を年3回開催	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた講座を中止とした。 ・次年度以降に向けた講座準備		B*
	子育て支援課	・子育て講座、母親講座等を24回以上/年開催 ・イクメン講座の開催	・お母さんのためのペアレント・トレーニング8回/年20人 ・母親講座 茶道2期 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 フラワーアレンジメント2回/年 7人 利き脳お片づけ2期1回/年 2人 ・子育て講座「親子で楽しもうリトミック」12回/年121人 ・子育て講座「学べるリトミック」 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・イクメン講座2回/年 4人		B
令和3年度 (実績)	生涯学習課	ファミリー教室を年3回開催	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回予定していた講座のうち1回を中止としたため、1回のみ開催となった。 ファミリー教室Ⅰ「地域の子どもたちの子育て環境・危険予知トレーニング」16人 ・次年度以降に向けた講座準備		B*
	子育て支援課	・子育て講座、母親講座等を24回以上/年開催 ・イクメン講座の開催	・お母さんのためのペアレント・トレーニング8回/年 15人 ・母親講座 茶道2回/年 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 フラワーアレンジメント1回/年 5人 利き脳お片づけ1回/年 6人 ・子育て講座「親子で楽しもうリトミック」18回/年 156人 ・子育て講座「学べるリトミック」 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・イクメン講座2回/年 6人 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた3回の講座を1回中止した。		B*

				9
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	生涯学習課	ファミリー教室を年3回開催。	・ファミリー教室を3回開催した。 「思春期の子どもの行動が示すもの」(参加人数11人)、「中学生体験クッキング」(参加人数11人)、「親子版画体験」(参加人数11人) ・次年度以降に向けた講座準備	A
	子育て支援課	・子育て講座、母親講座等を24回以上/年開催。 ・イクメン講座の開催。	・ペアレントトレーニング 8回/年 26人 ・パパ・ママ講座(母親講座から名称変更) フラワーアレンジメント 2回/年 6人 リラックスヨガ 1回/年 18人 利き脳お片付け 1回/年 10人 フラでリフレッシュ 1回/年 18人 ・子育て講座「親子で楽しもうリトミック」5回/年 83人 子育て講座「学べるリトミック」1回/年 40人 ・土曜日講座(イクメン講座から名称変更) 2回/年 20人	B
令和5年度 (実績)	生涯学習課	ファミリー教室を年3回開催。	・ファミリー教室を1回実施した。 「親子体験みそ作り」(参加者20人)。「親子で学ぶLINE教室」を実施予定であったが、希望者が少なく実施しなかった。 ・次年度以降に向けた講座準備	B
	子育て支援課	・子育て講座、パパ・ママ講座等を24回以上/年開催。(修正) ・土曜日講座の開催	・ペアレントトレーニング 6回/年 17人 ・タッチ・セラピー 2回(4日)/年 28人 ・パパ・ママ講座 フラワーアレンジメント 2回/年 9人 利き脳お片付け 1回/年 4人 フラでリフレッシュ 1回(3日)/年 6人 気分爽快エクササイズ 1回(3日)/年 11人 ・子育て講座 ベビーマッサージ 2回(4日)/年 47人 親子で楽しもうリトミック 3回/年 54人 学べるリトミック 1回/年 19人 土曜日講座 2回/年 24人 ママ&ベビーヨガ 1回(3日)/年 51人 ファミリー・コンサート 1回/年 27人	A
令和6年度 (実績)	生涯学習課	ファミリー教室を年3回開催	・ファミリー教室を2回実施した。 「親子で挑戦!ちょっとむずかしい折り紙」(参加者17人) 「親子で体験!みそ作り」(参加者25人)	B
	子育て支援課	・子育て講座、パパ・ママ講座等を24回以上/年開催 ・土曜日講座の開催	・ペアレントトレーニング 6回/年 28人 ・タッチ・セラピー 2回(4日)/年 30人 ・パパ・ママ講座 フラワーアレンジメント 1回/年 7人 保育士のお話 1回/年 6人 ・子育て講座 家族で出来るお片付け術 1回/年 10人 親子でフラ体験 1回/年 15人 ベビーマッサージ&赤ちゃん体操 2回/年 18人 親子で楽しもうリトミック 3回/年 47人 学べるリトミック 1回/年 25人 みんな楽しい子ども遊び 1回/年 9人 ママ&ベビーヨガ 1回(3日)/年 42人 ファミリーコンサート 1回/年 27人 ファミリーライブ 1回/年 28人	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

10

事業名	町内幼稚園・保育所等における相談環境の整備				子育て支援課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり				
施策の方向	1-4	家庭教育への支援				
当初計画						
事業概要	・町内幼稚園・保育所等において、専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等に、気軽に相談できる環境を整えるなど、社会全体で子育てを支える環境づくりに取り組みます。 ・町立園等に勤務している子育て関係者を対象に、母子保健制度などを学ぶ認定講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していきます。					
目標値	・各子育て関連施設に1人（コーディネーター）配置					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 （実績）	・町内幼稚園・保育所等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。 ・町立園等に勤務している子育て関係者を対象に、母子保健制度などを学ぶ認定講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していく。			・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 3人 たかとり幼稚園 2人 国府保育園 1人 ・講座等については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。		B
令和3年度 （実績）	・町内幼稚園・保育所等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。 ・町立園等に勤務している子育て関係者を対象に、母子保健制度などを学ぶ認定講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していく。			・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 3人 たかとり幼稚園 2人 国府保育園 1人 ・講座等については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。		B*

		10	
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・町内幼稚園・保育所等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。 ・町立園等に勤務している子育て関係者を対象に、母子保健制度などを学ぶ認定講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していく。	・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 4人 たかとり幼稚園 1人 国府保育園 1人 ・職員による「土曜日講座(イクメン講座から名称変更)」の実施 2回/年 20人	B
令和5年度 (実績)	・町内幼稚園・保育所等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。 ・町立園等に勤務している子育て関係者を対象に、母子保健制度などを学ぶ認定講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していく。	・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 3人 たかとり幼稚園 1人 国府保育園 1人 ・職員による「土曜日講座」の実施 2回/年 24人	B
令和6年度 (実績)	・町内幼稚園・保育所等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。 ・町立園等に勤務している子育て関係者を対象に、母子保健制度などを学ぶ認定講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していく。	・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 4人 ・職員による土曜日講座「みんな楽しい子ども遊び」の実施 1回/年 9人	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

11

事業名	乳幼児とのふれあい体験				学校教育課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり				
施策の方向	1-5	子どもの心と体の健康づくり				
当初計画						
事業概要	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、公立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行います。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行う。			中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、実際に中学生が町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行った。		A
令和3年度 (実績)	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行う。			中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行った。町立幼稚園、保育所を訪問しての保育実習は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施できなかった。		B*

		11	
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実 績)	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行う。	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、実際に中学生が町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行った。	A
令和5年度 (実 績)	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行う。	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、実際に中学生が町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行った。	A
令和6年度 (実 績)	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、町立幼稚園、保育所を訪問して保育実習を行う。	中学校の家庭科で乳幼児の心身の発達についての理解を深める学習を行い、実際に中学生が町立幼稚園、保育所を訪問して、自身で作成したおもちゃや絵本を使い、乳幼児とのかかわりの中で、理解を深める学習を行った。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

12

事業名	性に関する正しい知識の啓発			学校教育課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-5	子どもの心と体の健康づくり			
当初計画					
事業概要	・小、中学校では、性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図ります。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・小、中学校において性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図る。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施する。			・小、中学校において性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図った。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施した。	A
令和3年度 (実績)	・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図る。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施する。			・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図った。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施した。	A

				12	
年 度	年度別事業目標	実績	評価		
令和4年度 (実績)	・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図る。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施する。	・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図った。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施した。	A		
令和5年度 (実績)	・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図る。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施する。	・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図った。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施した。	A		
令和6年度 (実績)	・性や性感染症について、保健の指導等により正しい知識の定着を図る。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、性教育の指導を実施する。	・性や性感染症について、実態や予防策の内容を中心に保健の指導等により正しい知識の定着を図った。 ・児童生徒の発達段階に即して指導計画を作成し、養護教諭を中心に男女の性差の内容を中心に性教育の指導を実施した。	A		
評価Cの場合					
未着手の理由と今後の対応等					

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

13

事業名	喫煙や薬物使用の知識啓発				学校教育課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり				
施策の方向	1-5	子どもの心と体の健康づくり				
当初計画						
事業概要	小、中学校において、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組みます。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	小、中学校において、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組む。			小、中学校において、保健の指導等により、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組んだ。		A
令和3年度 (実績)	小、中学校において、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組む。			小、中学校において、保健の指導等により、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組んだ。		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	小、中学校において、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組む。	小、中学校において、保健の指導等により、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組んだ。	A
令和5年度 (実績)	小、中学校において、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組む。	小、中学校において、体育及び保健体育を中心とした指導等により、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組んだ。	A
令和6年度 (実績)	小、中学校において、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組む。	小、中学校において、体育及び保健体育を中心とした指導等により、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育に取り組んだ。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

14

事業名	犯罪に巻き込まれない対策		学校教育課／町民課
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり	
施策の方向	1-5	子どもの心と体の健康づくり	

当初計画				
事業概要	学校教育課	・教職員の防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保を図ります。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努めます。 ・情報モラル教育を実施し、インターネット被害に巻き込まれないようにします。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を開催し、関係諸機関との連携を深めます。		
	町民課	犯罪に巻き込まれないよう、家庭・学校・関係機関等が一体となってモラル教育を行います。		
目標値	学校教育	大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会1回/年		
	町民課	各中学校1回/年(町内全中学校開催)		
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)

進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)			
年度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	・教職員の防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保を図る。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。 ・情報モラル教育を実施し、インターネット被害に巻き込まれないようにする。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を開催し、関係諸機関との連携を深める。	防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保のために、不審者に遭遇した際の対応等を学んだ。 ・各校で通学路点検や集団下校を実施。また、学校安全ボランティアを登用し、校内の安全確保に努めた。 ・各校でインターネット、スマホの取り扱いについての利用教室を実施。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を年2回開催し、関係諸機関との連携を深め、通学路に関する安全確保について協議した。	A
	町民課	犯罪被害未然防止講座等の実施	悪徳商法等の詐欺や犯罪から未然に被害を防ぐため、自治会を対象に消費者被害未然防止講座を実施し(6地区)、犯罪防止に配慮した地域づくりを推進した。	B
令和3年度 (実績)	学校教育課	・教職員の防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保を図る。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。 ・情報モラル教育を実施し、インターネット被害に巻き込まれないようにする。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を開催し、関係諸機関との連携を深める。	・防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保のために、不審者に遭遇した際の対応等を学んだ。 ・各校で通学路点検や集団下校を実施。また、学校安全ボランティアを登用し、校内の安全確保に努めた。 ・各校でインターネット、スマホの取り扱いについての利用教室を実施。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を年2回開催し、関係諸機関との連携を深め、通学路に関する安全確保について協議した。	A
	町民課	犯罪被害未然防止講座等の実施	・悪徳商法等の詐欺や犯罪から被害を未然に防ぐため、自治会を対象にした消費者被害未然防止講座(3地区)と、消費生活講演会を実施した。 ・成年年齢が18歳に引き下げられることにより懸念されている、若年層の消費者被害について、啓発チラシを全戸回覧した(広報11月号)。	B

		14		
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・教職員の防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保を図る。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。 ・情報モラル教育を実施し、インターネット被害に巻き込まれないようにする。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を開催し、関係諸機関との連携を深める。	・防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保のために、不審者に遭遇した際の対応等を学んだ。 ・各校で通学路点検や集団下校等を実施。また、学校安全ボランティアを登用し、校内の安全確保に努めた。 ・各校でインターネット、スマホの取り扱いなど情報モラル教育を授業で実施。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を年2回開催し、関係諸機関との連携を深め、通学路に関する安全確保について協議した。	A
	町民課	犯罪被害未然防止講座等の実施	・悪質商法等の詐欺や犯罪から被害を未然に防ぐため、自治会等を対象にした消費者被害未然防止講座(3地区等)と、消費生活講演会を実施した。また、特殊詐欺や空き巣、点検商法に関する啓発チラシを作成し、税申告会場での配布や全戸回覧(広報3月号)を実施した。 ・成年年齢が18歳に引き下げられることにより懸念されている、若年層の消費者被害について、広報に特集記事を掲載し啓発した(広報5月号)。 ・大磯警察署により、生徒、教職員等を対象にサーバー防犯や薬物乱用防止教室を、国府中学校で5回、大磯中学校で4回開催した。	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・教職員の防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保を図る。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。 ・情報モラル教育を実施し、インターネット被害に巻き込まれないようにする。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を開催し、関係諸機関との連携を深める。	・防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保のために、不審者に遭遇した際の対応等を学んだ。 ・各校で通学路点検や集団下校等を実施。また、学校安全ボランティアを登用し、校内の安全確保に努めた。 ・各校でインターネット、スマホの取り扱いなど情報モラル教育を授業で実施。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を年2回開催し、関係諸機関との連携を深め、通学路に関する安全確保について協議した。	A
	町民課	犯罪被害未然防止講座等の実施	・悪質商法等の詐欺や犯罪から被害を未然に防ぐため、自治会等を対象にした消費者被害未然防止講座(4地区等)と、消費生活セミナーを実施した。また、特殊詐欺や空き巣、点検商法に関する啓発チラシを税申告会場で配布した。 ・大磯警察署により、生徒、教職員等を対象にサーバー防犯や薬物乱用防止教室を、町内中学校で8回開催した。 ・町公式LINEにて、還付金詐欺、点検商法に関する啓発を実施した。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・教職員の防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保を図る。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。 ・情報モラル教育を実施し、インターネット被害に巻き込まれないようにする。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を開催し、関係諸機関との連携を深める。	・防犯安全講習会を実施し、子どもたちの安全確保のために、不審者に遭遇した際の対応等を学んだ。 ・各校で通学路点検や集団下校、避難訓練等を実施。また、保護者や地域のボランティアの方との連携で校内外の安全確保に努めた。 ・各校でインターネット、スマホの取り扱いなど情報モラル教育を授業で実施。 ・「大磯町園児・児童・生徒の防犯安全対策推進委員会」を年2回開催し、関係諸機関との連携を深め、通学路に関する安全確保について協議した。	A
	町民課	犯罪被害未然防止講座等の実施	・悪質商法等の詐欺や犯罪から被害を未然に防ぐため、自治会等を対象にした消費者被害未然防止講座(黒岩地区)で実施した。また、特殊詐欺や空き巣、点検商法に関する啓発チラシを税申告会場で配布した。 ・大磯警察署により、生徒、教職員等を対象にサイバー犯罪防止教室を、町内中学校で1回開催した。 ・町公式LINEやライブビジョンにて、還付金詐欺、点検商法に関する啓発を実施した。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

15

事業名	自殺対策の推進			スポーツ健康課／学校教育課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-5	子どもの心と体の健康づくり			
当初計画					
事業概要	・平成31年3月に策定した「大磯町自殺対策計画」に基づき「いのちの大切さ」を伝える教育を推進します。小学生には、助産師の講話や赤ちゃん人形の抱っこ体験などの「いのちのはなし事業」を、中学生には、がん体験者の講話と保健師の講義により「中学生のがん教育」を実施します。 ・県や学校等と連携し、児童・生徒へのSOSの出し方やSOSの受け止め方に関する教育を推進していきます。				
目標値	各小中学校 1回/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	スポーツ健康課	・小学校において「いのちの大切さ」を伝える教育として助産師の講話や、助産師の講話や赤ちゃん人形の抱っこ体験などによる「いのちのはなし事業」を実施。 ・中学校においてがん体験者の講話による「中学生のがん教育」を実施し、自らの「いのちの大切さ」「周囲のいのちの寄り添い支えとなる」ことについて考える機会を持つ。 ・県や学校等と連携し、児童・生徒へのSOSの出し方やSOSの受け止め方に関する教育を推進。	・町立小学校 2校/2校 1回/年 小学生5年生を対象に「いのちのはなし事業」を実施した。 ・町立中学校 1校/2校 1回/年		A
	学校教育課		・中学校3年生を対象に「がん」に関する講演会を実施した。		A
令和3年度 (実績)	スポーツ健康課	・「いのちの大切さ」を伝える教育として助産師の講話による「いのちのはなし事業」を各小学校(高学年)にて実施。 ・がん体験者の講話による「中学生のがん教育」を実施し、自らの「いのちの大切さ」「周囲のいのちの寄り添い支えとなる」ことについて考える機会を持つ。	・町立小学校 1校/2校 1回/年 小学生6年生を対象に「いのちのはなし事業」を実施した。コロナ感染拡大により、1校は翌年度に移行した。(対象が5年生であるため)		B*
	学校教育課		・中学校3年生を対象に「がん」に関する講演会を実施した。		A

		15		
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	・「いのちの大切さ」を伝える教育として助産師の講話による「いのちのはなし事業」を各小学校(高学年)にて実施。※実施困難時の対応:助産師のメッセージを配布。 ・がん体験者の講話による「中学生のがん教育」を実施し、自らの「いのちの大切さ」「周囲のいのちの寄り添い支えとなる」ことについて考える機会を持つ。	・町立小学校 2校 2回/年 小学生5年生を対象に「いのちのはなし事業」を実施した。コロナ感染拡大により、1校は昨年実施しなかった6年生含めて2学年実施した。	A
	学校教育課		・「がん」に関する講演会は実施できなかったが、道徳の授業や人権教育の中で、命の大切さについて考える機会を持つことができた。	B*
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	・「いのちの大切さ」を伝える教育として助産師の講話による「いのちのはなしの事業」を各小学校(高学年)に実施。※実施困難時の対応:助産師のメッセージを配布。 ・がん体験者の講話による「中学生のがん教育」を実施し、自らの「いのちの大切さ」「周囲のいのちの寄り添い支えとなる」ことについて考える機会を持つ。 ・県や学校等と連携し、児童・生徒へのSOSの出し方やSOSの受け止め方に関する教育を推進。	・町立小学校 2校 2回/年 国府小学校5年生、大磯小学校6年生を対象に「いのちのはなし事業」を実施した。	A
	学校教育課		・中学生を対象に「がん」に関する講演会を実施した。また、道徳の授業や人権教育の中で、命の大切さについて考える機会を持つことができた。 ・県内の相談機関窓口等のポスター及びカードを児童・生徒に配付し、SOSの出し方や相談機関について周知した。 ・学校では年間通じて定期的にアンケートを実施し、児童・生徒のSOSを発信する機会の設定、またそのSOSを受け止めるための面談等を行った。	A
令和6年度 (実績)	スポーツ健康課	・「いのちの大切さ」を伝える教育として助産師の講話による「いのちのはなし事業」を各小学校(高学年)にて実施。※実施困難時の対応:助産師のメッセージを配布。 ・がん体験者の講話による「中学生のがん教育」を実施し、自らの「いのちの大切さ」「周囲のいのちの寄り添い支えとなる」ことについて考える機会を持つ。 ・県や学校等と連携し、児童・生徒へのSOSの出し方やSOSの受け止め方に関する教育を推進。	・町立小学校 2校 分校1校 3回/年 国府小学校5年生、大磯小学校6年生、生沢分校の児童を対象に「いのちのはなし事業」を実施した。 ・町立中学校 2校 2回/年 大磯中学校2年生、国府中学校全生徒を対象に「こころの事業」を実施した。	A
	学校教育課		・中学生を対象に「がん」に関する講演会を2月に実施。国府中全校生徒及び教職員の約350名が参加した。また、道徳の授業や人権教育の中で、命の大切さについて考える機会を持つことができた。 ・県内の相談機関窓口等のチラシ及びカード等を児童・生徒に全員配付もしくは配架し、SOSの出し方や相談機関について周知した。 ・学校では年間通じて定期的にアンケートを実施し、児童・生徒のSOSを発信する機会の設定、またそのSOSを受け止めるための面談等を行った。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

16

事業名	町内幼稚園・保育所等巡回歯磨き指導				子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-5	子どもの心と体の健康づくり			
当初計画					
事業概要	・大磯町歯及び口腔の健康づくり推進条例(平成29年4月制定)に基づき、歯と口腔の健康について学び、歯ブラシ等の使い方の実習を通して、幼児期からの正しい歯磨き習慣の確立を図るため、町内幼稚園・保育所等を歯科衛生士が巡回して園児や職員に歯磨き指導を行います。 ・園と連携し、保護者への歯磨き指導を推進していきます。				
目標値	町内各園等 1回/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	町内幼稚園・保育園等巡回歯磨き指導の実施			町内幼稚園・保育園等 6園/8園、計20回 保護者向け歯磨き指導 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	B
令和3年度 (実績)	町内幼稚園・保育園等巡回歯磨き指導の実施			町内幼稚園・保育園等 6園/8園、計17回 保護者向け歯磨き指導・小学校2校 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	町内幼稚園・保育園等巡回歯磨き指導の実施 ※ 実施困難児の対応:町内幼稚園・保育園等は歯ブラシや チラシを配布、保護者向けは、Zoom開催	町内幼稚園・保育園等 7園/8園、計23回 小学校2校 計7回 保護者向け歯磨き指導 新型コロナウイルス感染拡大 防止のため中止	B*
令和5年度 (実績)	町内幼稚園・保育園等巡回歯磨き指導の実施 ※ 実施困難児の対応:町内幼稚園・保育園等は歯ブラシや チラシを配布、保護者向けは、Zoom開催	町内幼稚園・保育園等 8園/8園、計23回 小学校2校 計7回 保護者向け歯磨き指導 2回	A
令和6年度 (実績)	町内幼稚園・保育園等巡回歯磨き指導の実施 ※ 実施困難児の対応:町内幼稚園・保育園等は歯ブラシや チラシを配布、保護者向けは、Zoom開催	町内幼稚園・保育園等 8園/8園、計23回 小学校2校 計7回 保護者向け歯磨き指導 2回	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今 後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

17

事業名	規則正しい食生活の推進		スポーツ健康課／産業観光課		
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-6	食育の推進			
当初計画					
事業概要	スポーツ	平成29年3月に策定した「けんこうプラン大磯」に基づき、町と関係機関が連携して、家庭・教育・地域などで食に関する講座や地産地消など食からの健康づくりを推進します。 食育・健康づくりに関する情報やサービスを集約し、楽しく効果的に発信することができるよう、食育情報誌「磯食だより」を発行し、食育の普及・啓発に努めます。			
	産業観光	農協と連携して親子農業体験教室を開催し、食育と地産地消の普及啓発を図ります。			
目標値	スポーツ	継続実施			
	産業観光	継続実施			
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	スポーツ健康課	・みんなでクッキング教室実施。 ・情報の発信。	・みんなでクッキング教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。 ・食育情報「おいしく!おかわり!いきいき!そだつ!」のメール配信 年間12回		B*
	産業観光課	・親子農業収穫体験を実施し、食育と地産地消の普及啓発を図る。	・親子農業体験(さつまいも掘り)を実施。親子2組7名参加。		A
令和3年度 (実績)	スポーツ健康課	・みんなでクッキング教室実施。 ・情報の発信。	・みんなでクッキング教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。 ・食育情報「おいしく!おかわり!いきいき!そだつ!」のメール配信 年間12回		B*
	産業観光課	・親子農業収穫体験を実施し、食育と地産地消の普及啓発を図る。	・親子農業体験(さつまいも掘り)を実施。親子12組33名参加。		A

				17
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	情報の発信。(動画作成し、配信)	・みんなでクッキング教室は、調理室が、新型コロナウイルスに関する事務対応の部屋になり場所がなく、中止した。 ・食育情報「おいしく!おかわり!いきいき!そだつ!」のメール配信 年間12回 ・実際に調理を行い、写真や動画撮影を実施した。 ※ 配信は令和5年度予定。	B*
	産業観光課	・親子農業収穫体験を実施し、食育と地産地消の普及啓発を図る。	・親子農業体験(さつまいも掘り)を実施。親子8組18名参加。	A
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	情報の発信。(動画作成し、配信)	・みんなでクッキング教室は、調理室が、新型コロナウイルスに関する事務対応の部屋になり場所がなく、中止した。 ・食育情報「おいしく!おかわり!いきいき!そだつ!」のメール配信 年間12回 ・レシピ動画を作成し町ホームページで公開した。	A
	産業観光課	・親子農業収穫体験を実施し、食育と地産地消の普及啓発を図る。	・親子農業体験(さつまいも掘り)を実施。親子11組31名参加。	A
令和6年度 (実績)	スポーツ健康課	情報の発信。(動画作成し、配信)	・食育情報「おいしく!おかわり!いきいき!そだつ!」のメール配信 年間12回 ・レシピ動画を作成し町ホームページで公開した。	A
	産業観光課	・親子農業収穫体験を実施し、食育と地産地消の普及啓発を図る。	・JA主催の親子農業体験(さつまいも掘り)は、昨年度まで借りていた畑が借りれなくなり、中止となった。	C
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等		令和7年度は、親子農業体験を実施するための代替地を見つけ、同様の事業を実施		

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

18

事業名	食生活に関する講座の開催			スポーツ健康課	
基本目標	1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向	1-6	食育の推進			
当初計画					
事業概要	・2～3歳児、幼稚園児とその保護者を対象に、「混ぜる」「切る」などの調理体験することで、食への関心を高め、みんなで食事をするマナーを学ぶ幼児親子クッキング教室を開催します。 ・小学生の親子を対象に、コミュニケーションを深めながら、食べることの大切さを理解し、基本的な食習慣と自ら健康を考えて食事する力を身につけるための親子クッキング教室を開催します。				
目標値	食育講座8回/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・幼児親子クッキング教室。 ・親子クッキング教室。			新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調理を伴う教室は中止した。	B*
令和3年度 (実績)	・幼児親子クッキング教室。 ・親子クッキング教室。			新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調理を伴う教室は中止した。	B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・幼児親子クッキング教室。 ・親子クッキング教室。 ※実施困難時の対応:レシピを配布	・幼児親子クッキング教室(5回実施、17組39人) ・親子クッキング教室は、調理室が、新型コロナウイルスに関する事務対応の部屋になり場所がなく、中止したが、「磯食だより」に簡単に作れるレシピを掲載し全戸配布した。	B*
令和5年度 (実績)	・幼児親子クッキング教室。 ・親子クッキング教室。 ※実施困難時の対応:レシピを配布	・幼児親子クッキング教室(5回実施、21組48人) ・親子クッキング教室(2回実施、10組23人)	A
令和6年度 (実績)	・幼児親子クッキング教室。 ・親子クッキング教室。 ※実施困難時の対応:レシピを配布	・幼児親子クッキング教室(5回実施、22組49人) ・親子クッキング教室(2回実施、14組28人)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

19

事業名		給食の充実		学校教育課／子育て支援課		
基本目標		1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり			
施策の方向		1-6	食育の推進			
当初計画						
事業概要		学校教育課	・小学校給食への地場産物（県内産）の利用を促進します。 ・中学校給食の再開を目指します。			
		子育て支援	・公立保育所では、集団で食事をする給食の時間を通じて、食べることへの意欲や食べたいもの、好きなものを増やし、仲間と一緒に食べる楽しさを育むように取り組みます。 ・個別のアレルギー対応等、食の安心・安全にも考慮します。			
目標値		学校教育課	小学校給食の地場産物（県内産）の使用割合30%以上			
		子育て支援	継続実施			
区分		新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他
進捗状況		評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	課	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 （実績）	学校教育課	・小学校給食への地場産物（県内産）の利用の促進。 ・中学校給食の再開を目指す。			・小学校給食への地場産物（県内産）の利用を促進した。 地場産物（県内産）使用割合：23.3% ・自校方式による中学校給食の再開に向け、大磯町立中学校給食施設建設準備会を設置し検討を進めた。	B
	子育て支援課	・個別のアレルギー対応等に努める。 ・給食調理作業において衛生管理の徹底に努める。			・栄養管理システムで、町職員（栄養士）により献立表を作成。地場産物の供給、個別のアレルギー対応、栄養バランスのとれた給食提供に努めた。 ・給食調理員の腸内細菌検査を毎月2回、給食調理員1名のノロウイルス検査を月1回実施した。また、食中毒を防ぐため「手洗い」「消毒」「加熱」等衛生管理の徹底に努めた。 ・管理栄養士による園児と保護者を対象にした食育指導を実施した。	A
令和3年度 （実績）	学校教育課	・小学校給食への地場産物（県内産）の利用の促進。 ・中学校給食の再開を目指す。			・小学校給食への地場産物（県内産）の利用を促進した。地場産物（県内産）使用割合：34.4%・自校方式による中学校給食の再開に向け、検討を進めた。	B
	子育て支援課	・個別のアレルギー対応等に努める。 ・給食調理作業において衛生管理の徹底に努める。			・栄養管理システムで、町職員（栄養士）により献立表を作成。地場産物の供給、個別のアレルギー対応、栄養バランスのとれた給食提供に努めた。 ・給食調理員の腸内細菌検査を毎月2回、給食調理員1名のノロウイルス検査を月1回実施した。また、食中毒を防ぐため「手洗い」「消毒」「加熱」等衛生管理の徹底に努めた。	A

				19
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・小学校給食への地場産物(県内産)の利用の促進。 ・中学校給食の再開を目指す。	・小学校給食への地場産物(県内産)の利用を促進した。 - 地場産物(県内産)使用割合:27.8% ・自校方式による中学校給食の再開に向け、学校教育施設整備と関連させ検討を進めるとともに、昼食支援として希望注文制弁当の提供を継続した。	B
	子育て支援課	・個別のアレルギー対応等に努める。 ・給食調理作業において衛生管理の徹底に努める。	・栄養管理システムで、町職員(栄養士)により献立表を作成。地場産物の供給、個別のアレルギー対応、栄養バランスのとれた給食提供に努めた。 ・給食調理員の腸内細菌検査を毎月2回、給食調理員1名のノロウイルス検査を月1回実施した。また、食中毒を防ぐため「手洗い」「消毒」「加熱」等衛生管理の徹底に努めた。	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・小学校給食への地場産物(県内産)の利用の促進。 ・中学校給食の再開を目指す。	・小学校給食への地場産物(県内産)の利用を促進した。 - 地場産物(県内産)使用割合:26% ・自校方式による中学校給食の再開に向け、学校教育施設整備と関連させ検討を進めるとともに、昼食支援として希望注文制弁当の提供を継続した。	B
	子育て支援課	・個別のアレルギー対応等に努める。 ・給食調理作業において衛生管理の徹底に努める。	・栄養管理システムで、町職員(栄養士)により献立表を作成。地場産物の供給、個別のアレルギー対応、栄養バランスのとれた給食提供に努めた。 ・給食調理員の腸内細菌検査を毎月2回、給食調理員1名のノロウイルス検査を月1回実施した。また、食中毒を防ぐため「手洗い」「消毒」「加熱」等衛生管理の徹底に努めた。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・小学校給食への地場産物(県内産)の利用の促進。 ・中学校給食の再開を目指す。	・小学校給食への地場産物(県内産)の利用に努めた。 - 地場産物(県内産)使用割合:21.2% ・自校方式による中学校給食の再開に向け、学校教育施設整備と関連させ検討を進めるとともに、昼食支援として希望注文制弁当の提供を継続した。	B
	子育て支援課	・個別のアレルギー対応等に努める。 ・給食調理作業において衛生管理の徹底に努める。	・栄養管理システムで、町職員(栄養士)により献立表を作成。地場産物の供給、個別のアレルギー対応、栄養バランスのとれた給食提供に努めた。 ・給食調理員の腸内細菌検査を毎月2回、給食調理員1名のノロウイルス検査を月1回実施した。また、食中毒を防ぐため「手洗い」「消毒」「加熱」等衛生管理の徹底に努めた。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

20

事業名	学童保育の推進			子育て支援課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-1	子どもの居場所づくり			
当初計画					
事業概要	・保護者が就労などの理由により昼間家庭にいない小学生に対し、学校の授業終了後等に適切な生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ります。 ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置。			・大磯学童クラブ 145人 ・国府学童クラブ 105人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。	A
令和3年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置。 ・利用児童の増加傾向にあるため子どもの情緒面や安全性に十分な配慮が行き届く体制を目指していく。			・大磯学童クラブ 147人 ・国府学童クラブ 104人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置。 ・児童数の増加に対する対策を検討する。	・大磯学童クラブ 173人 ・国府学童クラブ 111人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。 ・大磯町学童保育所の学年スペースの利用拡充について、大磯小学校と調整を行った。 ・大磯町学童保育運営事業者選定委員会を開催し、令和5年4月1日から運営する事業者の選定を行い、事業者を決定した。	A
令和5年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する。 ・利用児童数の増加に伴い、新たに学童保育実施場所の確保について検討する。	・大磯学童クラブ 177人 ・国府学童クラブ 110人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。 ・大磯町学童保育所の学年スペースの利用拡充について、大磯小学校と調整を行い、環境整備を行った。 ・事業所に対して指導監査を実施し、適切な運営に努めた。	A
令和6年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する。 ・利用児童数の増加に伴い、学童保育実施場所の確保に向けた方向性を決定する。	・大磯学童クラブ 191人 ・国府学童クラブ 112人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置した。 ・大磯町学童保育所の学年スペースの利用拡充について、大磯小学校や学校教育課と調整を行い、環境整備の検討を行った。 ・国府小学校の利用者数の増が見込まれたので、令和7年度からあらたに体育館2階会議室を保育スペースとして確保した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

21

事業名	放課後子ども教室の推進			子育て支援課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-1	子どもの居場所づくり			
当初計画					
事業概要	小学校の敷地内の諸施設や余裕教室などを利用し、安全・安心な子どもの活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともにスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を推進します。				
目標値	実施回数の増加				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	放課後における児童の安全な居場所の確保として、小学校の教室、校庭、体育館などを活用し、地域の方々によるスポーツ、文化活動などの交流や学びの場を提供する。町立小学校2校において放課後子ども教室を実施する。			・大磯小学校 6回 参加人数 157人 ・国府小学校 6回 参加人数 195人 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴う小学校の臨時休業等により開催回数が減少した。また学校再開後は感染拡大予防のため、参加人数を制限し安全を確保しながら事業を実施した。	A
令和3年度 (実績)	放課後における児童の安全な居場所の確保として、小学校の教室、校庭、体育館などを活用し、地域の方々によるスポーツ、文化活動などの交流や学びの場を提供する。町立小学校2校において放課後子ども教室を実施する。			・大磯小学校 12回 参加人数 575人 ・国府小学校 12回 参加人数 621人 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、開催回数を減らし、参加人数を制限し安全を確保しながら事業を実施した。	B*

年 度		年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)		・放課後における児童の安全な居場所の確保として、小学校の教室、校庭、体育館などを活用し、地域の方々によるスポーツ、文化活動などの交流や学びの場を提供する。町立小学校2校において放課後子ども教室を実施する。 ・夏休み中の子どもの居場所について検討する。	・大磯小学校 23回 参加人数 1,241人 ・国府小学校 23回 参加人数 1,268人 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、参加人数を制限し安全を確保しながら事業を実施した。 ・夏休みの子どもの居場所づくりについて「サマースクールおいそ」を2箇所(3日)実施した。	A
令和5年度 (実績)		・放課後における児童の安全な居場所の確保として、小学校の教室、校庭、体育館などを活用し、地域の方々によるスポーツ、文化活動などの交流や学びの場を提供する。町立小学校2校において放課後子ども教室を実施する。 ・夏休み中の子どもの居場所について実施する。	・大磯小学校 25回 参加人数 1,088人 ・国府小学校 26回 参加人数 1,546人 ・夏休みの子どもの居場所づくりについて「サマースクールおいそ」を2箇所(4日)実施した。 - 内容:音楽イベント、スライムづくり体験、学習支援 - 参加者:延べ63名	A
令和6年度 (実績)		・放課後における児童の安全な居場所の確保として、小学校の教室、校庭、体育館などを活用し、地域の方々によるスポーツ、文化活動などの交流や学びの場を提供する。町立小学校2校において放課後子ども教室を実施する。 ・夏休み中の子どもの居場所について実施する。 ・放課後子ども教室と学童保育の一体的な実施を推進する。	・大磯小学校 28回 参加人数 1,171人 ・国府小学校 27回 参加人数 1,475人 ・夏休みの子どもの居場所づくりについて「サマースクールおいそ」を2箇所(6日)実施した。 - 内容:学習支援、体験学習(昔遊び、10円玉で科学実験、漢字で遊ぼう、手すき紙づくり体験) - 参加者:延べ106名	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

22

事業名	全ての子どもの居場所づくりの推進				子育て支援課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり				
施策の方向	2-1	子どもの居場所づくり				
当初計画						
事業概要	・国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」の適切かつ円滑な運営と、本町の実情に応じた効果的な、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の実施に向けて、「大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会」にて検討を進めます。 ・小学校の始業前に学童保育施設などを利用し子どもたちが安全安心に過ごすことができる「朝の居場所」を設けます。					
目標値	・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会 会議2回/年 ・継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	・国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」の適切かつ円滑な運営と、本町の実情に応じた効果的な、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の実施に向けて、「大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会」にて検討を進める。 ・小学校の始業前に学童保育施設などを利用し子どもたちが安全安心に過ごすことができる「朝の居場所」を設ける。			・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会 会議1回(書面会議) ・朝の子どもの居場所づくり事業登録児童数 大磯小学校 参加人数 延べ1,141人 実施日数164日 国府小学校 参加人数 延べ771人 実施日数164日		A
令和3年度 (実績)	・国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」の適切かつ円滑な運営と、本町の実情に応じた効果的な、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の実施に向けて、「大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会」にて検討を進める。 ・小学校の始業前に学童保育施設などを利用し子どもたちが安全安心に過ごすことができる「朝の居場所」を設ける。			・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会 会議2回(うち1回書面会議) ・朝の子どもの居場所づくり事業登録児童数 大磯小学校 参加人数 延べ3,044人 実施日数204日 国府小学校 参加人数 延べ1,610人 実施日数202日		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」の適切かつ円滑な運営と、本町の実情に応じた効果的な、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の実施に向けて、「大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会」にて検討を進める。 ・小学校の始業前に学童保育施設などを利用し子どもたちが安全安心に過ごすことができる「朝の居場所」を設ける。 ・児童数増加に対する対策を検討する。	・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会 会議2回 ・朝の子どもの居場所づくり事業登録児童数 大磯小学校 参加人数 延べ3,601人 実施日数201日 - 国府小学校 参加人数 延べ1,655人 実施日数198日 ・児童数の増加に対応するため、民生委員・児童委員協議会と調整を行った。	A
令和5年度 (実績)	・国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」の適切かつ円滑な運営と、本町の実情に応じた効果的な、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の実施に向けて、「大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会」にて検討を進める。 ・小学校の始業前に学童保育施設などを利用し子どもたちが安全安心に過ごすことができる「朝の居場所」を設ける。 ・児童数増加への対策として、ボランティアの増員を検討する。	・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会 会議2回 ・朝の子どもの居場所づくり事業登録児童数 大磯小学校 参加人数 延べ3,601人 実施日数201日 - 国府小学校 参加人数 延べ1,655人 実施日数198日	A
令和6年度 (実績)	・国が策定した「放課後児童対策パッケージ」に基づき、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の適切かつ円滑な運営を実施にする。 ・「大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会」にて放課後子ども教室と学童保育の一体的実施について検討を進める。 ・小学校の始業前に学童保育施設などを利用し子どもたちが安全安心に過ごすことができる「朝の居場所」を設ける。 ・増加する利用児童に対応するため、ボランティアを増員する。(大磯小学校のみ)	・大磯町新・放課後子ども総合プラン推進委員会 会議1回 ・朝の子どもの居場所づくり事業登録児童数 大磯小学校 参加人数 延べ5,150人 実施日数198日 - 国府小学校 参加人数 延べ4,079人 実施日数199日 - 放課後こども教室について、利用児童の保護者がボランティアに登録するように、一斉受付時などにあわせて周知した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

23

事業名	公園等の整備				都市計画課
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-1	子どもの居場所づくり			
当初計画					
事業概要	・子どもの安全性を確保するために、公園内を明るく保つことや、内外から見通しを良くするため、公園灯周辺の樹木の剪定や生垣の間伐などを実施します。 ・公園遊具の定期点検を実施し、必要な修繕を行うとともに安全な遊具への更新を進めます。				
目標値	・公園・緑地の樹木剪定の実施 ・遊具点検及び修繕1回/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・公園・緑地の樹木の剪定を年間を通して実施する。 ・前年度の公園遊具の安全点検の結果に基づき、修繕が必要な公園遊具の修繕を行う。 ・その後、翌年度に向けて、公園遊具の安全点検を行う。			・37公園、5緑地・緑道の計42箇所の剪定を業務委託により行った。 ・5公園の6遊具の修繕を行った。 ・36公園の遊具の安全点検を行い、5公園で修繕が必要な7遊具の予算計上を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A
令和3年度 (実績)	・公園・緑地の樹木の剪定を年間を通して実施する。 ・前年度の公園遊具の安全点検の結果に基づき、修繕が必要な公園遊具の修繕を行う。 ・翌年度に向けて、公園遊具の安全点検を行い、修繕が必要な遊具について予算計上を行う。			・37公園、5緑地及び緑道の計42箇所の剪定を業務委託により行った。 ・9公園の10遊具の修繕を行った。 ・36公園の遊具の安全点検を行い、12公園で修繕が必要な13遊具の予算計上を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・前年度に引き続き、公園・緑地の樹木の剪定を年間を通して実施する。 ・同じく、不具合な公園遊具の修繕を行い、その後に翌年度修繕を要する遊具の調査を行う。	・40公園、6緑地及び緑道の計46箇所の剪定を業務委託により行った。 ・12公園の13遊具の修繕を行った。 ・37公園の遊具の安全点検を行い、10公園で修繕が必要な12遊具の予算計上を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A
令和5年度 (実績)	・前年度に引き続き、公園・緑地の樹木の剪定を年間を通して実施する。 ・同じく、不具合な公園遊具の修繕を行い、その後に翌年度修繕を要する遊具の調査を行う。 - 馬場公園、なかよし公園の遊具等の施設更新を行う。 - スケートパークの設置に向けた検討を行う。	・43公園、11緑地及び緑道の計46箇所の剪定を業務委託により行った。 ・8公園の9遊具の修繕を行った。 ・35公園の遊具の安全点検を行い、9公園で修繕が必要な10遊具の予算計上を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。 ・馬場公園、なかよし公園の遊具等の施設更新を行った。(新規) ・石神台北公園及び石神台西公園、池田公園のフェンスの更新工事を行った(新規) - スケートパークの設置に向けた検討を引き続き検討していくこととなった。(新規)	A
令和6年度 (実績)	・前年度に引き続き、公園・緑地の樹木の剪定を年間を通して実施する。 ・同じく、不具合な公園遊具の修繕を行い、その後に翌年度修繕を要する遊具の調査を行う。 ・池田公園、大磯運動公園の遊具等の施設更新を行う。 ・大磯町内の公園施設長寿命化計画を策定する。	・43公園、11緑地及び緑道の計54箇所の剪定を業務委託により行った。 ・10公園の10遊具の修繕を行った。 ・37公園の遊具の安全点検を行い、10公園で修繕が必要な13遊具の予算計上を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。 ・池田公園、大磯運動公園の遊具等の施設更新を行った。(新規) ・松原公園及び川尻公園の仮設トイレの更新工事を行った(新規) ・公園施設長寿命化計画を策定した。(新規)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

24

事業名	地域住民との交流事業		子育て支援課／学校教育課／生涯学習課／福祉課
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	
施策の方向	2-2	世代間交流の充実	

当 初 計 画						
事 業 概 要	子育	子育て支援総合センターを中心に地域・年齢を超えたつながりを持ち、相互理解を図るために、ハッピー3世代交流会を実施します。				
	学校	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施します。				
	生涯	子どもたちが豊かな心と社会性を育むために、地域において子どもたちと様々な世代の人が交流できるよう、生涯学習を支援できる人材を確保し、高齢者等との世代間交流活動を推進します。				
	福祉	高齢者の社会参加活動の中で、保育所・幼稚園・小学校などと交流し、世代間の交流を図ります。				
目 標 値	子育	継続実施				
	学校	「地域ふれあい学習」協力者 延べ2,000人/年				
	生涯	人材登録者数100人				
	福祉	継続実施				
区分	新規		継続	拡充	完了 (事業終了)	その他

進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績	評価	
令和2年度 (実績)	子育て	ハッピー3世代交流会の開催。	ハッピー3世代交流会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	B*	
	学校教育	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施(延べ人数672人/年)。	B	
	生涯学習	生涯学習人材登録者数100人。	生涯学習人材登録者数94人。	B	
	福祉課	保育所・幼稚園・小学校などと交流し、世代間の交流を図る。	世代交流センターでの世代交流イベントは新型コロナウイルス感染症の影響で中止 ・シルバー人材センター：通常時は、ボラ菜園・放課後学習・植木剪定・ふれあいバザー参加等の実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止 ・老人クラブ：通常時は、保育園等訪問交流・登下校見守り活動等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止	B*	
令和3年度 (実績)	子育て	ハッピー3世代交流会の開催。	ハッピー3世代交流会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	B*	
	学校教育	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施(延べ人数872人/年)。	B	
	生涯学習	生涯学習人材登録者数100人。	生涯学習人材登録者数78人。	B	
	福祉課	保育所・幼稚園・小学校などと交流し、世代間の交流を図る。	・シルバー人材センター：通常時は、ボラ菜園・放課後学習・植木剪定・ふれあいバザー参加等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止 ・老人クラブ：登下校見守り活動を実施、また通常時は、保育園等訪問交流等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止	B*	

			24	
年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子育て	地域ごとの老人会または近隣住民との小規模且つ短時間の交流会開催	交流会の開催は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止	B*
	学校教育	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施(延べ人数841人/年)。	B
	生涯学習	生涯学習人材登録者数100人。	生涯学習人材登録者数80人。	B
	福祉課	保育所・幼稚園・小学校など的交流し、世代間の交流を図る。	・シルバー人材センター:通常時は、ボラ菜園・放課後学習・植木剪定・ふれあいバザー参加等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止 ・老人クラブ:登下校見守り活動を実施。また、通常時は、保育園等訪問交流等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止	B*
令和5年度 (実績)	子育て	敬老の日にちなんだ親子製作を実施する期間を設ける。	支援センターに来館した親子を対象に、制作物を作成し、さぎんか荘に掲示した。	B
	学校教育	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施(延べ人数653人/年)。	B
	生涯学習	生涯学習人材登録者数100人。	生涯学習人材登録者数82人。	B
	福祉課	保育所・幼稚園・小学校・中学校など交流し、世代間の交流を図る。	・シルバー人材センター:ボラ菜園は土地を地主に返還したため事業廃止。植木剪定・ふれあいバザー参加等は中学・小学校から要請が無く中止 ・老人クラブ:登下校見守り活動を実施。また、通常時は、保育園等訪問交流等を実施しているが、保育園から要請が無く中止	B
令和6年度 (実績)	子育て	敬老の日にちなんだ親子製作を実施する期間を設ける。	支援センターに来館した親子を対象に、制作物を作成し、さぎんか荘に掲示した。	B
	学校教育	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施。	豊富な知識や経験を有する人を指導協力者として依頼し、教育活動の一層の充実を図る「地域ふれあい学習」を実施(延べ人数823人/年)。	B
	生涯学習	生涯学習人材登録者数100人。	生涯学習人材登録者数22人。(県の人材登録システム変更に伴い、要綱改訂及び登録更新を行ったことにより、登録者数が減少)	B
	福祉課	保育所・幼稚園・小学校など交流し、世代間の交流を図る。	・シルバー人材センター:ボラ菜園は土地を地主に返還したため事業廃止。植木剪定・ふれあいバザー参加等は中学・小学校から要請が無く中止 ・老人クラブ:登下校見守り活動を実施。また、通常時は、保育園等訪問交流等を実施しているが、保育園から要請が無く中止	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

25

事業名	青少年指導員活動				生涯学習課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり				
施策の方向	2-2	世代間交流の充実				
当初計画						
事業概要	・地域の青少年の健全育成を図ります。 ・自主事業を企画・実施することにより、地域青少年との交流機会を持ちます。					
目標値	自主事業3回/年					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	自主事業を年2回実施する。			自主事業を1回実施。(デイキャンプ 19人)		B
令和3年度 (実績)	自主事業を年3回実施する。			・自主事業を2回実施。(ナイトミュージアム&ハイク 21人、デイキャンプ 15人) ・中高生向け事業を行っていたが、事業の見直しを図るため、自主事業の一部の開催を中止した。		B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	自主事業を年3回実施する。	自主事業を2回実施。(ナイトハイク&ミュージアム 23人、デイキャンプ 22人) ・中高生向け事業を行っていたが、実施団体である青少年指導員が事業の見直しを行い、実施回数を2回とした。	B
令和5年度 (実績)	自主事業を年3回実施する。	自主事業を3回実施。(ナイトハイク&ミュージアム 26人、デイキャンプ① 19人、デイキャンプ② 4人)	A
令和6年度 (実績)	自主事業を年3回実施する。	自主事業を3回実施。(ナイトハイク&ミュージアム 27人、デイキャンプ① 25人、デイキャンプ② 24人)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

26

事業名		各幼稚園・保育所等や学校におけるスポーツの取組		学校教育課／子育て支援課		
基本目標		2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向		2-3	スポーツ活動の推進			
当初計画						
事業概要		学校教育課	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、児童体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図ります。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図ります。			
		子育て支援課	幼稚園・保育所等において、子どもたちが外遊びに親しめる環境づくりを進め、体力増進を図ります。			
目標値		学校教育課	継続実施			
		子育て支援課	継続実施			
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標		実績		評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図る。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図る。		・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、児童体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図った。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図った。		A
	子育て支援課	子ども達が体をいっぱい使って遊ぶ機会を増やす。		・鬼ごっこやドッジボール、縄跳びなど、発達段階に応じ、戸外でのびのび体を動かして遊ぶ機会を多くもった。 ・ボランティアや地域の方の協力を得て、体操教室を実施。幼保3園交流スポーツ大会・園内マラソン大会なども実施。 ・定期的に身体を動かす運動遊びを取り入れた。		A
令和3年度 (実績)	学校教育課	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図る。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図る。		・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、スポーツ大会や球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図った。 ・小・中学校において、地域指導者(28名)の活用により、部活動等の充実を図った。		A
	子育て支援課	子ども達が体をいっぱい使って遊ぶ機会を増やす。		・鬼ごっこやドッジボール、縄跳びなど、発達段階に応じ、戸外でのびのび体を動かして遊ぶ機会を多くもった。 ・積極的に身体を動かす運動遊びを取り入れた。 ・ボランティアや地域の方の協力を得て、ボール遊びや体操教室を実施。園内マラソン大会なども実施。		A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図る。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図る。	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、スポーツ大会や持久走大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図った。 ・小・中学校において、地域指導者(25名)の活用により、部活動等の充実を図った。	A
	子育て支援課	子ども達が体をいっぱい使って遊ぶ機会を増やす。	・鬼ごっこやドッジボール、縄跳びなど、発達段階に応じ、戸外でのびのび体を動かして遊ぶ機会を多くもった。 ・積極的に身体を動かす運動遊びを取り入れた。 ・ボランティアや地域の方の協力を得て、ボール遊びや体操教室を実施。園内マラソン大会なども実施。	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図る。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図る。	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、スポーツ大会等各園・学校においてスポーツ活動の推進を図った。 ・小・中学校において、地域指導者(19名)の活用により、部活動等の充実を図った。	A
	子育て支援課	子ども達が体をいっぱい使って遊ぶ機会を増やす。	・鬼ごっこやドッジボール、縄跳びなど、発達段階に応じ、戸外でのびのび体を動かして遊ぶ機会を多くもった。 ・積極的に身体を動かす運動遊びを取り入れた。 ・ボランティアや地域の方の協力を得て、ボール遊びや体操教室を実施。園内マラソン大会なども実施。	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、体育委員会主催のスポーツ大会や学年主催の球技大会、ベルマーレのサッカー教室など各園・学校においてスポーツ活動の推進を図る。 ・中学校において、地域指導者の活用により、部活動の充実を図る。	・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、スポーツ大会等各園・学校においてスポーツ活動の推進を図った。 ・中学校において、大磯式部活動を開始し、兼職兼業の教員(26名)と地域の指導者(11名)の派遣を行い、将来の大磯町の文化スポーツ活動の推進を行った。	A
	子育て支援課	子ども達が体をいっぱい使って遊ぶ機会を増やす。	・鬼ごっこやドッジボール、縄跳びなど、発達段階に応じ、戸外でのびのび体を動かして遊ぶ機会を多くもった。 ・積極的に身体を動かす運動遊びを取り入れた。 ・ボランティアや地域の方の協力を得て、ボール遊びや体操教室を実施。園内マラソン大会なども実施。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

27

事業名	スポーツ少年団活動やスポーツ推進委員の活動支援			スポーツ健康課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-3	スポーツ活動の推進			
当初計画					
事業概要	大磯町スポーツ少年団や大磯町スポーツ推進委員協議会の活動を支援することにより、子どもたちのスポーツ活動を推進します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・大磯町の青少年を対象とするスポーツの推進を図るため大磯町スポーツ少年団(柔道・サッカー・ミニバス)の活動に対し補助金を交付。 ・スポーツ推進委員協議会が子ども達を対象にした自主事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣浴」に対し、交付金を交付し活動を支援。			・スポーツ少年団3団体 交付額70,000円。 ・スポーツ推進委員協議会主催事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	B*
令和3年度 (実績)	・大磯町の青少年を対象とするスポーツの推進を図るため大磯町スポーツ少年団(柔道・サッカー・ミニバス)の活動に対し補助金を交付。 ・スポーツ推進委員協議会が子ども達を対象にした自主事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣浴」に対し、交付金を交付し活動を支援。			・スポーツ少年団3団体 交付額70,000円。 ・スポーツ推進委員協議会主催事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・大磯町の青少年を対象とするスポーツの推進を図るため大磯町スポーツ少年団(柔道・サッカー・ミニバス)の活動に対し補助金を交付。 ・スポーツ推進委員協議会が子ども達を対象にした自主事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣泳」に対し、交付金を交付し活動を支援。 ※実施困難時の対応:各種教室の資料を配布。	・スポーツ少年団3団体 交付額70,000円 ・スポーツ推進委員協議会主催事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣泳」、「ウォーキング大会」、「ユニカール大会」を実施した。交付額40,000円。	A
令和5年度 (実績)	・大磯町の青少年を対象とするスポーツの推進を図るため大磯町スポーツ少年団(柔道・サッカー・ミニバス)の活動に対し補助金を交付。 ・スポーツ推進委員協議会が子ども達を対象にした自主事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣泳」に対し、交付金を交付し活動を支援。 ※実施困難時の対応:各種教室の資料を配布。	・スポーツ少年団3団体 交付額70,000円 ・スポーツ推進委員協議会主催事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣泳」、「ウォーキング大会」、「ユニカール大会」を実施した。交付額40,000円。	A
令和6年度 (実績)	・大磯町の青少年を対象とするスポーツの推進を図るため大磯町スポーツ少年団(柔道・サッカー・ミニバス)の活動に対し補助金を交付。 ・スポーツ推進委員協議会が子ども達を対象にした自主事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣泳」に対し、交付金を交付し活動を支援。 ※実施困難時の対応:各種教室の資料を配布。	・スポーツ少年団3団体 交付額70,000円 ・スポーツ推進委員協議会主催事業「親子ボール運動教室」「スノーケリング&着衣泳」、「ウォーキング大会」、「ユニカール大会」を実施した。交付額40,000円。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

28

事業名	スポーツ大会や教室の開催				スポーツ健康課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり				
施策の方向	2-3	スポーツ活動の推進				
当初計画						
事業概要	大磯町体育協会、総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ等と連携してスポーツ教室等を開催し、小・中学生を対象とした活動の場を提供します。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	各種スポーツ教室の開催 ・子ども水泳教室 ・キッズテニス教室 ・リズムDEスポーツ教室 ・かけっこ教室 ・キッズバドミントン教室			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。		B*
令和3年度 (実績)	各種スポーツ教室の開催 ・子ども水泳教室 ・リズムDEスポーツ教室 ・かけっこ教室 ・キッズバドミントン教室 ・スポーツ鬼ごっこ教室 ・ウォーキングサッカー教室			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。		B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	各種スポーツ教室の開催 ・子ども水泳教室 ・リズムDEスポーツ教室 ・かけっこ教室 ・キッズバドミントン教室 ・スポーツ鬼ごっこ教室 ・ウォーキングサッカー教室 ※実施困難時の対応:各種教室の資料を配布。	・子ども水泳教室、リズムDEスポーツ教室、キッズバドミントン教室、ウォーキングサッカー教室を実施した。 ・かけっこ教室、スポーツ鬼ごっこ教室は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	B*
令和5年度 (実績)	各種スポーツ教室の開催 ・子ども水泳教室 ・リズムDEスポーツ教室 ・かけっこ教室 ・キッズバドミントン教室 ・スポーツ鬼ごっこ教室 ・ウォーキングサッカー教室 ※実施困難時の対応:各種教室の資料を配布。	・子ども水泳教室、リズムDEスポーツ教室、キッズバドミントン教室、スポーツ鬼ごっこ教室、ウォーキングサッカー教室を実施した。かけっこ教室はスケジュールが合わず未開催となったが、チャレンジフェスタで走り方を知る教室として実施した。	A
令和6年度 (実績)	各種スポーツ教室の開催 ・子ども水泳教室 ・リズムDEスポーツ教室 ・かけっこ教室 ・キッズバドミントン教室 ・スポーツ鬼ごっこ教室 ・ウォーキングサッカー教室 ※実施困難時の対応:各種教室の資料を配布。	・子ども水泳教室、リズムDEスポーツ教室、キッズバドミントン教室、スポーツ鬼ごっこ教室、ウォーキングサッカー教室を実施した。かけっこ教室は、走り方を知る教室として実施した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

29

事業名	地域の伝承文化に親しむ郷土愛の育成				生涯学習課
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-4	文化・芸術活動の推進			
当初計画					
事業概要	幼稚園・保育所・小学校・中学校から地域の歴史、文化、自然に関する学習指導の依頼があった場合、郷土資料館職員が学習指導を行う。				
目標値	「児童生徒を対象とした学習指導」15回/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・幼稚園・保育園、小学校、中学校から地域の歴史、文化、自然に関する学習指導の依頼があった場合、郷土資料館職員が学習指導を行う。 ・「児童生徒を対象とした学習指導」15回/年			・郷土資料館においての学習指導(郷土資料館の展示見学及び郷土資料を通しての学習指導) 幼稚園・保育園5回、小学生4回、中学生2回 ・学校及び町内各所においての学習指導(郷土資料館の職員派遣による学習指導) 小学生8回、中学生2回 合計21回	A
令和3年度 (実績)	・幼稚園・保育園、小学校、中学校から地域の歴史、文化、自然に関する学習指導の依頼があった場合、郷土資料館職員が学習指導を行う。 ・「児童生徒を対象とした学習指導」15回/年			・郷土資料館においての学習指導(郷土資料館の展示見学及び博物館資料を通しての学習指導) 幼稚園・保育園4回、小学生4回、中学生2回 ・学校及び町内各所においての学習指導(郷土資料館の職員派遣による学習指導) 小学生4回、中学生3回 合計17回	A

29			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・幼稚園・保育園、小学校、中学校から地域の歴史、文化、自然に関する学習指導の依頼があった場合、郷土資料館職員が学習指導を行う。 ・「児童生徒を対象とした学習指導」15回/年	・郷土資料館における学習指導（郷土資料館の展示見学及び博物館資料を通しての学習指導） 幼稚園・保育園4回、小学生4回、中学生2回 ・学校及び町内各所における学習指導（郷土資料館の職員派遣による学習指導） 小学生4回、中学生3回 合計17回	A
令和5年度 (実績)	・幼稚園・保育園、小学校、中学校から地域の歴史、文化、自然に関する学習指導の依頼があった場合、郷土資料館職員が学習指導を行う。 ・「児童生徒を対象とした学習指導」15回/年	・郷土資料館における学習指導（郷土資料館の展示見学及び博物館資料を通しての学習指導） 幼稚園・保育園6回、小学生4回、中学生2回 ・学校及び町内各所における学習指導（郷土資料館の職員派遣による学習指導） 小学生1回、中学生1回 合計14回	B
令和6年度 (実績)	・幼稚園・保育園、小学校、中学校から地域の歴史、文化、自然に関する学習指導の依頼があった場合、郷土資料館職員が学習指導を行う。 ・「児童生徒を対象とした学習指導」15回/年	・郷土資料館における学習指導（郷土資料館の展示見学及び博物館資料を通しての学習指導） 幼稚園・保育園6回、小学生4回、中学生3回 ・学校及び町内各所における学習指導（郷土資料館の職員派遣による学習指導） 小学生1回、中学生1回 合計15回	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

30

事業名		文化・芸術体験の機会の提供		生涯学習課／学校教育課		
基本目標		2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向		2-4	文化・芸術活動の推進			
当初計画						
事業概要		生涯学習課	人材登録制度を活用し、小・中学生を対象とした文化・芸術体験の場を提供します。			
		学校教育課	各学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高めます。			
目標値		生涯学習課	「青少年おもしろ講座」3回/年			
		学校教育課	継続実施			
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標		実績		評価
令和2年度 (実績)	生涯学習課	「青少年おもしろ講座」を年3回開催。		「青少年おもしろ講座」を年1回開催。 (ペットボトルロケット飛ばし18人)		B
	学校教育課	各学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高める。		新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮しながら、各小学校で音楽会を開催した。また芸術鑑賞会を実施することで、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高めた。		A
令和3年度 (実績)	生涯学習課	「青少年おもしろ講座」を年3回開催。		・「青少年おもしろ講座」を年2回開催。 (デジタル絵画体験23人、カードゲームで学ぶSDGs 10人) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為1回中止		B*
	学校教育課	各学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高める。		・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮しながら、各小学校で音楽会を開催した。また芸術鑑賞会を実施することで、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高めた。		A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	生涯学習課	「青少年おもしろ講座」を年3回開催。	・「青少年おもしろ講座」を年5回開催。 (かながわりレー科学教室22人、旧吉田茂邸体験学習9人、デジタル絵画体験20人、ソーラークッカーをつくってみよう!14人、オンラインプラネタリウム7人)	A
	学校教育課	各学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高める。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮しながら、各小学校で音楽会、中学校で合唱祭を開催した。芸術鑑賞会については、各校の行事の精選に伴い、実施しなかった。	B
令和5年度 (実績)	生涯学習課	「青少年おもしろ講座」を年3回開催。	・「青少年おもしろ講座」を年3回開催。 (ソーラースカイツリーを作ろう13人、デジタル絵画体験12人、体験!不思議樹木17人)	A
	学校教育課	学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高める。	各園・各校で音楽会や合唱祭、芸術鑑賞会等を実施し、文化・芸術について関心を高めた。	A
令和6年度 (実績)	生涯学習課	「青少年おもしろ講座」を年3回開催。	・「青少年おもしろ講座」を年3回開催。 (さがせ!ちりめんモンスター13人、ソーラーオルゴールをつくろう20人、デジタル絵画体験22人)	A
	学校教育課	学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高める。	学校で音楽会や合唱コンクールの開催、芸術鑑賞会、文化祭の実施などにより、子どもたちの文化・芸術に対する関心を高めた。	A

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

31

事業名	読書活動の推進		生涯学習課／学校教育課			
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり				
施策の方向	2-4	文化・芸術活動の推進				
当初計画						
事業概要	生涯学習課	・団体貸出の活用や図書館見学等により町の図書館と学校との連携を深めます。また、読んだ本を記録できる読書通帳を小学校新入生に配付します。 ・「子ども読書活動推進計画」に基づき、「おはなし会」「読書案内」等を行い、読書活動を推進します。 ・0歳児とその保護者すべてを対象に、「赤ちゃんと絵本を開く時間の大切さ」などのメッセージを直接伝えながら、絵本の読み聞かせを行い、本やブックリスト、図書館の利用案内等が入った「ブックスタート・バック」を手渡します。 ・事業に協力するボランティアを養成します。 ・「ブックスタート・フォローアップ事業」として0歳児向き及び児童関係図書の充実を図ります。				
	学校	読書活動の推進のため、学校図書館の整備と学校図書館司書の配置の充実を図ります。				
目標値	生涯学習課	・児童書の団体貸出冊数1,500冊/年(R6年度)、団体貸出用児童書の購入冊数100冊/年(R6年度) ・おはなし会参加1,500名/年(R6年度) ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数100冊/年(R6年度)				
	学校教育課	学校図書館の整備と学校図書館司書の配置の充実				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	課	年度別事業目標	実績		評価	
令和2年度 (実績)	生涯学習課	・児童書の団体貸出冊数1,500冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数30冊/年。 ・おはなし会の参加人数1,500人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数50冊/年。	・児童書の団体貸出冊数1,250冊/年 ・団体貸出用児童書の購入冊数23冊/年 ・おはなし会の参加人数295人/年 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数33冊/年		B	
	学校教育課	・読書活動の推進のため、学校図書館の整備とさらなる充実を図る。	・読書活動の推進のため、学校図書館を整備し、4名配置の学校図書館司書の環境充実を図った。 ・授業での学校図書館活用を支援するために、学校図書館司書を通じて関連図書の整備や町図書館との連携を図り、子どもたちへの図書資料の提供を推進した。		A	
令和3年度 (実績)	生涯学習課	・児童書の団体貸出冊数1,500冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数30冊/年。 ・おはなし会の参加人数1,500人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数50冊/年。	・児童書の団体貸出冊数2316冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数27冊/年。 ・おはなし会の参加人数526人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数32冊/年。		B	
	学校教育課	・読書活動の推進のため、学校図書館の整備とさらなる充実を図る。	・読書活動の推進のため、学校図書館を整備し、4名配置の学校図書館司書の環境充実を図った。 ・授業での学校図書館活用を支援するために、学校図書館司書を通じて関連図書の整備や町図書館との連携を図り、子どもたちへの図書資料の提供を推進した。		A	

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	生涯学習課	・児童書の団体貸出冊数1,500冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数60冊/年。 ・おはなし会の参加人数1,500人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数80冊/年。	・児童書の団体貸出冊数2755冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数17冊/年。 ・おはなし会の参加人数591人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数58冊/年。	B
	学校教育課	・読書活動の推進のため、学校図書館の整備とさらなる充実を図る。	・読書活動の推進のため、学校図書館を整備し、各校1名の学校図書館司書の配置を継続した。 ・授業での学校図書館活用を支援するために、学校図書館司書を通じて関連図書の整備や町図書館との連携を図り、子どもたちへの図書資料の提供を推進した。	A
令和5年度 (実績)	生涯学習課	・児童書の団体貸出冊数2,000冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数30冊/年。 ・おはなし会の参加人数650人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数60冊/年。	・児童書の団体貸出冊数3,153冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数13冊/年。 ・おはなし会の参加人数898人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数44冊/年。	B
	学校教育課	・読書活動の推進のため、学校図書館の整備とさらなる充実を図る。	・読書活動の推進のため、学校図書館を整備し、各校1名の学校図書館司書の配置を継続した。 ・授業での学校図書館活用を支援するために、学校図書館司書を通じて関連図書の整備や町図書館との連携を図り、子どもたちへの図書資料の提供を推進した。	A
令和6年度 (実績)	生涯学習課	・児童書の団体貸出冊数1,500冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数100冊/年。 ・おはなし会の参加人数1,500人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数100冊/年。	・児童書の団体貸出冊数2972冊/年。 ・団体貸出用児童書の購入冊数36冊/年。 ・おはなし会の参加人数695人/年。 ・ブックスタート乳児向き貸出用図書の購入冊数18冊/年。	B
	学校教育課	・読書活動の推進のため、学校図書館の整備とさらなる充実を図る。	・読書活動の推進のため、学校図書館を整備し、各校1名の学校図書館司書の配置を継続した。 ・授業での学校図書館活用を支援するために、学校図書館司書を通じて関連図書の整備や町図書館との連携を図り、子どもたちへの図書資料の提供を推進した。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等		—		

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

32

事業名	環境学習の推進			環境課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-5	子どもの健全育成			
当初計画					
事業概要	リサイクルセンターの施設見学コースや環境学習施設を活用し、環境学習を推進します。				
目標値	・各小学校の施設見学 1回／年 ・子供向け体験学習の実施 1回／年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・リサイクルセンター内に設置した見学者コースや環境学習施設を活用し、ごみの減量化や資源化に対する環境学習に取り組む。			・リサイクルセンター3階のごみの減量化や資源化コーナー、1階の環境や再生可能エネルギーに関するコーナーに、リサイクルセンターの施設見学と合わせ25人が来場した。 ・「リサイクルセンター職場体験・リサイクル工作」を実施し、8名の参加があった。 ・大磯町ごみの分別・4R推進ポスターを募集し、12作品の応募があり、リサイクルセンター3階に掲示した。 ・バードコール、森の万華鏡、SDGsサイコロなどを掲示し、環境について知る機会を作り、環境に関するコーナーの充実を図った。 ・各小学校の施設見学は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。	A
令和3年度 (実績)	・リサイクルセンター内に設置した見学者コースや環境学習施設を活用し、ごみの減量化や資源化に対する環境学習に取り組む。			・リサイクルセンター3階のごみの減量化や資源化コーナー、1階の環境や再生可能エネルギーに関するコーナーに、リサイクルセンターの施設見学と合わせ427人が来場した。 ・リサイクルセンターを活用し、オンラインで施設見学・職場体験を実施し、7組14名の参加があった。 ・大磯町ごみの分別・4R推進ポスターを募集し、デジタル部門含め30作品の応募があり、リサイクルセンター3階に掲示した。 ・大磯小学校は4年生、国府小学校は4年・5年生の施設見学を実施した。	A
令和4年度 (実績)	・リサイクルセンター内に設置した見学者コースや環境学習施設を活用し、ごみの減量化や資源化に対する環境学習に取り組む。			・リサイクルセンター3階のごみの減量化や資源化コーナー、1階の環境や再生可能エネルギーに関するコーナーに、リサイクルセンターの施設見学と合わせ332人(※大人85人、子ども247人)が来場した。 ・大磯小学校は4年生、国府小学校は4年生の施設見学を実施した。 ・リサイクルセンター及び平塚市環境事業センターを活用して、「オンライン施設見学・職場体験」を実施し、5組13人の参加があった。 ・「大磯町ごみの分別・4R推進ポスター」を募集し、デジタル部門含め43作品の応募があり、リサイクルセンター3階に掲示した。 ・美化センターフェアが3年ぶりに実施され、親子向けのイベントとして「プラごみ削減!マイタンブラーを作ろう!!」を実施し、50人(※大人22人、子ども28人)の参加があった。 ・美化センターフェアにおいて、ごみの減量化・資源化ブースを作成し、周知啓発を図った。 ・環境学習の一環として夏休み親子環境ワークショップ「大磯の川を観察してみよう」を実施し、7組13人の参加があり、リサイクルセンター1階に掲示した。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和5年度 (実績)	・リサイクルセンター内に設置した見学者コースや環境学習施設を活用し、ごみの減量化や資源化、再生可能エネルギー及び省エネルギーなどの環境学習に取り組む。	・リサイクルセンター3階のごみの減量化や資源化コーナー、1階の環境や再生可能エネルギーに関するコーナーに、リサイクルセンターの施設見学と合わせ286人(※大人66人、子ども220人)が来場した。 ・大磯小学校は4年生、国府小学校は4年生の施設見学を実施した。 ・聖ステパノ学園の4年生(11人)を対象に、ごみの減量化・資源化に関する出前授業を実施した。 ・平成30年(令和元年)度以降、4年ぶりに、大磯町リサイクルセンターと平塚市環境事業センターの施設見学(バスツアー)を実施し、計21人の参加があった。 ・二宮町ウッドチップセンター(剪定枝の処理)や生ごみ処理容器によるごみの減量化・資源化についての内容で、「オンライン施設見学」を実施し、5組11人の参加があった。 ・「大磯町ごみの分別・4R推進ポスター」を募集し、デジタル部門含め32作品の応募があり、リサイクルセンター3階に掲示した。 ・美化センターフェアにおいて、令和5年度から町が実施(参加)した「使用済みペーパーリサイクルプログラム」の関係事業者と連携して、子ども向けのイベントとして「アップサイクルを体験!自分だけの定規を作ろう!」を実施し、54人の参加があった。 ・美化センターフェアにおいて、ごみの減量化・資源化ブースを作成し、周知啓発を図った。 ・美化センターフェアにおいて、関係団体と連携して、親子向けのイベントとして「海洋プラスチックでキーホルダーを作ろう!」を実施し、42人の参加があった。 ・美化センターフェアと併せて、「おうちの断熱やらなきゃ損!DIYで手軽にできる断熱!」をテーマに「エネルギー講演会」を実施し、43人の参加があった。 ・環境学習の一環として夏休み親子環境ワークショップ「大磯の川を観察してみよう」を実施し、8組17人の参加があり、リサイクルセンター1階に掲示した。	A
令和6年度 (実績)	・リサイクルセンター内に設置した見学者コースや環境学習施設を活用し、ごみの減量化や資源化、再生可能エネルギー及び省エネルギーなどの環境学習に取り組む。	・リサイクルセンター3階のごみの減量化や資源化コーナー、1階の環境や再生可能エネルギーに関するコーナーに、リサイクルセンターの施設見学と合わせ300人(※大人56人、子ども244人)が来場した。 ・大磯小学校は4年生、国府小学校は4年生の施設見学を実施した。 ・大磯町リサイクルセンターと平塚市環境事業センターの施設見学(バスツアー)を実施し、計23人の参加があった。 ・「古紙のリサイクル」や「可燃ごみの減量」をテーマに、オンライン施設見学を実施し、3組5人の参加があった。 ・「大磯町ごみの分別・4R推進ポスター」を募集し、一般の部・中学生以下の部合わせて17作品の応募があり、環境フェアにおいて表彰を行い、ごみの減量化・資源化に係る啓発等に活用した。 ・「プラスチックごみの削減」や「海岸美化」に対する意識の醸成・高揚を図るべく、海岸で回収されたマイクロプラスチックを活用したワークショップ・パネル展を実施し、105人の参加があった。 ・「ごみの減量化・資源化」や「食品ロスの削減」の啓発を目的として町主催のイベントへ参加したり、本庁舎でのパネル展を行うなど、町民向けの啓発を実施した。 ・資源循環、食品ロス、エネルギー、自然環境等について、子ども向けに「見て、感じて、体験する」イベントとして環境フェア「宝の山祭」を開催し637人の来場があった。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

33

事業名	人権教育		学校教育課		
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-5	子どもの健全育成			
当初計画					
事業概要	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努めます。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努める。			小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努めた。	A
令和3年度 (実績)	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努める。			小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努めた。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努める。	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努めた。	A
令和5年度 (実績)	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努める。	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努めた。	A
令和6年度 (実績)	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、人権教室や講演会を開催するなど、人権教育の充実に努める。	小、中学校において人権教育研究事業を実施し、いじめ防止に関する研修会を実施、人権や命について考える授業の実施、がん患者の人権を学ぶ講演会など、各校で人権教育の充実に努めた。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

34

事業名	平和学習				総務課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり				
施策の方向	2-5	子どもの健全育成				
当初計画						
事業概要	小学校6年生に、原爆体験談などの講話を実施することで平和に関する意識の高揚を図ります。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	学校6年生を対象に、原爆体験談などの講話を実施。			新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、学校及び講師と実施に向けて実施方法等について調整したが中止とした。		B*
令和3年度 (実績)	小学校6年生を対象に、原爆体験談などの講話を実施。			新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、学校及び講師と実施に向けて、これまでの対面による講話から、Webを利用した方法へと実施方法を変更し調整したが中止した。		B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	小学校6年生を対象に、原爆体験談などの講話を実施。	実施なし	C
令和5年度 (実績)	・小学校6年生を対象に、原爆体験談などの講話を実施。 ・児童が被爆について知り、平和の尊さを考えるきっかけとなる方法について検討する。	小学校6年生を対象に、戦争や原爆についての講話を聞き、命の大切さ、平和について考える機会とするため、平和講話を実施した。 平和講話は、これまでの被爆経験者による講話から、より小学生でも親しみやすい実施方法とするため、平和活動を実施しているナガサキ・ユース代表団の大学生らによる講話へと変更した。 また、町内の被爆経験者による体験等を後世に引き継ぐためのアーカイブ化に向けて、令和6年度の予算措置を行った。	A
令和6年度 (実績)	・小学校6年生を対象に、原爆体験談などの講話を実施。 ・町内の被爆経験者による体験等を後世に引き継ぐためのアーカイブ化を実施する。	実績なし	C
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等	平和講話及び被爆体験記録のアーカイブ化は実施方法の調整がつかず未実施となった。戦後長い年月が経過する中、児童が戦争や原爆について知り、平和の尊さを考えるきっかけとなる機会等、今後の事業展開について検討する。		

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

35

事業名	子どもの意見を反映する機会の充実			政策課	
基本目標	2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり			
施策の方向	2-6	社会参加への支援			
当初計画					
事業概要	子どもの町に対する要望や意見などを聴取し、その意見や提案を町が行う施策や事業に反映するとともに、子どもがまちづくりに参画する意欲の増進を図り、責任ある社会人となるための自覚を促すため、中学校生徒会との意見交換会を開催します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	子どもの町に対する要望や意見などを聴取する機会としての「意見交換会」を開催。			新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を中止した。	B*
令和3年度 (実績)	子どもの町に対する要望や意見などを聴取する機会としての「意見交換会」を開催。			「中学校生徒会と町長の意見交換会」を開催 【開催日】 大磯中学校:令和4年1月18日(火) 国府中学校:新型コロナウイルス感染症の影響により中止 【参加者】:大磯中学校 16名 国府中学校 0名 【テーマ】:「町に住んでいて良いと思うところ」、「町のこれからも大切にしていきたいところ」、「こうすれば町がもっと住みやすくなると思うこと」	B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子どもの町に対する要望や意見などを聴取する機会としての「意見交換会」を開催。	「中学校生徒会と町長の意見交換会」を開催 【開催日】 大磯中学校:新型コロナウイルス感染症の影響により中止 国府中学校:令和5年3月9日(木) 【参加者】:大磯中学校 0名 国府中学校 7名 【テーマ】:フリートーキング 「学校・地域生活において感じていること」など	B*
令和5年度 (実績)	子どもの町に対する要望や意見などを聴取する機会としての「意見交換会」を開催。	「大磯高校1年生への出前授業」を実施 【開催日】令和5年10月30日(月)・12月22日(金) 【参加者】大磯高校1年生 270名 【会 場】大磯高校体育館 【内 容】 10月:大磯町の人口減少対策とその課題、財源対策について講演 12月:10月の講演を踏まえ、学生が地域探訪(町内を実際に歩く)により練り上げた、大磯町の活性化策についてクラス別発表会 ※令和5年10月30日付け「こどもまんなか応援サポーター」就任に伴い、「こどもたちからの意見聴取の機会創出」の取組みとして、令和5年度は新たに高校生との意見交換等を実施した。	A
令和6年度 (実績)	子どもの町に対する要望や意見などを聴取する機会としての「意見交換会」を開催。また、大磯町第五次総合計画後期基本計画策定にあたり、子どもアンケート調査を実施。	○「大磯高校 探究学習発表会」を実施 【開催日】令和6年12月23日 【参加者】大磯高校1年生 約280名 【会 場】大磯高校体育館 【内 容】 大磯町を各クラス4人程度の班になってめぐり、大磯の良いところを発見する。 同時に、大磯をより良くするためにはどのようにすればよいかを考え、班ごとに仮説を立てて探究活動を行い、成果について各クラスで選出した代表の班が発表を行った。 ○「まちづくり(総合計画)に関するこどもアンケート調査」を実施 【対 象】 町立小学校5年生の児童215名 町立中学校2年生の生徒272名 県立大磯高校3粘性の生徒268名 【期 間】 令和6年7月5日(金)から7月19日(金)まで 【内 容】 性別、住まいの地区、今打ち込んでいること、大磯町にできてほしいものなど	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

36

事業名	母子の健康保持、増進（新生児・未熟児訪問）		子育て支援課 （～R5 スポーツ健康課）			
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-1	妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援				
当初計画						
事業概要	妊娠期から出産、子育て期までの子育て支援の充実を図るため、初産婦や未熟児の家庭には助産師等が訪問し、乳児の発育・発達状況、母親の健康管理や育児について保健指導を行います。					
目標値	対象児の全数把握、全数訪問					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績	評価	
令和2年度 （実績）	新生児（第1子）訪問・未熟児訪問			訪問 全数訪問（67件）	A	
令和3年度 （実績）	新生児（第1子）訪問・未熟児訪問			訪問 全数訪問（54件）	A	

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	新生児(第1子)訪問・未熟児訪問	訪問 訪問済47件(対象53件) ※訪問未実施については、辞退1件、転出1件、令和5年度に訪問4件	B
令和5年度 (実績)	新生児(第1子)訪問・未熟児訪問	訪問 訪問済78件(対象80件) ※訪問未実施対象については、転出1件、第2子以降未熟児(経過問題なし)1件	B
令和6年度 (実績)	新生児(第1子)訪問・未熟児訪問	保健師・助産師対応 訪問54件(対象36件) ※うち令和5年出生児の訪問2件、訪問未実施対象については、里帰り出産1件、施設入所1件	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

37

事業名	出産育児不安の解消(情報提供・訪問・子育て講座等)			子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課/子育て支援課)			
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり					
施策の方向	3-1	妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援					
当初計画							
事業概要	スポーツ	妊婦と夫、その家族が安心して妊娠、出産、育児に臨めるように知識を普及するとともに、仲間づくりの機会を提供することを目的に各種講座・教室を開催します。					
	子育て支援	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導します。そのフォローとして、2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」を実施します。 ・父親の育児参加を推進・啓発するなど、ニーズに応じた講座等を開催します。					
目標値	スポーツ	マタニティスクール10回/年(沐浴実習、呼吸法、栄養の講話等)					
	子育て	・こんにちは赤ちゃん事業(乳児全戸訪問事業)訪問率100% ・2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」訪問率100% ・子育て講座「ベビーマッサージ」4回/年 ・健康に関する講座5回/年					
区分	新規		継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)						
年度	課	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	スポーツ健康課	マタニティスクールの実施			教室5回・個別17回 計22回/年		A
	子育て支援課	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100%。 ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年。			・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率87.2% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率91.4% ・子育て講座「ベビーマッサージ」2回/年 ・健康に関する講座2回/年 ・イクメン講座 2回/年		B
令和3年度 (実績)	スポーツ	マタニティスクールの実施			教室9回・個別21回 計30回/年		A
	子育て支援課	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100%。 妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年。			・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率 80.3%・2歳児全戸訪問事業 訪問率 92.2%・子育て講座「ベビーマッサージ」3回/年・健康に関する講座 2回/年・イクメン講座 2回/年 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた講座を1回中止した。		B*

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	マタニティスクールの実施	教室10回・個別8回 計18回/年	A
	子育て支援課	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100%。 ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年。	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率83.3% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率89.3% ・子育て講座「ベビーマッサージ」 3回/年 ・健康に関する講座 6回/年 ・土曜日講座(イクメン講座から名称変更) 2回/年	B
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	マタニティスクールの実施	教室10回・個別6回 計16回/年	A
	子育て支援課	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100%。 ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座や土曜日講座の開催 10回以上/年。	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率86.4% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率92.5% ・子育て講座「ベビーマッサージ」 2回/年 ・健康に関する講座 7回/年 ・土曜日講座 2回/年	B
令和6年度 (実績)	子育て支援課	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100%。 ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座や土曜日に開催する講座 10回以上/年 ・マタニティスクールの実施	・マタニティスクール 教室9回・個別8回 計17回/年 ・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率86.5% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率96.5% ・子育て講座「ベビーマッサージ&赤ちゃん体操」 2回/年 18人 ・健康に関する講座 8回/年 ・土曜日に開催した講座 4回/年	B

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

38

事業名	不妊等への支援		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)			
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-1	妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援				
当初計画						
事業概要	子どもを持つことを望み、不妊・不育治療を必要とする夫婦が安心して治療を受けられるよう、治療費助成や情報提供、相談体制の充実に努めます。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績	評価	
令和2年度 (実績)	・特定不妊治療費助成の実施 ・不育症治療費助成の実施。			・特定不妊治療費助成 15件 ・不育症治療費助成 1件	A	
令和3年度 (実績)	・特定不妊治療費助成の実施 ・不育症治療費助成の実施。			・特定不妊治療費助成 23件 ・不育症治療費助成 1件	A	

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・特定不妊治療費助成の実施 ・不育症治療費助成の実施。	・特定不妊治療費助成 16件 ・不育症治療費助成 1件	A
令和5年度 (実績)	・特定不妊治療費助成の実施 ・不育症治療費助成の実施。	・特定不妊治療費助成 0件 (神奈川県不妊に悩む方への特定不妊治療費助成事業が終了したため) ・不育症治療費助成 0件	B
令和6年度 (実績)	・不育症治療費助成の実施。	・不育症治療費助成 0件	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

39

事業名	乳幼児健診、予防接種の推進				子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-1	妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援			
当初計画					
事業概要	・乳幼児の発育・発達を確認するとともに、育児不安の解消や育児支援も含めて子どもと保護者が心身ともに健康に生活することを目指して、乳幼児を対象とした各種健康診査、健康相談を実施し、健診結果によりフォロー教室やこども発達相談を勧奨します。各種健康診査の結果、疾病や障がい疑われ精密検査が必要とされた場合には、精密検査受診券を発行し受診結果を把握していきます。 ・身近な医療機関で予防接種についての相談や接種ができるように医療機関、教育機関等と連携を図り、予防接種の意義や接種時期等、正しい予防接種の知識を保護者に提供し接種率の向上を図り、免疫水準を確保することで感染症の発生及びまん延を予防します。				
目標値	・乳幼児健診受診率100% ・予防接種率100%				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・乳幼児健康診査の実施 ・予防接種の実施			・4か月児健診 162人 100% ・8～10か月児健診 144人 92.9% ・1歳6か月児健診 174人 97.8% ・2歳児歯科健診 186人 83.8% ・3歳児健診 224人 90.7% ・麻疹風しん予防接種(第2期) 213人 92.6%	B
令和3年度 (実績)	・乳幼児健康診査の実施 ・予防接種の実施			・4か月児健診 137人 95.1% ・8～10か月児健診 125人 96.2% ・1歳6か月児健診 138人 99.3% ・2歳児歯科健診 163人 91.6% ・3歳児健診 206人 88.4% ・麻疹風しん予防接種(第2期) 207人 87.7%	B

年 度		年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)		・乳幼児健康診査の実施 ・予防接種の実施	・4か月児健診 150人 100% ・8～10か月児健診 142人 94.0% ・1歳6か月児健診 164人 99.4% ・2歳児歯科健診 157人 88.2% ・3歳児健診 190人 99.0% ・麻しん風しん予防接種(第2期) 205人 85.8%	B
令和5年度 (実績)		・乳幼児健康診査の実施 ・予防接種の実施	・4か月児健診 129人 100.0% ・8～10か月児健診 133人 93.7% ・1歳6か月児健診 170人 98.3% ・2歳児歯科健診 157人 96.3% ・3歳児健診 177人 100.0% ・麻しん風しん予防接種(第2期) 215人 91.5%	B
令和6年度 (実績)		・乳幼児健康診査の実施 ・予防接種の実施	・4か月児健診 103人 98.1% ・8～10か月児健診 131人 92.9% ・1歳6か月児健診 132人 97.8% ・2歳児歯科健診 161人 95.8% ・3歳児健診 174人 96.7% ・麻しん風しん予防接種(第2期) 207人 88.1%	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

40

事業名	母子の健康保持、増進（産後ケア事業）				子育て支援課 （～R5 スポーツ健康課）	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-1	妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援				
当初計画						
事業概要	出産直後の育児不安や育児疲れなどがある産婦には、助産師による母子への産後ケア事業を進めています。 また、授乳や育児方法などの相談を行います。					
目標値	・デイサービス型実施施設数1か所 ・アウトリーチ型 対象家庭への訪問率100% ・宿泊型実施施設数1か所					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 （実績）	産後ケア事業 デイサービス型の実施 アウトリーチ型の実施 宿泊型の実施			産後ケア事業 デイサービス型実施施設数 1か所 アウトリーチ型訪問数/年 26件(100%) 宿泊型実施施設数 0か所		A
令和3年度 （実績）	産後ケア事業 デイサービス型の実施 アウトリーチ型の実施 宿泊型の実施			産後ケア事業 デイサービス型実施施設数 1か所 アウトリーチ型訪問数/年 延べ20件(80%)（申請 10家庭中8家庭訪問済）※令和4年度進捗管理時 修正 宿泊型実施施設数 1か所		A

			40
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	産後ケア事業 デイサービス型の実施 アウトリーチ型の実施 宿泊型の実施	産後ケア事業 デイサービス型実施施設数 1か所 アウトリーチ型訪問数/年 延べ34件(80%) (申請 10家庭中8家庭訪問済) 宿泊型実施施設数 1か所	B
令和5年度 (実績)	産後ケア事業 デイサービス型の実施 アウトリーチ型の実施 宿泊型の実施	産後ケア事業 デイサービス型実施施設数 1か所 アウトリーチ型訪問数/年 延べ45件(40%) (申請 15家庭中6家庭訪問済) 宿泊型実施施設数 1か所	B
令和6年度 (実績)	産後ケア事業 デイサービス型の実施 アウトリーチ型の実施 宿泊型の実施	産後ケア事業 デイサービス型実施施設数 3か所 アウトリーチ型訪問数/年 延べ35件(56%) (申請 18家庭中10家庭訪問済) 宿泊型実施施設数 2か所	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

41

事業名	利用者支援事業（母子保健型）				子育て支援課 （～R5 スポーツ健康課）	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-1	妊娠、出産から子育てまで切れ目ない支援				
当初計画						
事業概要	子育て世代包括支援センターを開設し、産前・産後における相談や妊娠中からの切れ目ない支援に対応する母子保健コーディネーターを配置し、母子健康手帳の交付時の保健指導やマイプラン(利用計画)の作成、妊産婦健診や産前産後の電話等での状況確認により、妊産婦や子育て家庭の個別ニーズを把握した上で、きめ細かく支援するとともに、リスクの高い妊産婦については支援プランを策定し、必要に応じて母子保健を中心としたネットワークや医療機関等と連携を図ります。					
目標値	・妊産婦の全数把握 ・子育て世代包括支援センター 1か所 ・妊婦健康診査受診率100%					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B＊（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 （実績）	子育て世代包括支援センターの設置 母子健康手帳の交付			・母子健康手帳の交付数 153件 全数把握 ・子育て世代包括支援センター1か所 ・妊婦健康診査 135件（97.8%）		B
令和3年度 （実績）	子育て世代包括支援センターの設置 母子健康手帳の交付			・母子健康手帳の交付数 144件 全数把握 ・子育て世代包括支援センター1か所 ・妊婦健康診査 139件（96.5%）		B

				41
年 度	年度別事業目標	実績	評価	
令和4年度 (実績)	子育て世代包括支援センターの設置 母子健康手帳の交付	・母子健康手帳の交付数 129件 全数把握 ・子育て世代包括支援センター1か所 ・妊婦健康診査 122件(94.5%)	B	
令和5年度 (実績)	子育て世代包括支援センターの設置 母子健康手帳の交付	・母子健康手帳の交付数 106件 全数把握 ・子育て世代包括支援センター1か所 ・妊婦健康診査 162件(100.0%)	B	
令和6年度 (実績)	子育て世代包括支援センターの設置 母子健康手帳の交付	・母子健康手帳の交付数 113件 全数把握 ・妊婦健康診査 104件(99.0%) ・こども家庭センター1か所	B	
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

42

事業名	救急医療の確保				スポーツ健康課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-2	医療体制の充実				
当初計画						
事業概要	休日、夜間の急患、診療体制を確保していきます。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	休日、夜間の急患、診療体制を確保			・二宮町と共同して、在宅当番医制事業を中郡医師会に委託し、休日昼間(9時～12時、14時～17時)の初期救急体制を確保。 ・東海大学大磯病院に交付金を支出し夜間(17時から22時)の一次救急医療を確保。 ・平塚市、二宮町と共同で、休日及び土曜昼夜と平日夜間の二次救急医療を確保。		A
令和3年度 (実績)	休日、夜間の急患、診療体制を確保			・二宮町と共同して、在宅当番医制事業を中郡医師会に委託し、休日昼間(9時～12時、14時～17時)の初期救急体制を確保。 ・東海大学大磯病院に交付金を支出し夜間(17時から22時)の一次救急医療を確保。 ・平塚市、二宮町と共同で、休日及び土曜昼夜と平日夜間の二次救急医療を確保。		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	休日、夜間の急患、診療体制を確保	・二宮町と共同して、在宅当番医制事業を中郡医師会に委託し、休日昼間(9時～12時、14時～17時)の初期救急体制を確保。 ・東海大学大磯病院(令和4年4月～令和5年2月)及び湘南大磯病院(令和5年3月)に交付金を支出し夜間(17時から23時)の一次救急医療を確保。 ・平塚市、二宮町と共同で、休日及び土曜昼夜と平日夜間の二次救急医療を確保。	A
令和5年度 (予定)	休日、夜間の急患、診療体制を確保	・二宮町と共同して、在宅当番医制事業を中郡医師会に委託し、休日昼間(9時～12時、14時～17時)の初期救急体制を確保。 ・湘南大磯病院に交付金を支出し夜間(17時から23時)の一次救急医療を確保。 ・平塚市、二宮町と共同で、休日及び土曜昼夜と平日夜間の二次救急医療を確保。	A
令和6年度 (実績)	休日、夜間の急患、診療体制を確保	・二宮町と共同して、在宅当番医制事業を中郡医師会に委託し、休日昼間(9時～12時、14時～17時)の初期救急体制を確保。 ・湘南大磯病院に交付金を支出し夜間(17時から23時)の一次救急医療を確保。 ・平塚市、二宮町と共同で、休日及び土曜昼夜と平日夜間の二次救急医療を確保。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

43

事業名	妊婦健康診査		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)		
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-2	医療体制の充実			
当初計画					
事業概要	すこやかな妊娠と出産のため、妊娠中に受ける妊婦健康診査(14回分)の費用補助を行い、確実な受診を勧めます。また、産科医療機関との連携窓口となり、健診結果等からフォローが必要とされる場合には、対応します。				
目標値	受診率100%				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	受診率100%。			・母子手帳交付数(4～3月)153件 ・妊婦健康診査146人 ・受診率95.4%	B
令和3年度 (実績)	受診率100%。			・母子手帳交付数(4～3月)144件 ・妊婦健康診査139人 ・受診率96.5%	B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	受診率100%。	・母子手帳交付数(4～3月)129件 ・妊婦健康診査122人 ・受診率94.5%	B
令和5年度 (実績)	受診率100%。	・母子手帳交付数(4～3月)106件 ・妊婦健康診査103人 ・受診率98.1%	B
令和6年度 (実績)	受診率100%。	・母子健康手帳の交付数113件 全数把握 ・妊婦健康診査 104件(99.0%) ・こども家庭センター1か所	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

44

事業名	周産期・小児医療の確保				スポーツ健康課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-2	医療体制の充実				
当初計画						
事業概要	平成22年4月以来、休止となっている東海大学医学部附属大磯病院の産科の再開を含め、周産期・小児の医療体制の確保に努めます。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	平成22年4月以来、休止となっている東海大学医学部附属大磯病院の産科の再開を含め、周産期・小児の医療体制の確保に努める。			産科再開も含め、病院長・事務部長等と連絡調整を続けている。		B
令和3年度 (実績)	平成22年4月以来、休止となっている東海大学医学部附属大磯病院の産科の再開を含め、周産期・小児の医療体制の確保に努める。			産科再開も含め、病院長・事務部長等と連絡調整を続けたが、業務終了の報告があった。		B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	東海大学医学部附属大磯病院の業務終了(令和5年2月末)の報告を受けたことを踏まえ、別途、新たに令和5年3月から事業継承する湘南大磯病院も含め、産科、周産期・小児の医療体制の確保に努める。	産科、周産期・小児の医療体制の確保に向けて調整を続けた。事業継承する湘南大磯病院では小児科が開設されている。	B
令和5年度 (実績)	東海大学医学部附属大磯病院の業務終了(令和5年2月末)の報告を受けたことを踏まえ、別途、新たに令和5年3月から事業継承する湘南大磯病院も含め、産科、周産期の医療体制の確保に努める。	産科、周産期の医療体制の確保に向けて調整を続けた。	B
令和6年度 (実績)	東海大学医学部附属大磯病院の業務終了(令和5年2月末)の報告を受けたことを踏まえ、別途、新たに令和5年3月から事業継承する湘南大磯病院も含め、産科、周産期の医療体制の確保に努める。	産科、周産期の医療体制の確保に向けて調整を続けた。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

45

事業名	新生児聴覚検査		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)		
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-2	医療体制の充実			
当初計画					
事業概要	出産直後の聴覚検査を促すことで、言語などの発達の遅れにつながりかねない「先天性難聴」を早期に発見し、その影響を最小限に抑えるための新生児聴覚検査への助成制度の導入を推進していきます。				
目標値	受診率100%				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	受診率100%			・出生数(10～3月)81件 ・新生児聴覚検査(10～3月)54件 ※10月事業開始 ・受診率66.7%	B
令和3年度 (実績)	受診率100%			・出生数(4～3月)139件 ・新生児聴覚検査(4～3月)123件 ・受診率88.4%	B

年 度		年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)		受診率100%	・出生数(4~3月)124件 ・新生児聴覚検査(4~3月)103件 ・受診率83.0%	B
令和5年度 (実績)		受診率100%	・出生数(4~3月)135件 ・新生児聴覚検査(4~3月)113件 ・受診率83.7%	B
令和6年度 (実績)		受診率100%	・出生数(4~3月)98件 ・新生児聴覚検査(4~3月)82件 ・受診率83.7%	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

46

事業名	産婦健康診査		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)			
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-2	医療体制の充実				
当初計画						
事業概要	出産後間もない時期の産婦の心と体の健康保持やうつ病の予防等、出産後の切れ目ない支援のため、産後健康診査の費用補助を行い、確実な受診を勧めていきます。また、産科医療機関との連携により、健診結果等からフォローが必要とされる場合には、速やかに対応します。					
目標値	受診率100%					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績	評価	
令和2年度 (実績)	受診率100%			・出生数(10～3月)81件 ・産婦健康診査(10～3月)54件 ※10月事業開始 ・受診率 66.6%	B	
令和3年度 (実績)	受診率100%			・出生数(4～3月)139件 ・産婦健康診査(4～3月)110件 ・受診率 79.1%	B	

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	受診率100%	・出生数(4~3月)124件 ・産婦健康診査(4~3月)91件 ・受診率 73.4%	B
令和5年度 (実績)	受診率100%	・出生数(4~3月)135件 ・産婦健康診査(4~3月)122件 ・受診率 90.3%	B
令和6年度 (実績)	受診率100%	・出生数(3~2月)94件※ ・産婦健康診査(4~3月)88件 ・受診率 93.6% ※ 産婦健診は、産後1か月ごろに受診するため、令和6年度から出生数を前年度の3月から対象年度の2月までに変更	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

47

事業名	歯と口腔の健康づくり		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課)			
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-2	医療体制の充実				
当初計画						
事業概要	・妊娠中に発症しやすい歯科疾患及び規則的な歯磨き習慣について、妊婦が適切な知識を得るとともに口腔の健康を保ち、生まれてくる子どもの健康な歯づくりや妊婦の口腔衛生向上を図るために、妊婦歯科健診を無料で行います。また、産後1年以内の産婦に対しても産婦歯科健診を無料で行います。 ・2歳児歯科健診では、う蝕の有無及びう蝕の多発が予測される背景の確認や歯磨き指導、食事やおやつの相談等のほか、希望者には新たに子どものむし歯予防に有効なフッ素塗布体験を実施することで、子どもの歯と口腔の健康保持に努めます。					
目標値	・継続実施 ・2歳児歯科健診受診率100%					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績	評価	
令和2年度 (実績)	2歳児歯科健診の実施			186人、受診率83.8%	B	
令和3年度 (実績)	2歳児歯科健診の実施			163人、受診率91.6%	B	

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	2歳児歯科健診の実施	157人、受診率88.2%	B
令和5年度 (実績)	2歳児歯科健診の実施	157人、受診率96.3%	B
令和6年度 (実績)	2歳児歯科健診の実施	161人、受診率95.8%	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

48

事業名	児童手当の支給			子育て支援課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-3	経済的な支援			
当初計画					
事業概要	子育て家庭における生活の安定と次代の社会をになう児童の健全な育成、資質の向上を図るため、児童手当法により、中学校3年生以下の児童を養育している人に手当を支給します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	家庭における生活の安定と次代の社会を担う児童の健全な育成、資質の向上を目的として、児童を養育している人に手当を支給する。			・対象延べ児童数:40,712人 ・支給額:415,975,000円	A
令和3年度 (実績)	家庭における生活の安定と次代の社会を担う児童の健全な育成、資質の向上を目的として、児童を養育している人に手当を支給する。			・対象延べ児童数:39,795人 ・支給額:406,400,000円	A

			48
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	家庭における生活の安定と次代の社会を担う児童の健全な育成、資質の向上を目的として、児童を養育している人に手当を支給する。	・対象延べ児童数:37,316人 ・支給額:388,555,000円 ※ 制度改正により令和4年6月分から所得の上限限度額の設定あり	A
令和5年度 (実績)	家庭における生活の安定と次代の社会を担う児童の健全な育成、資質の向上を目的として、児童を養育している人に手当を支給する。	・対象延べ児童数:35,409人 ・支給額:371,460,000円	A
令和6年度 (実績)	家庭における生活の安定と次代の社会を担う児童の健全な育成、資質の向上を目的として、児童を養育している人に手当を支給する。 ・制度改正に対応するため、システム改修及び新規対象者への周知を徹底する。	・対象延べ児童数:37,308人 (うち高校生2,761人) ・支給額:423,145,000円 令和6年10月の制度改正により、高校生までを対象として、各種届出の処理等を行った。また、第3子認定児童の届出の処理等を行った。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

49

事業名	こども医療費の助成(～R5 小児医療費の助成)				子育て支援課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-3	経済的な支援				
当初計画						
事業概要	小学生までの児童の入院及び通院に係る医療費と中学生の児童の入院に係る医療費を助成し、病気の早期発見と治療を促進し、児童の保健及び福祉の向上と増進を図ります。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	令和2年10月から、通院の助成対象を小学校卒業までであったものを中学生卒業まで引上げ、さらに1歳以上の所得制限を撤廃し、医療費の一部助成対象者の拡充し、病気の早期発見と治療を促進することで、児童の保健及び福祉の向上と増進を図る。			対象児童数:3,627人 支給額:60,714,817円 令和2年10月から所得制限を撤廃し、対象年齢を引き上げることで医療費助成の充実を図った。		A
令和3年度 (実績)	中学生までの児童の入院及び通院に係る医療費を助成し、病気の早期発見と治療を促進し、児童の保健及び福祉の向上と増進を図る。			対象児童数:3,597人 支給額:82,007,552円 拡充後の医療費推移を注視するとともに、さらなる医療費助成の充実に向け近隣市町村の動向を確認した。		A

年 度		年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)		中学生までの児童の入院及び通院に係る医療費を助成し、病気の早期発見と治療を促進し、児童の保健及び福祉の向上と増進を図る。	対象児童数:3,527人 支給額:79,365,198円 令和5年度から18歳(高校修了)までに助成対象を拡充することに伴い、準備を行った。	A
令和5年度 (実績)		高校生までの児童の入院及び通院に係る医療費を助成し、病気の早期発見と治療を促進し、児童の保健及び福祉の向上と増進を図る。	対象児童数:4,229人 支給額:112,645,001円 令和5年度から18歳(高校修了)までに助成対象を拡充した。	A
令和6年度 (実績)		高校生までの児童の入院及び通院に係る医療費を助成し、病気の早期発見と治療を促進し、児童の保健及び福祉の向上と増進を図る。	対象児童数:4,084人 支給額:115,326,195円	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等		—		

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

50

事業名	養育医療		子育て支援課		
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-3	経済的な支援			
当初計画					
事業概要	病院または診療所に入院することを必要とする未熟児（出生体重2000g以下の乳児、または指定医療機関の医師が養育医療の対象と認めた乳児）に対し、その養育に必要な医療を助成します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 （実績）	病院または診療所に入院することを必要とする未熟児（出生体重2000g以下の乳児、または指定医療機関の医師が養育医療の対象と認めた乳児）に対し、その養育に必要な医療を助成。			・対象者数： 5人 ・支給額：1,086,268円	A
令和3年度 （実績）	病院または診療所に入院することを必要とする未熟児（出生体重2000g以下の乳児、または指定医療機関の医師が養育医療の対象と認めた乳児）に対し、その養育に必要な医療を助成。			・対象者数： 2人 ・支給額：576,470円	A

			50
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	病院または診療所に入院することを必要とする未熟児(出生体重2000g以下の乳児、または指定医療機関の医師が養育医療の対象と認めた乳児)に対し、その養育に必要な医療を助成。	・対象者数: 2人 ・支給額: 394,138円	A
令和5年度 (実績)	病院または診療所に入院することを必要とする未熟児(出生体重2000g以下の乳児、または指定医療機関の医師が養育医療の対象と認めた乳児)に対し、その養育に必要な医療を助成。	・対象者数: 8人 ・支給額: 1,479,394円	A
令和6年度 (実績)	病院または診療所に入院することを必要とする未熟児(出生体重2000g以下の乳児、または指定医療機関の医師が養育医療の対象と認めた乳児)に対し、その養育に必要な医療を助成。	・対象者数: 6人 ・支給額: 1,304,400円	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

51

事業名	就学援助		学校教育課		
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-3	経済的な支援			
当初計画					
事業概要	・経済的事情により私立高校等への就学が困難な者または就学の継続が困難で諸条件を満たした者に対し、補助金を交付します。 ・経済的事情により就学が困難な家庭に対し、学用品などの費用の一部を助成します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・経済的事情により私立高校等への就学が困難な者または、就学の継続が困難で諸条件を満たした者に対し、補助金を交付。 ・経済的事情により就学が困難な家庭に対し、学用品などの費用の一部を援助。			・私立高校就学支援補助金を支給(1人)。 ・就学援助費を支給(小学校95人、中学校67人)	A
令和3年度 (実績)	・経済的事情により私立高校等への就学が困難な者または、就学の継続が困難で諸条件を満たした者に対し、補助金を交付。 ・経済的事情により就学が困難な家庭に対し、学用品などの費用の一部を援助。			・私立高校就学支援補助金を支給(1人)。 ・就学援助費を支給(小学校83人、中学校64人)	A

51			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・経済的事情により私立高校等への就学が困難な者または、就学の継続が困難で諸条件を満たした者に対し、補助金を交付。 ・経済的事情により就学が困難な家庭に対し、学用品などの費用の一部を援助。	・私立高校就学支援補助金を支給(2人)。 ・就学援助費を支給(小学校87人、中学校70人)	A
令和5年度 (実績)	・経済的事情により私立高校等への就学が困難な者または、就学の継続が困難で諸条件を満たした者に対し、補助金を交付。 ・経済的事情により就学が困難な家庭に対し、学用品などの費用の一部を援助。	・私立高校就学支援補助金を支給(2人)。 ・就学援助費を支給(小学校91人、中学校81人)	A
令和6年度 (実績)	・経済的事情により私立高校等への就学が困難な者または、就学の継続が困難で諸条件を満たした者に対し、補助金を交付。 ・経済的事情により就学が困難な家庭に対し、学用品などの費用の一部を援助。	・私立高校就学支援補助金を支給(1人)。 ・就学援助費を支給(小学校113人、中学校86人)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

52

事業名	ひとり親への援助			子育て支援課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-3	経済的な支援			
当初計画					
事業概要	・ひとり親家庭等の生活の安定と自立を促進し、児童の福祉の増進を図ります。 ・ひとり親家庭の18歳になった日以降の最初の3月31日まで（中度以上の障がいがある場合は20歳未満）の児童を監護している母、父、又は、母もしくは父に代わって児童を養育している人に手当を支給します。 ・母子、父子家庭の母または父と児童（18歳になった日以降の最初の3月31日までの児童）が病院などの受診時に支払う健康保健の自己負担額を公費で助成します。 ・4月1日現在、町に6か月以上居住し、住民基本台帳に登録されている方で、その年の4月に小学校・中学校・高校に入学したひとり親家庭の児童（支給要件に該当する児童）を養育している方に助成金を支給します。 ・ひとり親家庭等の子どもの保育所入所の際、保育料軽減を実施します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 （実績）	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援するため、医療費の自己負担分を助成し、福祉の増進を図る。			ひとり親医療 ・対象世帯：164世帯（405人）、負担額：12,609,466円 ひとり親助成金 ・対象世帯：22世帯（24人）、支給額：720,000円 児童扶養手当 ・対象受給者数：190人　・新規認定数：19人 ・転入認定数：10人　・父子認定数：2人 ひとり親家庭特別給付金【町独自・新型コロナウイルス感染症対策】 ・対象世帯：143世帯（204人）、支給額：4,290,000円	A
令和3年度 （実績）	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援するため、医療費の自己負担分を助成し、福祉の増進を図る。			ひとり親医療 ・対象世帯：153世帯（369人）、負担額：13,472,556円 ひとり親助成金 ・対象世帯：18世帯（18人）、支給額：540,000円 児童扶養手当 ・対象受給者数：183人　・新規認定数：18人 ・転入認定数：1人　・父子認定数：4人	A

		52	
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援するため、医療費の自己負担分を助成し、福祉の増進を図る。	ひとり親医療 ・対象世帯:149世帯(358人)、負担額:12,572,266円 ひとり親助成金 ・対象世帯:11世帯(12人)、支給額:360,000円 児童扶養手当 ・対象受給者数:143人 ・新規認定数:12人 ・転入認定数: 4人 ・父子認定数: 0人	A
令和5年度 (実績)	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援するため、医療費の自己負担分を助成し、福祉の増進を図る。	ひとり親医療 ・対象世帯:144世帯(348人)、負担額:13,334,849円 ひとり親助成金 ・対象世帯:23世帯(26人)、支給額:780,000円 児童扶養手当 ・対象受給者数:139人 ・新規認定数:20人 ・転入認定数: 4人 ・父子認定数: 7人	A
令和6年度 (実績)	ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援するため、医療費の自己負担分を助成し、福祉の増進を図る。	ひとり親医療 ・対象世帯:158世帯(373人)、負担額:11,466,886円 児童扶養手当 ・対象受給者数:166人 ・新規認定数:21人 ・転入認定数: 3人 ・父子認定数: 7人 ひとり親助成制度は、学校教育課が実施する就学支援事業と重複するため、事業を廃止した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

53

事業名	障がいのある子どもへの援助				子育て支援課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-3	経済的な支援				
当初計画						
事業概要	障がいのある20歳未満の児童を扶養している人に手当を支給し、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図ります。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	障がいのある20歳未満の児童を扶養している人に手当を支給し、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図る。			・受給資格者数:60件 ・新規認定数: 10件 ・転入認定数: 1件		A
令和3年度 (実績)	障がいのある20歳未満の児童を扶養している人に手当を支給し、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図る。			・受給資格者数:65件 ・新規認定数: 12件 ・転入認定数: 0件		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	障がいのある20歳未満の児童を扶養している人に手当を支給し、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図る。	・受給資格者数:62件 ・新規認定数: 3件 ・転入認定数: 1件	A
令和5年度 (実績)	障がいのある20歳未満の児童を扶養している人に手当を支給し、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図る。	・受給資格者数:65件 ・新規認定数: 13件 ・転入認定数: 0件	A
令和6年度 (実績)	障がいのある20歳未満の児童を扶養している人に手当を支給し、障がい児家庭の生活の安定と福祉の増進を図る。	・受給資格者数:72件 ・新規認定数: 9件 ・転入認定数: 1件	A

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

54

事業名	保育料以外の実費負担への費用助成			子育て支援課	
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり			
施策の方向	3-3	経済的な支援			
当初計画					
事業概要	保育料以外の実費負担の部分について、低所得者等の負担軽減を図るための補助を実施します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行う。			低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行った(84人)	A
令和3年度 (実績)	低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行う。			低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行った(89人)	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行う。	・低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行った(125人)	A
令和5年度 (実績)	低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行う。	・低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行った(101人)	A
令和6年度 (実績)	低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行う。	・低所得や多子の家庭に対する副食費の免除や補助等を行った(120人)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

55

事業名	公園や道路等の環境整備、バリアフリー		建設課／都市計画課 (R7～道路課／都市計画課)
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	
施策の方向	3-4	生活環境の整備	

当初計画				
事業概要	建設課	・交通量が多い町道等への歩道の整備や危険個所の改修を進め、歩きやすい歩道など歩行者の安全確保に努めます。 ・国県道における通学時等の危険な場所の改善を要望し、国・県・町それぞれの道路管理者が一体となって整備に取り組んでいます。		
	都市計画課	・公共施設、公共機関のバリアフリー化を推進し、高齢者や障がい者、幼児連れなどをはじめ全ての方に対してやさしい環境づくりを目指します。		
目標値	建設課	・町内歩道整備延長L=943m(国府本郷西小磯1号線、幹線28号線)		
	都市計画課	・町内全ての公園で点検・修繕、公園検査を実施		
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)

進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)			
年度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和2年度 (実績)	建設課	・交通量が多い町道等への歩道の整備を進めた。 ・国県道における通学路等の危険な場所の改善を要望した。	・歩道整備に必要な用地の交渉を進めた。 ・県道の危険な箇所を改修するため、県及び関係者と調整を行い、改修できる道筋を立てた。	B
	都市計画課	・町内すべての公園・緑地で毎月2回の清掃を実施する。翌日に清掃検査を実施。 ・専門業者による遊具の安全点検を実施し、不具合のある遊具について、修繕を実施した。	・毎月第1・3月曜日に町内50箇所の公園・緑地の清掃を実施し、翌日に検査を行った。 ・遊具の設置してある36公園で安全点検を実施し、修繕料の翌年度の予算の確保を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A
令和3年度 (実績)	建設課	・交通量が多い町道等への歩道の整備を進めた。 ・国県道における通学路等の危険な場所の改善を要望した。	・歩道整備(国府本郷西小磯1号線)び事業実施(幹線28号線)のため総合計画に位置付けた。 ・県道の危険箇所改修のため、次年度より用地買収等に着手できるよう県及び用地関係者と調整を行った。	B
	都市計画課	・町内すべての公園・緑地で毎月2回の清掃を実施する。翌日に清掃検査を実施。 ・専門業者による遊具の安全点検を実施し、不具合のある遊具について、修繕を実施した。	・毎月第1・3月曜日に町内50箇所の公園・緑地の清掃を実施し、翌日に検査を行った。 ・遊具の設置してある36公園で安全点検を実施し、修繕料の翌年度の予算の確保を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	建設課	・交通量が多い町道等への歩道の整備を進めた。 ・国県道における通学路等の危険な場所の改善を要望した。	・約440mの歩道整備(国府本郷西小磯1号線)及び歩道整備のための用地買収(幹線28号線)を行った。 ・県道の危険箇所改修のため、県と協働で用地買収等を行った。	A
	都市計画課	・町内すべての公園・緑地で毎月2回の清掃を実施する。翌日に清掃検査を実施。 ・専門業者による遊具の安全点検を実施し、不具合のある遊具について、修繕を実施した。	・毎月第1・3月曜日に町内50箇所の公園・緑地の清掃を実施し、翌日に検査を行った。 ・遊具の設置してある37公園で安全点検を実施し、修繕料の翌年度の予算の確保を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A
令和5年度 (実績)	建設課	・交通量が多い町道等への歩道の整備を進めた。 ・国県道における通学路等の危険な場所の改善を要望した。	・2路線の歩道整備(国府本郷西小磯1号線約287m及び幹線28号線約18m)を行った。 ・県において、前年度、町と協働で用地買収等を実施した歩道未整備箇所について、歩道整備工事を行った。	A
	都市計画課	・町内すべての公園・緑地で毎月2回の清掃を実施する。翌日に清掃検査を実施。 ・専門業者による遊具の安全点検を実施し、不具合のある遊具について、修繕を実施した。	・毎月第1・3月曜日に町内50箇所の公園・緑地の清掃を実施し、翌日に検査を行った。 ・遊具の設置してある35公園で安全点検を実施し、修繕料の翌年度の予算の確保を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A
令和6年度 (実績)	道路課	・交通量が多い町道等への歩道の整備を進めた。 ・国県道における通学路等の危険な場所の改善を要望した。	・幹線28号線において、歩道整備に必要な測量調査を実施し、国府本郷西小磯1号線については、歩道整備部の用地買収を行った。 ・3市3町広域行政推進協議会を通して、県道相模原大磯線の歩道をはじめとした交通安全施設の早期整備を要望した。	A
	都市計画課	・町内すべての公園・緑地で毎月2回の清掃を実施する。翌日に清掃検査を実施。 ・専門業者による遊具の安全点検を実施し、不具合のある遊具について、修繕を実施した。	・毎月第1・3月曜日に町内50箇所の公園・緑地の清掃を実施し、翌日に検査を行った。 ・遊具の設置してある37公園で安全点検を実施し、修繕料の翌年度の予算の確保を行い、緊急性の高い遊具については、直ちに修繕を行った。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

56

事業名	公共施設での子育て支援（授乳室やベビーベッド等）		子育て支援課			
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり				
施策の方向	3-4	生活環境の整備				
当初計画						
事業概要	・子育て中の親子が公共施設を利用しやすいようにベビーベッドを置くなど、授乳やおむつ交換ができるスペースの確保を推進します。 ・親子でイベントに参加しやすいように移動式赤ちゃんの駅を町内イベント主催者に貸出します。					
目標値	赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績	評価	
令和2年度 （実績）	赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年			・赤ちゃんの駅の貸出0回/年 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響からイベント等が中止になり需要がなかった。	B*	
令和3年度 （実績）	赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年			・赤ちゃんの駅の貸出0回/年 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響からイベント等が中止になり需要がなかった。	B*	

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年	・赤ちゃんの駅の貸出3回/年 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響からイベント等が中止になり需要がなかった。	B*
令和5年度 (実績)	赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年。	・赤ちゃんの駅の貸出1回/年	B
令和6年度 (実績)	赤ちゃんの駅の貸出12回以上/年	・赤ちゃんの駅の貸出1回/年	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

57

事業名	通学路や公園などの安全確保		町民課／都市計画課／学校教育課
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	
施策の方向	3-4	生活環境の整備	

当初計画				
事業概要	町民課	・交通事故危険箇所において、ストップマークや啓発看板の設置を進めます。 ・防犯灯を整備します。		
	都市計画課	・子どもの安全性を確保するために、公園内を明るく保つことや、内外から見通しを良くするため、公園灯周辺の樹木の剪定や生垣の間伐などを実施します。 ・公園遊具の定期点検を実施し、必要な修繕を行うとともに、安全な遊具への更新を進めます。		
	学校教育課	・各小学校において、地域や保護者の協力のもと、通学路の安全確保のため、危険箇所の点検調査などを行います。点検調査の結果、改善の必要な箇所は、関係機関と連携し改善に努めます。		
目標値	町民課	・町内防犯灯の維持管理		
	都市計画課	・公園・緑地の樹木剪定の実施、遊具修繕及び遊具点検1回/年		
	学校教育課	・継続実施		
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)

進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)			
年度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和2年度 (実績)	町民課	・ストップマークや交通安全啓発看板の設置。 ・防犯灯の整備。	・交通事故危険箇所において、ストップマークや交通安全啓発看板を設置した。 ・防犯灯の新設、移設、撤去を行った。(10件)	A
	都市計画課	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行う。 ・遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行う。	・町内42箇所の公園・緑地の樹木の剪定を実施。 ・36公園の遊具の安全点検を行い、6公園7遊具の修繕が必要な遊具の予算の確保を行い。緊急性の高い遊具をすぐに直した。	A
	学校教育課	・各小学校において、地域や保護者の協力のもと、通学路の安全確保のため、危険箇所の点検調査などを行う。点検調査の結果、改善の必要な箇所は、各学校から提出された通学路改善要望に基づき、関係機関と連携し改善に努める。	・防犯安全対策推進委員会を開催し、各校から出された通学路改善要望を元に協議を行った。必要に応じて、町の関係各課及び警察等の関係機関と共に改善に向けて連携した。	A
令和3年度 (実績)	町民課	・ストップマークや交通安全啓発看板の設置。 ・防犯灯の整備。	・交通事故危険箇所において、ストップマークや交通安全啓発看板を設置した。 ・防犯灯の新設、移設、撤去を行った。(13件)	A
	都市計画課	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行う。 ・遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行う。	・町内42箇所の公園・緑地の樹木の剪定を実施。 ・昨年度の保守委託検査結果に基づき、9公園10遊具の修繕を行った。また36公園の遊具の安全点検を行い、12公園で修繕が必要な13遊具の予算計上を行った。	A
	学校教育課	・各小学校において、地域や保護者の協力のもと、通学路の安全確保のため、危険箇所の点検調査などを行う。点検調査の結果、改善の必要な箇所は、各学校から提出された通学路改善要望に基づき、関係機関と連携し改善に努める。	・防犯安全対策推進委員会を開催し、各校から出された通学路改善要望をもとに協議を行った。必要に応じて、町の関係各課及び警察等の関係機関と共に改善に向けて連携した。	A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	町民課	・ストップマークや交通安全啓発看板の設置。 ・防犯灯の整備。	・交通事故危険箇所において、ストップマークや交通安全啓発看板を設置した。 ・防犯灯の新設、移設、撤去を行った。(16件)	A
	都市計画	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行う。 ・遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行う。	・町内46箇所の公園・緑地の樹木の剪定を実施。 ・昨年度の保守委託検査結果に基づき、12公園13遊具の修繕を行った。また37公園の遊具の安全点検を行い、10公園で修繕が必要な12遊具の予算計上を行った。	A
	学校教育	・子どもを犯罪等の被害から守るために、関係機関・団体との情報交換を充実し、不審者情報等を町のホームページや電子メール等により保護者や地域、関係団体に情報提供。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようにするための講習を実施。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。	・防犯安全対策推進委員会を開催し、各校から出された通学路改善要望をもとに協議を行った。必要に応じて、町の関係各課及び警察等の関係機関と共に改善に向けて連携した。	A
令和5年度 (実績)	町民課	・ストップマークや交通安全啓発看板の設置。 ・防犯灯の整備。	・交通事故危険箇所において、ストップマークや交通安全啓発看板を設置した。 ・防犯灯の新設、移設、修繕、撤去を行った。(28件)	A
	都市計画	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行う。 ・遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行う。	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行った。 ・遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行った。	A
	学校教育	・各小学校において、地域や保護者の協力のもと、通学路の安全確保のため、危険箇所の点検調査などを行う。点検調査の結果、改善の必要な箇所は、各学校から提出された通学路改善要望に基づき、関係機関と連携し改善に努める。	・防犯安全対策推進委員会を開催し、各校から出された通学路改善要望をもとに協議を行った。必要に応じて、町の関係各課及び警察等の関係機関と共に改善に向けて連携した。	A
令和6年度 (実績)	町民課	・ストップマークや交通安全啓発看板の設置。 ・防犯灯の整備。	・交通事故危険箇所において、ストップマークや交通安全啓発看板を設置した。 ・防犯灯の新設、移設、修繕、撤去を行った。(22件)	A
	都市計画	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行う。 ・遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行う。	・公園・緑地の敷地からはみ出している樹木の剪定を、年間を通して行った。 ・37公園で遊具の安全点検を年1回実施し、必要な遊具の修繕を行った。	A
	学校教育	・各小学校において、地域や保護者の協力のもと、通学路の安全確保のため、危険箇所の点検調査などを行う。点検調査の結果、改善の必要な箇所は、各学校から提出された通学路改善要望に基づき、関係機関と連携し改善に努める。	・防犯安全対策推進委員会を開催し、各校から出された通学路改善要望をもとに協議を行った。必要に応じて、町の関係各課及び警察等の関係機関と共に改善に向けて連携した。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

58

事業名	交通安全、防犯対策		町民課／学校教育課／生涯学習課
基本目標	3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	
施策の方向	3-4	生活環境の整備	

当 初 計 画						
事 業 概 要	町民課	・学校・地域・関係団体と協力して交通安全・防犯教育を進めます。 ・交通事故・犯罪の未然防止を図るため、学校・地域・関係団体と協力して子どもの見守り活動を進めます。 ・交通安全・防犯対策の情報を広報や町ホームページ等により学校・地域・関係団体に情報を提供します。				
	学校教育課	・子どもを犯罪等の被害から守るため、関係機関・団体との情報交換を充実し、町ホームページや電子メール等により保護者、地域、関係団体に情報提供します。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようにするための講習を実施します。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努めます。				
	生涯学習課	・PTA主催による登下校中の児童・生徒が緊急時に立ち寄ることができる「子どもSOS」家庭等の募集・普及啓発事業、防犯ボランティア活動を支援します。				
目 標 値	町民	継続実施				
	学校	継続実施				
	生涯	子どもSOS事業推進研修会1回/年				
区分	新規		継続	拡充	完了 (事業終了)	その他

進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	課	年度別事業目標	実績	評価	
令和2年度 (実績)	町民課	・交通安全、防犯出前講座の実施。 ・学校・地域・関係団体と協力し子どもの見守り活動の実施。	・交通安全街頭見守りの実施(秋1回) ・新入学児童、子どもの健康診査受診者及び保護者へ啓発物品を配布、関係団体へ啓発物品の配布、配架依頼をした。	A	
	学校教育課	・子どもを犯罪等の被害から守るために、関係機関・団体との情報交換を充実し、不審者情報等を町のホームページや電子メール等により保護者や地域、関係団体に情報提供。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようするための講習を実施。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。	・学校警察連絡協議会から情報提供された不審者情報を、区長会や民生委員等の関係団体、保護者や地域住民に情報提供した。 ・各校において、交通安全教室や不審者侵入防止訓練等を実施した。 ・各校で通学路点検や地域フォーラム等を実施し、学校内外の安全保持について情報交換を行った。	A	
	生涯学習課	・子どもSOS事業推進研修会を年1回開催する。	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止。	B*	
令和3年度 (実績)	町民課	・交通安全、防犯出前講座の実施。 ・学校・地域・関係団体と協力し子どもの見守り活動の実施。 ・交通安全・防犯対策、犯罪発生状況などの情報提供	・交通安全街頭見守り(春秋2回)、街頭キャンペーン(夏年末2回)を実施した。また、各季の交通安全運動期間中に、町広報、ホームページ、のぼり旗の設置等により交通安全の啓発を実施した。 ・学校や地域などからの不審者情報を町内の関係団体に情報提供し、地域、警察、防犯関係団体とともに防犯パトロールを実施した。	A	
	学校教育課	・子どもを犯罪等の被害から守るために、関係機関・団体との情報交換を充実し、不審者情報等を町のホームページや電子メール等により保護者や地域、関係団体に情報提供。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようするための講習を実施。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。	・学校警察連絡協議会から情報提供された不審者情報を、区長会や民生委員等の関係団体、保護者や地域住民に情報提供した。 ・各校において、交通安全教室や不審者侵入防止訓練等を実施した。 ・各校で通学路点検や地域フォーラム等を実施し、学校内外の安全保持について情報交換を行った。	A	
	生涯学習課	・子どもSOS事業推進研修会を年1回開催する。	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止。	B*	

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	町民課	・交通安全、防犯出前講座の実施。 ・学校・地域・関係団体と協力し子どもの見守り活動の実施。 ・交通安全・防犯対策、犯罪発生状況などの情報提供	・交通安全街頭見守り(春秋2回)、街頭キャンペーン(各季6回)を実施した。また、各季の交通安全運動期間中に、町広報、ホームページ、のぼり旗の設置等により交通安全の啓発を実施した。 ・防犯対策の出前講座を2回実施し、偶数月の年金支給日には広報車による街頭広報(5回)や街頭キャンペーン(4回)を実施した。	A
	学校教育課	・子どもを犯罪等の被害から守るために、関係機関・団体との情報交換を充実し、不審者情報等を町のホームページや電子メール等により保護者や地域、関係団体に情報提供。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようにするための講習を実施。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。	・学校警察連絡協議会から情報提供された不審者情報を、区長会や民生委員等の関係団体、保護者や地域住民に情報提供した。 ・各校において、交通安全教室や不審者侵入防止訓練等を実施した。 ・各校で通学路点検等を実施し、学校内外の安全保持について情報交換を行った。	A
	生涯	・子どもSOS事業推進研修会を年1回開催する。	・子どもSOS事業推進研修会を1回開催し、子どもたちの安全・安心に伴う防犯活動について検討した。	A
令和5年度 (実績)	町民課	・交通安全、防犯出前講座の実施。 ・学校・地域・関係団体と協力し子どもの見守り活動の実施。 ・交通安全・防犯対策、犯罪発生状況などの情報提供	・交通安全街頭見守り(春秋2回)、街頭キャンペーン(各季6回)、交通安全教室(5回)を実施した。また、各季の交通安全運動期間中に、町広報、ホームページ、のぼり旗の設置等により交通安全の啓発を実施した。 ・防犯対策の出前講座を2回実施し、偶数月の年金支給日には広報車による街頭広報(6回)や街頭キャンペーン(4回)を実施した。	A
	学校教育課	・子どもを犯罪等の被害から守るために、関係機関・団体との情報交換を充実し、不審者情報等を町のホームページや電子メール等により保護者や地域、関係団体に情報提供。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようにするための講習を実施。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。	・各校において、交通安全教室や不審者侵入防止訓練等を実施した。 ・各校で通学路点検等を実施し、学校内外の安全保持について情報交換を行った。	B
	生涯	・子どもSOS事業推進研修会を年1回開催する。	・子どもSOS事業の実施について協議し、子どもたちの安全・安心に伴う防犯活動について検討した。	B
令和6年度 (実績)	町民課	・交通安全、防犯出前講座の実施。 ・学校・地域・関係団体と協力し子どもの見守り活動の実施。 ・交通安全・防犯対策、犯罪発生状況などの情報提供	・交通安全街頭見守り(春秋2回)、街頭キャンペーン(各季5回)、交通安全教室(5回)を実施した。また、各季の交通安全運動期間中に、町広報、ホームページ、のぼり旗の設置等により交通安全の啓発を実施した。 ・防犯対策の出前講座を1回実施し、偶数月の年金支給日には広報車による街頭広報(2回)や街頭キャンペーン(2回)を実施した。	A
	学校教育課	・子どもを犯罪等の被害から守るために、関係機関・団体との情報交換を充実し、不審者情報等を町のホームページや電子メール等により保護者や地域、関係団体に情報提供。 ・子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないようにするための講習を実施。 ・学校、保護者、地域が連携して、登下校を含めた学校内外の安全保持に努める。	・各校において、交通安全教室や不審者侵入防止訓練等を実施した。 ・各校で通学路点検等を実施し、学校内外の安全保持について情報交換を行った。	B
	生涯	・子どもSOS事業推進研修会を年1回開催する。	・子どもSOS事業の実施について協議し、子どもたちの安全・安心に伴う防犯活動について検討した。	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

59

事業名	気軽に相談できる環境の整備		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課／子育て支援課)			
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-1	子育て相談体制の充実				
当初計画						
事業概要	スポーツ	対象年齢ごとの乳幼児健康診査や健康相談以外にも、保健師・管理栄養士が随時電話や訪問、面接などにより保健指導を行います。				
	子育て支援	子育て情報などの問い合わせなどをインターネット等で気軽に行えるような体制づくりを進めます。また、つどいの広場でも子育てアドバイザーのほか、保健師や子ども発達相談員による育児相談を行います。				
目標値	スポーツ	継続実施				
	子育て支援	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	課	年度別事業目標	実績		評価	
令和2年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導。	・妊婦 153件、産婦156件 ・未熟児 15件、乳児53件		A	
	子育て支援課	・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週 ・つどいの広場「保健師の育児相談」12回/年 ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」12回/年	・つどいの広場(めばえ・すくすく)各6日/週 (めばえ 167回 3,481人、すくすく167回 2,336人) ・つどいの広場「保健師の育児相談」13回/年 (めばえ6回 12人、すくすく7回 12人) ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」13回/年 (めばえ7回 5人、すくすく6回 2人)		A	
令和3年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導。	・妊婦 144件、産婦139件 ・未熟児 8件、乳児49件		A	
	子育て支援課	・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週 ・つどいの広場「保健師の育児相談」12回/年 ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」12回/年	・つどいの広場(めばえ・すくすく)各6日/週 (めばえ 259回 4,852人、すくすく261回 2,758人) ・つどいの広場「保健師の育児相談」21回/年 (めばえ10回 11人、すくすく11回 11人) ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」21回/年 (めばえ11回 13人、すくすく10回 12人)		A	

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導。	・妊婦 183件、産婦140件 ・未熟児 16件、乳児327件	A
	子育て支援課	・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週 ・つどいの広場「保健師の育児相談」12回/年 ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」12回/年	・つどいの広場(めばえ・すくすく)各6日/週 (めばえ293回 5,842人、すくすく293回 4,766人) ・つどいの広場「保健師の育児相談」24回/年 (めばえ12回/年 23人、すくすく12回/年 24人) ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」24回/年 (めばえ12回/年 17人、すくすく12回/年 13人)	A
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導。	・妊婦 248件、産婦155件 ・未熟児16件、乳児399件	A
	子育て支援課	・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週 ・つどいの広場「保健師の育児相談」12回/年 ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」12回/年 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施	・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週(めばえ293回 6,113人 すくすく293回 5,888人) ・つどいの広場「保健師の育児相談」24回/年(めばえ12回・すくすく12回) ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」24回/年(めばえ12回・すくすく12回) ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施(13回 96人)	A
令和6年度 (実績)	子育て支援課	・面接等による保健指導。 ・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週 ・つどいの広場「保健師の育児相談」24回/年(修正) ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」24回/年 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施(21回)	・面接等による保健指導 妊婦413件、産婦286件 乳児517件、幼児678件 ・つどいの広場の開催(めばえ・すくすく)各6日/週(めばえ293回 6,168人 すくすく293回4,959人) ・つどいの広場「保健師の育児相談」24回/年(めばえ12回・すくすく12回) ・つどいの広場「子ども発達相談員の育児相談」24回/年(めばえ12回・すくすく12回) ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施(21回 92人)	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート				60			
事業名	子どもの病気や発育の相談体制			子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課／子育て支援課)			
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり					
施策の方向	4-1	子育て相談体制の充実					
当初計画							
事業概要	スポーツ	発達の節目に乳幼児健康診査を実施し、病気の早期発見、発育発達の確認を行うほか、保健師・管理栄養士が随時電話や面接などにより保健指導を行います。					
	子育て支援	子育て支援総合センターに専門の相談員を配置させることにより、子育て中で生じる様々な問題などに対して適切な対応を行います。					
目標値	スポーツ	継続実施					
	子育て支援	継続実施					
区分	新規		継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)						
年度	課	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導			・妊婦 153件、産婦156件 ・未熟児 15件、乳児53件		A
	子育て支援課	子ども発達相談			子ども発達相談 62件/年		A
令和3年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導			・妊婦 144件、産婦139件 ・未熟児 8件、乳児49件		A
	子育て支援課	子ども発達相談			子ども発達相談 44件/年		A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導	・妊婦 183件、産婦140件 ・未熟児 16件、乳児327件	A
	子育て支援課	子ども発達相談	子ども発達相談 47件/年	A
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	面接等による保健指導	・妊婦 248件、産婦155件 ・未熟児16件、乳児399件	A
	子育て支援課	子ども発達相談	子ども発達相談(5歳児健診フォロー 29件/年)	A
令和6年度 (実績)	子育て支援課	・面接等による保健指導 子ども発達相談(5歳児健診フォロー)	・面接等による保健指導 妊婦413件、産婦286件 乳児517件、幼児678件 ・子ども発達相談(5歳児健診フォロー) 26件/年	A

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

61

事業名	町内幼稚園・保育所等における育児相談			子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり			
施策の方向	4-1	子育て相談体制の充実			
当初計画					
事業概要	気軽に相談できる環境を整えるために、町内の幼稚園・保育所等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等をコーディネーターとして配置し、子育て家庭を支援する体制づくりを進めます。				
目標値	各園1人ずつ配置(コーディネーター)				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	町内保育所・幼稚園等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。			・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 3人 たかとり幼稚園 2人 国府保育園 1人 ・講座等については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。	B*
令和3年度 (実績)	町内保育所・幼稚園等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。			・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 3人 たかとり幼稚園 2人 国府保育園 1人 ・講座等については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。	B*

61			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・町内保育所・幼稚園等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。	・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 4人 たかとり幼稚園 1人 国府保育園 1人 ・職員による「土曜日講座（イクメン講座から名称変更）」の実施	B
令和5年度 (実績)	・町内保育所・幼稚園等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。	・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 3人 たかとり幼稚園 1人 国府保育園 1人 ・職員による「土曜日講座」の実施 2回/年 24人	B
令和6年度 (実績)	・町内保育所・幼稚園等において、研修等で得た専門的な知識と豊富な経験を持つ職員等を中心に、子育て家庭からの子どものしつけ等についての相談体制、支援体制づくりを進める。	・研修講座等受講者の各園配置状況 大磯幼稚園 4人 ・職員による土曜日講座「みんな楽しい子ども遊び」の実施 1回/年 9人	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

62

事業名	妊婦、乳幼児訪問		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課／子育て支援課)			
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-1	子育て相談体制の充実				
当初計画						
事業概要	スポーツ	初産婦や未熟児の家庭には助産師等が訪問し、乳児の発育・発達状況、母親の健康管理や育児について保健指導を行います。また、家庭等の支援が受けられず育児不安や育児疲れなどがある産婦には助産師による母体ケアや児のケア、授乳や育児方法などの相談を行います(産後ケア事業)。				
	子育て支援	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導します。 ・2歳児のいる家庭を民生委員・児童委員や主任児童委員が訪問(2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」)することで、育児の不安や悩みをお聞きし必要に応じて関係機関と連携し、地域社会とつながり、子育て支援に関する情報提供等を行っていきます。				
目標値	スポーツ	・新生児(未熟児)訪問 対象児の全数把握、全数訪問 ・産後ケア事業(アウトリーチ型)対象家庭への訪問率100%				
	子育て支援	・「こんにちは赤ちゃん事業(乳児全戸訪問事業)訪問率100% ・2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」訪問率100%				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	課	年度別事業目標	実績		評価	
令和2年度 (実績)	スポーツ健康課	・新生児・未熟児訪問の実施。 ・産後ケア事業(アウトリーチ型)の実施。	・訪問 全数訪問(67件) ・産後ケア(アウトリーチ型)訪問率100%(6家庭、26回)		A	
	子育て支援課	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導。 ・2歳児のいる家庭を民生委員児童委員や主任児童委員が訪問(2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」)することで、育児の不安や悩みをお聞きし必要に応じて関係機関と連携し、地域社会とつながり、子育て支援に関する情報提供等を行う。	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率87.2% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率91.4%		B	
令和3年度 (実績)	スポーツ健康課	・新生児・未熟児訪問の実施。 ・産後ケア事業(アウトリーチ型)の実施。	・訪問 全数訪問(57件) ・産後ケア(アウトリーチ型)訪問率80%(申請5家庭中4家庭訪問済。延べ20回)		A	
	子育て支援課	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導。 ・2歳児のいる家庭を民生委員児童委員や主任児童委員が訪問(2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」)することで、育児の不安や悩みをお聞きし必要に応じて関係機関と連携し、地域社会とつながり、子育て支援に関する情報提供等を行う。	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率80.3% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率92.2%		B	

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	・新生児・未熟児訪問の実施。 ・産後ケア事業(アウトリーチ型)の実施。	・訪問 訪問済47件(対象53件) ・産後ケア(アウトリーチ型)訪問率84%(申請12家庭中10家庭訪問済。延べ34回)	B
	子育て支援課	・こんにちは赤ちゃん事業の実施。・2歳児全戸訪問事業の実施。	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率83.3% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率89.3%	B
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	・新生児・未熟児訪問の実施。 ・産後ケア事業(アウトリーチ型)の実施。	・訪問 訪問71件(対象73件) ・産後ケア(アウトリーチ型)訪問率40%(申請15家庭中6家庭訪問済。延べ45回)	B
	子育て支援課	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導。 ・2歳児のいる家庭を民生委員児童委員や主任児童委員が訪問(2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」)することで、育児の不安や悩みをお聞きし必要に応じて関係機関と連携し、地域社会とつながり、子育て支援に関する情報提供等を行う。	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率86.4% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率92.5%	B
令和6年度 (実績)	子育て支援課	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導。 ・2歳児のいる家庭を民生委員児童委員や主任児童委員が訪問(2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」)することで、育児の不安や悩みをお聞きし必要に応じて関係機関と連携し、地域社会とつながり、子育て支援に関する情報提供等を行う。 ・新生児・未熟児訪問の実施。 ・産後ケア事業(アウトリーチ型)の実施。	保健師・助産師対応 訪問54件(対象36件) ※ うち令和5年出生児の訪問2件、訪問未実施対象については、里帰り出産1件、施設入所1件 ・産後ケア(アウトリーチ型)訪問率56%(申請18家庭中10家庭訪問済。延べ35回) ・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率86.5% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率96.5%	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

63

事業名	不登校やいじめの相談				学校教育課
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり			
施策の方向	4-1	子育て相談体制の充実			
当初計画					
事業概要	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営します。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校や教育研究所で、いじめに係る相談を実施します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校や教育研究所で、いじめに係る相談を実施。			・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校ではアンケートや面談、教育研究所では、教育相談と関連していじめに係る相談を実施した。	A
令和3年度 (実績)	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校や教育研究所で、いじめに係る相談を実施。			・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校ではアンケートや面談、教育研究所では、教育相談と関連していじめに係る相談を実施した。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校や教育研究所で、いじめに係る相談を実施。	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校ではアンケートや面談、教育研究所では、教育相談と関連していじめに係る相談を実施した。	A
令和5年度 (実績)	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校や教育研究所で、いじめに係る相談を実施。	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校ではアンケートや面談、教育研究所では、教育相談と関連していじめに係る相談を実施した。	A
令和6年度 (実績)	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校や教育研究所で、いじめに係る相談を実施。	・心理的・情緒的問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する支援や指導を行うため教育支援室を運営した。 令和6年度の通室人数:10名(体験含む) ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、学校ではアンケートや面談、教育研究所では、教育相談と関連していじめに係る相談を実施した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

64

事業名	つどいの広場事業			子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり			
施策の方向	4-2	子育て支援の充実			
当初計画					
事業概要	乳幼児を子育て中の親子が気軽に集まって子育てに関する情報を交換したり、悩みを分かち合ったりすることができる「つどいの広場」を設置します。また、子育てアドバイザー等による育児相談を行います。				
目標値	利用者数15,000人/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	利用者数 15,000人/年			・利用者数 5,817人/年 (めばえ:3,481人/年、すくすく:2,336人/年)	B
令和3年度 (実績)	利用者数 15,000人/年			・利用者数 7,610人/年 (めばえ:4,852人/年、すくすく:2,758人/年)	B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	利用者数 15,000人/年	・利用者数 10,608人/年 (めばえ:5,842人/年、すくすく:4,766人/年)	B
令和5年度 (実績)	利用者数 15,000人/年	・利用者数 12,001人/年 (めばえ:6,113人/年、すくすく:5,888人/年)	B
令和6年度 (実績)	利用者数 15,000人/年	・利用者数 11,127人/年 (めばえ:6,168人/年、すくすく:4,959人/年)	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

65

事業名	保育所開放保育、幼稚園施設開放				子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-2	子育て支援の充実				
当初計画						
事業概要	保育所や幼稚園の施設機能や保育士及び幼稚園教諭の人材を活用し、地域の親子を対象とした遊び場の提供や育児相談などの取り組みを推進します。					
目標値	体験入園月1回実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	・町立幼稚園及び国府保育園、私立保育所等における園庭開放を実施。 ・町立幼稚園及び私立幼稚園・認定こども園において、体験入園、遊び場開放を実施。			・園庭(遊び場)開放 町立3園(大磯幼稚園・たかとり幼稚園・国府保育園)、幼保連携型認定こども園あおばと・サンキッズ国府、私立こいそ幼稚園、認可保育所サンキッズ大磯において、園で曜日と時間を定め実施体制を整えたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から部分的な実施に留まった。 ・体験入園 町立幼稚園2園及びあおばとでは月1回、こいそ幼稚園・サンキッズ国府では随時実施できるよう実施体制を整えたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から部分的な実施に留まった。		A
令和3年度 (実績)	・町立幼稚園及び国府保育園、私立保育所等における園庭開放を実施。 ・町立幼稚園及び私立幼稚園・認定こども園において、体験入園、遊び場開放を実施。			・園庭(遊び場)開放 町立3園(大磯幼稚園・たかとり幼稚園・国府保育園)、幼保連携型認定こども園あおばと・サンキッズ国府、私立こいそ幼稚園、認可保育所サンキッズ大磯において、園で曜日と時間を定め実施体制を整えたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から部分的な実施に留まった。 ・体験入園 町立幼稚園2園及びあおばとでは月1回、こいそ幼稚園・サンキッズ国府では随時実施できるよう実施体制を整えたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から部分的な実施に留まった。 ・大磯幼稚園入園予定者対象児に向け「プレスクールあそべえ」を3回実施した。		B*

		65	
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・町立幼稚園及び国府保育園、私立保育所等における園庭開放を実施。 ・町立幼稚園及び私立幼稚園・認定こども園において、体験入園、遊び場開放を実施。	・園庭(遊び場)開放 町立3園(大磯幼稚園・たかとり幼稚園・国府保育園)、幼保連携型認定こども園あおばと・サンキッズ国府、私立こいそ幼稚園、認可保育所サンキッズ大磯において、園で曜日と時間を定め実施体制を整えた。 ・体験入園 町立幼稚園2園及びあおばとでは月1回、こいそ幼稚園・サンキッズ国府では随時実施できるよう実施体制を整えた。 ・大磯幼稚園入園予定者対象児に向け「プレスクールあそべえ」を年5回実施した。	B
令和5年度 (実績)	・町立幼稚園及び国府保育園、私立保育所等における園庭開放を実施。 ・町立幼稚園及び私立幼稚園・認定こども園において、体験入園、遊び場開放を実施。	・園庭(遊び場)開放 町立3園(大磯幼稚園・たかとり幼稚園・国府保育園)、幼保連携型認定こども園あおばと・サンキッズ国府、私立こいそ幼稚園、認可保育所サンキッズ大磯において、園で曜日と時間を定め実施体制を整えた。 ・体験入園 町立幼稚園2園及びあおばとでは月1回、こいそ幼稚園・サンキッズ国府では随時実施できるよう実施体制を整えた。 ・大磯幼稚園入園予定者対象児に向け「プレスクールあそべえ」を年5回実施した。	B
令和6年度 (実績)	・町立幼稚園及び国府保育園、私立保育所等における園庭開放を実施。 ・町立幼稚園及び私立幼稚園・認定こども園において、体験入園、遊び場開放を実施。	・園庭(遊び場)開放 町立3園(大磯幼稚園・たかとり幼稚園・国府保育園)、幼保連携型認定こども園あおばと・サンキッズ国府、私立こいそ幼稚園、認可保育所サンキッズ大磯において、園で曜日と時間を定め実施体制を整えた。 ・体験入園 町立幼稚園2園及びあおばとでは月1回、こいそ幼稚園・サンキッズ国府では随時実施できるよう実施体制を整えた。 ・大磯幼稚園入園予定者対象児に向け「プレスクールあそべえ」を年5回実施した。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

66

事業名	一時預かりの促進			子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり			
施策の方向	4-2	子育て支援の充実			
当初計画					
事業概要	・保護者の就労、通院、研修など、あるいは、病気や出産で入院する等、家庭での未就学児の保育が一時的に困難となった場合に、私立保育所等において一時的に保育を行います。 ・地域の実態や保護者の希望に応じて、預かり保育を実施します。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・私立保育所及び新設の幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業を実施。 ・延長保育を私立保育所・認定こども園・小規模保育施設において実施。 ・公立幼稚園、私立幼稚園、幼保連携型認定こども園において、預かり保育を実施。 ・病後児保育を幼保連携型認定こども園において実施。			・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ1,082人が利用 サンキッズ国府 年間延べ775人が利用 ・延長保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ4,715人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ121人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,169人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ31人が利用 ・預かり保育を町立幼稚園2園において、休業中を除く週3回、私立こいそ幼稚園及び認定こども園において週5回実施した。 町立幼稚園2園 年間延べ1,723人が利用 こいそ幼稚園 年間延べ2,360人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ851人が利用 サンキッズ国府 年間延べ349人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ65人が利用	A
令和3年度 (実績)	・私立保育所及び新設の幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業を実施。 ・延長保育を私立保育所・認定こども園・小規模保育施設において実施。 ・公立幼稚園、私立幼稚園、幼保連携型認定こども園において、預かり保育を実施。 ・病後児保育を幼保連携型認定こども園において実施。			・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ867人が利用 サンキッズ国府 年間延べ697人が利用 ・延長保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ4,008人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ126人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,673人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ198人が利用 ・預かり保育を町立幼稚園2園において、休業中を除く週3回、私立こいそ幼稚園及び認定こども園において週5回実施した。 町立幼稚園2園 年間延べ1,824人が利用 こいそ幼稚園 年間延べ2,996人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ743人が利用 サンキッズ国府 年間延べ983人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ41人が利用	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・私立保育所及び新設の幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業を実施。 ・延長保育を私立保育所・認定こども園・小規模保育施設において実施。 ・公立幼稚園、私立幼稚園、幼保連携型認定こども園において、預かり保育を実施。 ・病後児保育を幼保連携型認定こども園において実施。	・一時保育事業 - サンキッズ大磯 年間延べ566人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ787人が利用 ・延長保育事業 - サンキッズ大磯 年間延べ5,107人が利用 - 認定こども園あおばと 年間延べ330人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ1,870人が利用 - もあなこびとのこや 年間延べ34人が利用 ・預かり保育を町立幼稚園2園、私立こいそ幼稚園及び認定こども園において週5回実施した。 - 町立幼稚園2園 年間延べ4,804人が利用 - こいそ幼稚園 年間延べ3,619人が利用 - 認定こども園あおばと 年間延べ746人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ877人が利用 ・病後児保育 - 認定こども園あおばと 年間延べ43人が利用	A
令和5年度 (実績)	・私立保育所及び新設の幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業を実施。 ・延長保育を私立保育所・認定こども園・小規模保育施設において実施。 ・公立幼稚園、私立幼稚園、幼保連携型認定こども園において、預かり保育を実施。 ・病後児保育を幼保連携型認定こども園において実施。	・一時保育事業 - サンキッズ大磯 年間延べ945人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ824人が利用 ・延長保育事業 - サンキッズ大磯 年間延べ4,191人が利用 - 認定こども園あおばと 年間延べ352人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ1,906人が利用 - もあなこびとのこや 年間延べ104人が利用 ・預かり保育を町立幼稚園2園、私立こいそ幼稚園及び認定こども園において週5回実施した。 - 町立幼稚園2園 年間延べ5,713人が利用 - こいそ幼稚園 年間延べ2,079人が利用 - 認定こども園あおばと 年間延べ1,379人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ1,175人が利用 ・病後児保育 - 認定こども園あおばと 年間延べ60人が利用	A
令和6年度 (実績)	・私立保育所及び新設の幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業を実施。 ・延長保育を私立保育所・認定こども園・小規模保育施設において実施。 ・公立幼稚園、私立幼稚園、幼保連携型認定こども園において、預かり保育を実施。 ・病後児保育を幼保連携型認定こども園において実施。	・一時保育事業 - サンキッズ大磯 年間延べ805人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ763人が利用 ・延長保育事業 - サンキッズ大磯 年間延べ3,899人が利用 - 認定こども園あおばと 年間延べ356人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ1,704人が利用 - もあなこびとのこや 年間延べ248人が利用 ・預かり保育を町立幼稚園2園、私立こいそ幼稚園及び認定こども園において週5回実施した。 - 町立幼稚園2園 年間延べ9,706人が利用 - こいそ幼稚園 年間延べ2,667人が利用 - 認定こども園あおばと 年間延べ2,070人が利用 - サンキッズ国府 年間延べ760人が利用 ・病後児保育 - 認定こども園あおばと 年間延べ53人が利用	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

67

事業名	子育て短期支援事業の充実				子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-2	子育て支援の充実				
当初計画						
事業概要	保護者が病気になった場合などに一時的に児童を短期間（7日間程度）預かる「ショートステイ」の施設を調整していきます。					
目標値	検討継続					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 （実績）	子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備を検討。			検討継続		C
令和3年度 （実績）	子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備を検討。			検討継続		C

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備を検討。	検討継続	C
令和5年度 (実績)	子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備を検討。	検討継続	C
令和6年度 (実績)	子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備を検討。	子育て短期支援事業の実施を検討されている施設との協議を行い、事業の実施に向けた具体的な課題を共有した。	C
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等	事業の実施に向け、施設側との調整を進めていく。		

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

68

事業名	主任児童委員、民生委員・児童委員の活動				福祉課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-2	子育て支援の充実				
当初計画						
事業概要	・子育ての不安を抱える保護者に民生委員・児童委員の役割を周知し、「地域の身近な相談相手」として日常生活の困ったことなどの相談支援を行います。 ・「こんにちは赤ちゃん事業」として、児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導します。そのフォローとして、2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」により、子育て中の親子を見守ります。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、第2子以降の子どもが生まれた家庭を訪問。 ・「にこにこ子育て応援団」として、2歳児の子どもがいる家庭を訪問。 ・園児、児童、生徒の登下校時の街頭見守り。			・新型コロナウイルス感染拡大防止の点から「こんにちは赤ちゃん事業」「にこにこ子育て応援団」における児童委員の訪問は町職員が行い、乳幼児の見守りは継続して実施した。 ・児童、生徒に対する見守りは登下校時のみならず、地区によってはバス停留所での学童見守りも実施した。		B
令和3年度 (実績)	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、第2子以降の子どもが生まれた家庭を訪問。 ・「にこにこ子育て応援団」として、2歳児の子どもがいる家庭を訪問。 ・園児、児童、生徒の登下校時の街頭見守り。 ・身近な地域のつなぎ役として、活動の周知を図る。			・新型コロナウイルス感染拡大防止の点から「こんにちは赤ちゃん事業」「にこにこ子育て応援団」における児童委員の訪問は町職員が行い、乳幼児の見守りは継続して実施した。 ・児童、生徒に対する見守りは登下校時のみならず、地区によってはバス停留所での学童見守りも実施した。		B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、第2子以降の子どもが生まれた家庭を訪問。 ・「にこにこ子育て応援団」として、2歳児の子どもがいる家庭を訪問。 ・園児、児童、生徒の登下校時の街頭見守り。 ・身近な地域のつなぎ役として、活動の周知を図る。	・新型コロナウイルス感染拡大防止の点から「こんにちは赤ちゃん事業」「にこにこ子育て応援団」における児童委員の訪問は町職員が行い、乳幼児の把握を継続して実施した。 ・児童、生徒に対する見守りは登下校時のみならず、地区によってはバス停留所での学童見守りも実施した。	B*
令和5年度 (実績)	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、第2子以降の子どもが生まれた家庭を訪問。 ・「にこにこ子育て応援団」として、2歳児の子どもがいる家庭を訪問。 ・園児、児童、生徒の登下校時の街頭見守り。 ・身近な地域のつなぎ役として、活動の周知を図る。	・「こんにちは赤ちゃん事業」「にこにこ子育て応援団」における児童委員の訪問は、子育てコンシェルジュとともに可能な限り実施し、乳幼児の把握を行うとともに顔の見える関係づくりを行った。 ・教育委員会からの情報提供による重点見守り期間における登下校時や国府橋工事による近隣見守り、また地区によってはバス停留所での学童見守りを実施した。	A
令和6年度 (実績)	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、第2子以降の子どもが生まれた家庭を訪問。 ・「にこにこ子育て応援団」として、2歳児の子どもがいる家庭を訪問。 ・園児、児童、生徒の登下校時の街頭見守り。 ・身近な地域のつなぎ役として、活動の周知を図る。	・「こんにちは赤ちゃん事業」「にこにこ子育て応援団」における児童委員の訪問は、子育てコンシェルジュとともに可能な限り実施し、乳幼児の把握を行うとともに顔の見える関係づくりを行った。 ・教育委員会からの情報提供による重点見守り期間における登下校時や国府橋工事による近隣見守り、また地区によってはバス停留所での学童見守りを実施した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

69

事業名	ネット等による情報発信			子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり			
施策の方向	4-3	子育て情報の発信			
当初計画					
事業概要	・各種子育て支援サービスについての町ホームページの充実を図ります。 ・大磯町行政情報メール配信サービスを利用し、子育て関連の情報発信を行います。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件以上/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 36件以上/年			・町ホームページでの子育て関連の情報発信 17件/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 7件/年	B
令和3年度 (実績)	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件以上/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 36件以上/年			・町ホームページでの子育て関連の情報発信 13件/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 12件/年	B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件以上/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 36件以上/年	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 12件/年(子育て支援センター) ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 43件/年(EasyPocket27,twitter3,母子モ12) ・めばえ、すくすくの情報をtwitterで配信していく。	B
令和5年度 (実績)	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件以上/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 36件以上/年	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件 ・Xでの情報発信 55件/年 ・町ホームページのトップページに「子育てするなら大磯」を作成し、重点的取り組みについて情報発信した。	A
令和6年度 (実績)	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件以上/年 ・メール配信サービスでの子育て関連の情報発信 36件以上/年	・町ホームページでの子育て関連の情報発信 24件 ・Xでの情報発信 48件/年 ・母子モでの情報発信12件/年 ・児童虐待防止月間(11月)にEasyPocket、LINE、ホームページで児童虐待防止の啓発活動を行った。(計3件)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

70

事業名	子育て情報誌(ガイドブック)の発行				子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-3	子育て情報の発信				
当初計画						
事業概要	「子育てガイドブック」記載内容のさらなる充実を目指し、子育て中の母親だけでなく、父親や祖父母世代が子育て支援サービスを利用しやすくなるように努めます。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	「子育てガイドブック」の刷新。			・子育てガイドブック3,000部発行。 (配布場所:本庁舎、子育て支援総合センター、国府支所、幼稚園、保育園、図書館等)		A
令和3年度 (実績)	「子育てガイドブック」記載内容の見直し			次年度の刷新に向けて「子育てガイドブック」の記載内容の見直し及び情報収集を行った。		A

			70
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	「子育てガイドブック」の刷新	子育てガイドブック2,500部発行。 (配布場所:本庁舎、子育て支援総合センター、国府支所、幼稚園、保育園、図書館等)	A
令和5年度 (実績)	「子育てガイドブック」記載内容の見直し	子育てガイドブック(電子版)の修正及び、正誤表の差し込みによる訂正を行った。 次年度の刷新に向けて「子育てガイドブック」の記載内容の見直し及び情報収集を行った。 ・所管事務及び組織の見直しにより、発行時期をR6.7とした。	A
令和6年度 (実績)	「子育てガイドブック」の刷新	子育てガイドブック(2024-2026)を、株式会社サイネックス協力のもと、2,500部発行(R6.7)した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

71

事業名	保育ボランティアの活動支援				子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-4	子育て世代の社会参加への支援				
当初計画						
事業概要	乳幼児を保育する保護者の社会参加の促進を支援することで、孤立しない子育て環境づくりに取り組みます。子育て中の親を対象とした事業を実施した場合に乳幼児の見守り保育等を行う子育て支援のボランティアを奨励するとともに、活動の担い手の育成を推進します。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	乳幼児を保育する保護者の社会参加の促進を手助けすることで、孤立しない子育て環境づくりに取り組む。子育て中の親を対象とした事業を実施した場合に、乳幼児の見守り保育等を行う子育て支援ボランティアを奨励するとともに、活動の担い手の育成を推進する。			年間依頼数 6回 保育ボランティア活動人数 延べ9人 子どもの預かり児童数 延べ8人		B
令和3年度 (実績)	乳幼児を保育する保護者の社会参加の促進を手助けすることで、孤立しない子育て環境づくりに取り組む。子育て中の親を対象とした事業を実施した場合に、乳幼児の見守り保育等を行う子育て支援ボランティアを奨励するとともに、活動の担い手の育成を推進する。			年間依頼数 32回 保育ボランティア活動人数 延べ51人 子どもの預かり児童数 延べ60人		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	乳幼児を保育する保護者の社会参加の促進を手助けすることで、孤立しない子育て環境づくりに取り組む。子育て中の親を対象とした事業を実施した場合に、乳幼児の見守り保育等を行う子育て支援ボランティアを奨励するとともに、活動の担い手の育成を推進する。	年間依頼数 50回 保育ボランティア活動人数 延べ 94人 子どもの預かり児童数 延べ153人	A
令和5年度 (実績)	乳幼児を保育する保護者の社会参加の促進を手助けすることで、孤立しない子育て環境づくりに取り組む。子育て中の親を対象とした事業を実施した場合に、乳幼児の見守り保育等を行う子育て支援ボランティアを奨励するとともに、活動の担い手の育成を推進する。	大磯保育ボランティアへ、町事業時の保育を依頼した。 (年間依頼数 88回) 保育ボランティア活動人数 延べ174人 子どもの預かり児童数 延べ211人	A
令和6年度 (実績)	乳幼児を保育する保護者の社会参加の促進を手助けすることで、孤立しない子育て環境づくりに取り組む。子育て中の親を対象とした事業を実施した場合に、乳幼児の見守り保育等を行う子育て支援ボランティアを奨励するとともに、活動の担い手の育成を推進する。	大磯保育ボランティアへ、町事業時の保育を依頼した。 (年間依頼数 61回) 保育ボランティア活動人数 延べ106人 子どもの預かり児童数 延べ141人	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

72

事業名	ファミリー・サポート・センター事業の促進				子育て支援課	
基本目標	4	地域が支える子育て環境づくり				
施策の方向	4-4	子育て世代の社会参加への支援				
当初計画						
事業概要	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努めます。					
目標値	会員数の拡充					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努める。			・利用件数 415件 ・利用時間 1167.5時間 ・援助会員数 25人 ・依頼会員数 125人 ・両方会員 2人		B
令和3年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努める。			・活動回数 608回 ・活動時間 1578.5時間 ・援助会員数 25人 ・依頼会員数 128人 ・両方会員 2人		B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努める。	・利用件数 395件 ・利用時間 1,135時間 ・援助会員数 27人 ・依頼会員数 124人 ・両方会員 2人	B
令和5年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努める。	・利用件数 502件 ・利用時間 1527.5時間 ・援助会員数 17人 ・依頼会員数 153人 ・両方会員 1人	B
令和6年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努める。	・利用件数 433件 ・利用時間 1022.5時間 ・援助会員数 19人 ・依頼会員数 155人 ・両方会員 1人	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

73

事業名	待機児童解消（保育所・認定こども園・小規模保育事業所等の充実）				子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供				
当初計画						
事業概要	・既存の保育施設の定員の拡充等を図ります。 ・幼稚園等における預かり保育の充実を進めて、短期間就労の保護者に対する子育て支援も図ります。					
目標値	待機児童数0人					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 （実績）	・小規模保育事業所の移転による定員拡充 ・既存の保育施設の定員拡充 ・公立幼稚園のあり方についての検討。 ・預かり保育事業の充実の検討。			・小規模保育事業所もあなこびとのこやの移転に対し補助金を交付し、定員を8名から12名に拡充した。 ・幼保連携型認定こども園サンキッズ国府の2歳児の定員拡充について事業者と協議を行い、定員を12名から15名に拡充した。 ・令和6年度の開園を目指して町立幼稚園1園を幼保連携型認定こども園へ移行する計画について検討を行い、対象施設を大磯幼稚園とすること、手法を民営化による公私連携幼保連携型認定こども園への移行とすることとし、事業の方向性を具体化した。 ・公立幼稚園の預かり保育を拡充し、長期休業期間中も実施した。 R3.4.1 待機児童数 8人		B
令和3年度 （実績）	・認定こども園運営法人の公募及び選定の準備。 ・預かり保育事業の充実。			・認定こども園移行については、アンケート調査、大磯幼稚園保護者への説明会・意見交換等を実施し、事業への理解を求めるとともに意見聴取を行い、事業の参考とした。また、設置運営事業者の募集・選定準備を行った。 ・公立幼稚園の預かり保育については、長期休業中の実施日及び実施時間の拡充を行った。 R4.4.1 待機児童数 9人		B

73			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・認定こども園運営法人の公募及び選定。 ・認定こども園運営法人による建築設計。	・認定こども園設置運営事業者選定委員会を開催し、公私連携幼保連携型認定こども園の設置運営事業者を選定した。その後、町長の方針転換に基づき、町立認定こども園整備に向けての準備及び、保護者説明会（参加者32名）を行った。 ・公立幼稚園の預かり保育については、実施日の拡充を行った（週3日→週5日）。 R5.4.1 待機児童数 18人	C
令和5年度 (実績)	町立認定こども園整備工事実施設計業務委託 公立保育所のあり方についての検討	認定こども園の開園及び待機児童対策について、町立化あるいは民間の力を借りるか、いずれの可能性も排除せずにゼロベースで再検討した結果、認定こども園の早期開園の実現に寄与できる民営化（公私連携幼保連携型認定こども園）で園舎を新設（新築）することを決定し、令和4年度に選定委員会により選定した事業者を設置運営事業者として再選定した。	C
令和6年度 (実績)	設置運営事業者による施設整備準備（新園舎の設計等） 公立保育所のあり方についての検討	令和9年度の開園をめざして、設置運営事業者と連携し、新園舎の基本設計や国交付金の申請手続き等を進めた。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

74

事業名	保育所・認定こども園・小規模保育事業所等の事業実施の支援			子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援			
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供			
当初計画					
事業概要	国が定める基準により算定した公定価格に基づき、幼稚園、保育所、認定こども園に対する「施設型給付」及び小規模保育事業所等に対する「地域型保育給付」として、財政支援を行います。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	児童保育委託料、施設型給付費、地域型保育給付費の支出。			・保育を必要とする児童のうち、私立保育所及び管外の公立保育所に児童の保育を委託する際に「児童保育委託料」(23園、延べ1,867人)、小規模保育施設に対し「地域型保育給付費」(2園、延べ120人)を支出した。 ・子ども子育て支援新制度に移行した私立幼稚園(1号認定)及び認定こども園(1・2・3号)に在籍する児童の保育を委託する際に「施設型給付費」(10園、延べ3,341人)を支出した。	A
令和3年度 (実績)	児童保育委託料、施設型給付費、地域型保育給付費の支出。			・保育を必要とする児童のうち、私立保育所及び管外の公立保育所に児童の保育を委託する際に「児童保育委託料」(20園、延べ1,726人)、小規模保育施設に対し「地域型保育給付費」(3園、延べ158人)を支出した。 ・子ども子育て支援新制度に移行した私立幼稚園(1号認定)及び認定こども園(1・2・3号)に在籍する児童の保育を委託する際に「施設型給付費」(13園、延べ3,670人)を支出した。	A

74			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	児童保育委託料、施設型給付費、地域型保育給付費の支出。	・保育を必要とする児童のうち、私立保育所及び管外の公立保育所に児童の保育を委託する際に「児童保育委託料」(21園、延べ1,805人)、小規模保育施設に対し「地域型保育給付費」(2園、延べ155人)を支出した。 ・子ども子育て支援新制度に移行した私立幼稚園(1号認定)及び認定こども園(1・2・3号)に在籍する児童の保育を委託する際に「施設型給付費」(11園、延べ3,522人)を支出した。	A
令和5年度 (実績)	児童保育委託料、施設型給付費、地域型保育給付費の支出。	・保育を必要とする児童のうち、私立保育所及び管外の公立保育所に児童の保育を委託する際に「児童保育委託料」(27園、延べ1,866人)、小規模保育施設に対し「地域型保育給付費」(3園、延べ168人)を支出した。 ・子ども子育て支援新制度に移行した私立幼稚園(1号認定)及び認定こども園(1・2・3号)に在籍する児童の保育を委託する際に「施設型給付費」(11園、延べ3,267人)を支出した。	A
令和6年度 (実績)	児童保育委託料、施設型給付費、地域型保育給付費の支出。	・保育を必要とする児童のうち、私立保育所及び管外の公立保育所に児童の保育を委託する際に「児童保育委託料」(25園、延べ1,773人)、小規模保育施設に対し「地域型保育給付費」(3園、延べ321人)を支出した。 ・子ども子育て支援新制度に移行した私立幼稚園(1号認定)及び認定こども園(1・2・3号)に在籍する児童の保育を委託する際に「施設型給付費」(10園、延べ3,087人)を支出した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

75

事業名	認定こども園の活用				子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供				
当初計画						
事業概要	病後児保育・一時保育など、子育て支援サービスの充実を図ります。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業、延長保育、預かり保育、病後児保育を実施。			・一時保育事業 サンキッズ国府 年間延べ775人が利用 ・延長保育事業 認定こども園あおばと 年間延べ121人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,169人が利用 ・預かり保育 認定こども園あおばと 年間延べ851人が利用 サンキッズ国府 年間延べ349人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ65人が利用		A
令和3年度 (実績)	幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業、延長保育、預かり保育、病後児保育を実施。			・一時保育事業 サンキッズ国府 年間延べ697人が利用 ・延長保育事業 認定こども園あおばと 年間延べ126人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,673人が利用 ・預かり保育 認定こども園あおばと 年間延べ743人が利用 サンキッズ国府 年間延べ983人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ41人が利用		A

			75
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業、延長保育、預かり保育、病後児保育を実施。	・一時保育事業 サンキッズ国府 年間延べ787人が利用 ・延長保育事業 認定こども園あおばと 年間延べ330人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,870人が利用 ・預かり保育 認定こども園あおばと 年間延べ746人が利用 サンキッズ国府 年間延べ877人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ43人が利用	A
令和5年度 (実績)	幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業、延長保育、預かり保育、病後児保育を実施。	・一時保育事業 サンキッズ国府 年間延べ824人が利用 ・延長保育事業 認定こども園あおばと 年間延べ352人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,906人が利用 ・預かり保育 認定こども園あおばと 年間延べ1,379人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,175人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ60人が利用	A
令和6年度 (実績)	幼保連携型認定こども園において、一時預かり事業、延長保育、預かり保育、病後児保育を実施。	・一時保育事業 サンキッズ国府 年間延べ763人が利用 ・延長保育事業 認定こども園あおばと 年間延べ356人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,704人が利用 ・預かり保育 認定こども園あおばと 年間延べ2,070人が利用 サンキッズ国府 年間延べ760人が利用 ・病後児保育 認定こども園あおばと 年間延べ53人が利用	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

76

事業名	育休、産休明け保育の充実				子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供				
当初計画						
事業概要	・育児・介護休業法改正に基づき、最長2歳まで取得できるようになった育児休業を安心して満了し、円滑な保育の利用を確保するよう努めます。 ・保育施設等の情報提供や保護者の相談に対応する子育てコンシェルジュを配置し、円滑な保育の利用につなげていきます。					
目標値	子育てコンシェルジュ3か所配置					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	子育てコンシェルジュ3か所配置			子育てコンシェルジュ3か所配置		A
令和3年度 (実績)	子育てコンシェルジュ3か所配置			子育てコンシェルジュ3か所配置		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子育てコンシェルジュ3か所配置	子育てコンシェルジュ3か所配置 令和5年度から開始するはぐくみサロンの準備を行った。	A
令和5年度 (実績)	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施(13回 96人)	A
令和6年度 (実績)	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施(21回 92人)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

77

事業名	延長、一時、休日、夜間保育				子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供				
当初計画						
事業概要	・保護者の就労形態の多様化に対応するため、公立及び私立保育所、私立認定こども園、私立小規模保育事業所において延長保育を行うとともに、私立保育所及び私立認定こども園での一時保育、休日における保育ニーズに応えるため、私立保育所の休日保育事業を推進します。 ・夜間保育事業については、保育ニーズを考慮した中で、検討します。					
目標値	継続実施					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	延長保育、一時保育、休日保育の実施。			・延長保育 国府保育園 年間延べ1,581人が利用 サンキッズ大磯 年間延べ4,715人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ 31人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ 121人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,169人が利用 ・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ1,082人が利用 (うち休日保育 年間延べ70人が利用) サンキッズ国府 年間延べ 775人が利用		A
令和3年度 (実績)	延長保育、一時保育、休日保育の実施。			・延長保育 国府保育園 年間延べ1,548人が利用 サンキッズ大磯 年間延べ4,008人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ 198人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ 126人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,673人が利用 ・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ867人が利用 (うち休日保育 年間延べ132人が利用) サンキッズ国府 年間延べ 697人が利用		A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	延長保育、一時保育、休日保育の実施。	・延長保育 国府保育園 年間延べ1,929人が利用 サンキッズ大磯 年間延べ5,107人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ 34人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ 330人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,870人が利用 ・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ566人が利用 (うち休日保育 年間延べ76人が利用) サンキッズ国府 年間延べ787人が利用	A
令和5年度 (実績)	延長保育、一時保育、休日保育の実施。	・延長保育 国府保育園 年間延べ2,013人が利用 サンキッズ大磯 年間延べ4,191人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ 104人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ 352人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,906人が利用 ・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ945人が利用 (うち休日保育 年間延べ59人が利用) サンキッズ国府 年間延べ824人が利用	A
令和6年度 (実績)	延長保育、一時保育、休日保育の実施。	・延長保育 国府保育園 年間延べ1,163人が利用 サンキッズ大磯 年間延べ3,899人が利用 もあなこびとのこや 年間延べ 248人が利用 認定こども園あおばと 年間延べ 356人が利用 サンキッズ国府 年間延べ1,704人が利用 ・一時保育事業 サンキッズ大磯 年間延べ805人が利用 (うち休日保育 年間延べ54人が利用) サンキッズ国府 年間延べ763人が利用	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

78

事業名	病児、病後児保育				子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供				
当初計画						
事業概要	小学校就学前児童が病気の回復期において集団保育等が困難な期間に一時的に預かる病後児保育の活用を図っていきます。					
目標値	利用児童数年間50人以上(延べ人数)					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	病後児保育事業を継続。			・引き続き、認定こども園あおばとにおいて、大磯町及び二宮町両町の児童に対する病後児保育事業を実施。 ・登録児童数47名(大磯町:35名、二宮町:12名) ・利用児童数20名(大磯町:11名、二宮町:9名)		B
令和3年度 (実績)	病後児保育事業を継続。			・引き続き、認定こども園あおばとにおいて、大磯町及び二宮町両町の児童に対する病後児保育事業を実施。 ・登録児童数66名(大磯町:56名、二宮町:10名) ・利用児童数41名(大磯町:32名、二宮町:9名)		B

年 度		年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)		病後児保育事業を継続。	・引き続き、認定こども園あおばとにおいて、大磯町及び二宮町両町の児童に対する病後児保育事業を実施。 ・登録児童数70名(大磯町:57名、二宮町:13名) ・利用児童数43名(大磯町:31名、二宮町:12名)	B
令和5年度 (実績)		病後児保育事業を継続。	・引き続き、認定こども園あおばとにおいて、大磯町及び二宮町両町の児童に対する病後児保育事業を実施。 ・登録児童数84名(大磯町:55名、二宮町:29名) ・利用児童数60名(大磯町:29名、二宮町:31名)	A
令和6年度 (実績)		病後児保育事業を継続。	・引き続き、認定こども園あおばとにおいて、大磯町及び二宮町両町の児童に対する病後児保育事業を実施。 ・登録児童数74名(大磯町:54名、二宮町:20名) ・利用児童数53名(大磯町:32名、二宮町:21名)	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

79

事業名	保育士の確保			子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援			
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供			
当初計画					
事業概要	保育需要の増加に伴い、保育体制を支える保育士の確保に向け、国・県と連携し、体制づくりを進めていきます。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	保育士就労支援事業交付金制度の導入の検討。			保育士就労支援事業交付金制度の導入を検討し、令和3年度の実施に向けた制度設計を行った。	B
令和3年度 (実績)	保育士就労支援事業交付金制度の導入の検討。			保育士就労支援事業交付金制度の運用を開始し、保育士2名に対して交付金を交付した。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・保育士就労支援事業交付金制度の継続実施。 ・その他の保育士の確保方策の検討。	・保育士就労支援事業交付金制度の運用を行った(交付対象者0人)。 ・県内市町村が実施している保育士の確保方策について情報収集を行った。	B
令和5年度 (実績)	・保育士就労支援事業交付金制度の継続実施。 ・保育士就労に係る社会状況を踏まえ、保育士就労支援事業交付金制度の次年度以降の継続実施の必要性について検討。 ・その他の保育士の確保方策の検討。	・保育士就労支援事業交付金制度の運用を行った(交付対象者7人)。 ・県内市町村が実施している保育士の確保方策について情報収集を行った。	A
令和6年度 (実績)	保育士の確保方策の検討。	・保育士就労支援事業交付金制度の運用を行った(交付対象者10人)。 ・県内市町村が実施している保育士の確保方策について情報収集を行った。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

80

事業名	利用者のへの支援（子育てコンシェルジュ等）				子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-1	多様な保育サービスの提供				
当初計画						
事業概要	・幼稚園・保育所等や地域の子育て支援事業等の利用について情報集約と提供を行うとともに、子どもや保護者からのそれらの利用にあたっての相談に応じ、必要な情報提供、助言をし、関係機関との連絡調整を行う子育てコンシェルジュを配置します。また、各幼稚園・保育所等に勤務している子育て関係者を対象に、講座などを開催し、コーディネーターを養成し、配置していきます。					
目標値	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コーディネーター8人配置					
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他	
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 （実績）	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コーディネーター8人配置			・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・各園に勤務している子育て関係者を対象に、子育て支援分野に関する研修を実施した。		B
令和3年度 （実績）	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コーディネーター8人配置			・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・各園に勤務している子育て関係者を対象に、子育て支援分野に関する研修を実施した。		B

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コーディネーター8人配置	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・各園に勤務している子育て関係者を対象に、子育て支援分野に関する研修を実施した。 ・令和5年度から開始するはぐくみサロンの準備を行った。	B
令和5年度 (実績)	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コーディネーター8人配置 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)の実施	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・各園に勤務している子育て関係者を対象に、子育て支援分野に関する研修を実施した。 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)を13日実施した。	B
令和6年度 (実績)	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コーディネーター8人配置 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる出張育児相談等)の実施(修正)	・子育てコンシェルジュ3か所配置 ・コンシェルジュを含めた子育て関係者を対象に、子育て支援分野に関する研修を実施した。 ・はぐくみサロン(子育てコンシェルジュによる育児相談等)を21日実施した。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

81

事業名	学童保育の充実			子育て支援課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援			
施策の方向	5-2	放課後児童対策の充実			
当初計画					
事業概要	・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置します。 ・研修等を通じ学童保育支援員等の質の向上に努めます。				
目標値	継続実施				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する。			・大磯学童クラブ 145人 ・国府学童クラブ 105人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。	A
令和3年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する。 ・利用児童の増加傾向にあるため子どもの情緒面や安全性に十分な配慮が行き届く体制を目指していく。			・大磯学童クラブ 147人 ・国府学童クラブ 104人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。	A

81			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する。 ・児童数の増加に対する対策を検討する。	・大磯学童クラブ 173人 ・国府学童クラブ 111人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。 ・大磯町学童保の学年スペースの利用拡充について、大磯町学校と調整を行った。 ・大磯町学童保育運営事業者選定委員会を開催し、令和5年4月1日から運営する事業者の選定を行い、事業者を決定した。	A
令和5年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する ・利用児童数の増加に伴い、新たに学童保育実施場所の確保について検討する。	・大磯学童クラブ 177人 ・国府学童クラブ 112人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置できた。 ・大磯町学童保の学年スペースの利用拡充について、大磯町学校と調整し、整理整頓を行った。 ・事業者への指導監査を実施し、適正な運営に努めた。	A
令和6年度 (実績)	・労働などにより昼間保護者が家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や学校休業時の長期休暇中などに、保護者に代わって保育を実施。(小学校6年生までの保育を実施) ・子どもの情緒面や安全性を配慮し、おおむね40人のグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置する。 ・利用児童数の増加に伴い、新たに学童保育実施場所の確保について検討する。	・大磯学童クラブ 191人 ・国府学童クラブ 112人 1つのグループに有資格者を含めて2名以上の職員を配置した。 ・大磯町学童保育所の学年スペースの利用拡充について、大磯小学校や学校教育課と調整を行い、環境整備の検討を行った。 ・国府小学校の利用者数の増が見込まれたので、令和7年度からあらたに体育館2階会議室を保育スペースとして確保した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

82

事業名	男女共同参画の講演会、講座			町民課／学校教育課／生涯学習課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援			
施策の方向	5-3	仕事と生活の調和の実現			
当初計画					
事業概要	町民	『大磯町男女共同参画推進プラン』に基づき、男女共同参画を啓発します。			
	学校教育	全ての教育活動において、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進します。			
	生涯				
目標値	町民	・『大磯町男女共同参画推進プラン』の見直しおよび新プランの策定 ・男女共同参画講演会・講座を年1回以上実施			
	学校教育	継続実施			
	生涯				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	町民課	・『大磯町男女共同参画推進プラン』の見直し ・男女共同参画講演会・講座の実施	・『第2次大磯町男女共同参画推進プラン』の運用。 ・『第3次大磯町男女共同参画推進プラン』の策定。 ・男女共同参画講演会を1回開催。(参加人数:14名)		A
	学校教育	継続実施	全ての教育活動において、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進した。		A
	生涯学習	男女共同参画の視点で社会教育を推進する。	ファミリー教室において、男女が対等な家族の構成員として互いに協力する家庭教育を推進を行う予定であったが、R2年度はファミリー教室を中止した。		B*
令和3年度 (実績)	町民課	・『大磯町男女共同参画推進プラン』の見直し及び新プランの策定 ・男女共同参画講座の実施	・『第3次大磯町男女共同参画推進プラン』を策定し、計画に基づき各種施策や事業を実施した。 ・男女共同参画講座を開催した(参加人数:19名)。		A
	学校教育	全ての教育活動において、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進する。	全ての教育活動において、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進した。		A
	生涯学習	男女共同参画の視点で社会教育を推進する。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回予定していた講座のうち1回のみ開催した。ファミリー教室Ⅰ「地域の子どもたちの子育て環境・危険予知トレーニング」(参加人数16人) ・人権教育において、LGBTsへの理解が進むようR4年度講師の検討を行った。		B*

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	町民課	男女共同参画講演会・講座の実施	・『第3次大磯町男女共同参画推進プラン』を運用し、計画に基づき各種施策や事業を実施した。 ・男女共同参画講座を開催した(参加人数:7名)。	A
	学校教育	全ての教育活動において、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進する。	・全ての教育活動において、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進した。	A
	生涯学習	男女共同参画の視点で社会教育を推進する。	・「多様性を認め自分らしく生きられる社会づくり」をテーマとして人権教育講演会を開催した。(参加人数44人)	A
令和5年度 (実績)	町民課	男女共同参画講演会・講座の実施	・『第3次大磯町男女共同参画推進プラン』に基づき各種施策や事業を実施した。 ・男女共同参画講座を開催した(参加人数:30名)。	A
	学校教育	全ての教育活動において、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進する。	・全ての教育活動において、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進した。	A
	生涯学習	男女共同参画の視点で社会教育を推進する。	『子どもの人権を「守る」とは?』をテーマとして人権養育講演会を開催した。(参加人数79人)	A
令和6年度 (実績)	町民課	男女共同参画講演会・講座の実施	・『第3次大磯町男女共同参画推進プラン』に基づき男女共同参画講座を開催した(参加人数:25名)。	A
	学校教育	全ての教育活動において、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進する。	・男女混合名簿の使用や敬称において男女にかかわらず子どもたちを「さん」づけでよぶなど全ての教育活動において、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がその個性と能力を発揮できるような教育を推進した。	A
	生涯学習	男女共同参画の視点で社会教育を推進する。	『つながり支え合うまちづくり～少子化・災害を越えて～』をテーマとして人権教育講演会を開催した。(参加人数65人)	A

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

83

事業名	男女が共に子育てに参加する環境づくりの推進			子育て支援課／生涯学習課 (～R5スポーツ健康課／子育て支援課/生涯学習課)	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援			
施策の方向	5-3	仕事と生活の調和の実現			
当初計画					
事業概要	父親が子育てについて積極的に参加できるような意識啓発を、教室や講座、研修会などを通じ実施します。				
目標値	スポーツ	マタニティスクール(沐浴実習) 5回/年			
	子育て	イクメン講座 3回/年(令和4年度から土曜日講座に名称変更)			
	生涯	ファミリー教室 3回/年			
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	スポーツ	マタニティスクール(沐浴実習)の実施	教室3回・個別2回 計5回/年		A
	子育て支援	イクメン講座を年3回開催する。	イクメン講座 2回		B
	生涯学習	ファミリー教室を年3回開催する。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた講座を中止とした。		B*
令和3年度 (実績)	スポーツ	マタニティスクール(沐浴実習)の実施	教室9回・個別21回 計30回/年		A
	子育て支援	イクメン講座を年3回開催する。	・イクメン講座 2回 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた3回の講座を1回中止し2回実施した。		B*
	生涯学習	ファミリー教室を年3回開催する。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回予定していた講座のうち1回のみ開催した。ファミリー教室Ⅰ「地域の子どもたちの子育て環境・危険予知トレーニング」(参加人数16人) ・次年度以降に向けた講座準備		B*

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ	マタニティスクール(沐浴実習)の実施	教室5回・個別7回 計12回/年	A
	子育て支援	イクメン講座を年3回開催する。	土曜日講座(イクメン講座から名称変更) 2回	B
	生涯学習	ファミリー教室を年3回開催する。	・ファミリー教室を3回開催した。 「思春期の子どもの行動が示すもの」(参加人数11人)、「中学生体験クッキング」(参加人数11人)、「親子版画体験」(参加人数11人) ・次年度以降に向けた講座準備	A
令和5年度 (実績)	スポーツ	・マタニティスクール(沐浴実習)の実施 ・参加者において夫・パートナーが出席した割合	・教室5回・個別6回 計11回/年 ・夫・パートナーの出席率 82.6%	A
	子育て支援	土曜日講座を年3回開催する。	土曜日講座を年2回開催した。	B
	生涯学習	ファミリー教室を年3回開催する。	・ファミリー教室を1回実施した。 「親子体験みそ作り」(参加者20人)。親子で学ぶLINE教室を実施予定であったが、希望者が少なく実施しなかった。 ・次年度以降に向けた講座準備	B
令和6年度 (実績)	子育て支援課	・マタニティスクール(沐浴実習)の実施 ・参加者において夫・パートナーが出席した割合 ・土曜日講座を年4回開催する。(修正)	・教室5回・個別7回 計12回/年 ・夫・パートナーの出席率 72.2% ・土曜日に開催した講座 4回/年	A
	生涯学習	ファミリー教室を年3回開催する。	・ファミリー教室を2回実施した。 「親子で挑戦!ちょっとむずかしい折り紙」(参加者17人) 「親子で体験!みそ作り」(参加者25人)	B
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

84

事業名	事業所への啓発				産業観光課	
基本目標	5	子育てと仕事の両立支援				
施策の方向	5-3	仕事と生活の調和の実現				
当初計画						
事業概要	町広報等への掲載や商工会と連携し、町内事業所に、従業員が育児休業を取得できるよう働きかけます。					
目標値	パンフレット等配布 70事業所					
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	商工会と連携し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行う。			町内68事業所にパンフレット等を配布し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行った。		B
令和3年度 (実績)	商工会と連携し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行う。			町内68事業所にパンフレット等を配布し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行った。		B

84			
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	商工会と連携し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行う。	・町内68事業所にパンフレット等を配布し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行った。	B
令和5年度 (実績)	商工会と連携し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行う。	・町内68事業所にパンフレット等を配布し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行った。	B
令和6年度 (実績)	商工会と連携し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行う。	・町内68事業所にパンフレット等を配布し、対象となる社員等を持つ事業所等に対する普及啓発を行った。	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

85

事業名		(発達)障がいのある子どもへの支援		子育て支援課／福祉課 (～R5 スポーツ健康課／子育て支援課／福祉課)			
基本目標		6	心配りが必要な子どもたちへの支援				
施策の方向		6-1	配慮が必要な子どもへの支援				
当初計画							
事業概要		スポーツ	乳幼児健診時に子ども発達相談員による子ども発達支援相談を併設し、子どものことば、生活習慣、社会性、親子関係などの相談に対応します。健診フォロー教室を開催し、遊びを通して子どもの発達を促し、より良い親子関係が築けるように支援を行います。				
		子育て	・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児に対して、関係機関と連携した総合的な支援体制整備を図ります。 ・発達の遅れなどが懸念される児童に対して相談記録シート(はぐくみサポートファイル)を活用し、ネットワークの強化に努めます。				
		福祉課	・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたります。 ・学齢期の障がい児に対して、放課後や長期休暇中において生活能力向上のための訓練を行う「放課後等デイサービス」の支給決定をします。 ・未就学の障がい児に対して、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の向上、集団生活への適応訓練などを行う「児童発達支援」の支給決定をします。				
目標値		スポーツ	継続実施				
		子育て	子ども発達支援会議3回以上/年				
		福祉	継続実施				
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	課	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	スポーツ	継続実施			・乳幼児健診時 相談38件 ・健診フォロー教室 18回、144人、相談13件		A
	子育て	子ども発達支援会議を開催			年2回		B
	福祉課	・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。 ・障がいまたは療育が必要な児を養育している保護者の相談に乗り、ニーズに合わせた障がい福祉サービスを紹介し利用に繋げる。			・巡回リハビリテーション利用者 15名 ・短期入所支給決定者 7名 ・児童発達支援利用者 24名 ・放課後等デイサービス利用者 48名		A
令和3年度 (実績)	スポーツ	継続実施			・乳幼児健診時 相談38件 ・健診フォロー教室 18回、144人、相談13件		A
	子育て	子ども発達支援会議を開催			年0回(案件なしのため)		B
	福祉課	・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。 ・障がいまたは療育が必要な児を養育している保護者の相談に乗り、ニーズに合わせた障がい福祉サービスを紹介し利用に繋げる。			・巡回リハビリテーション利用者 15名 ・短期入所支給決定者 4名 ・児童発達支援利用者 21名 ・放課後等デイサービス利用者 57名		A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ	継続実施	・乳幼児健診時 相談51件 ・健診フォロー教室 18回、183人、相談21件	A
	子育て	子ども発達支援会議を開催	年0回(案件なしのため)	B
	福祉課	・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。 ・障がいまたは療育が必要な児を養育している保護者の相談に乗り、ニーズに合わせた障がい福祉サービスを紹介し利用に繋げる。	・巡回リハビリテーション利用者 15名 ・短期入所支給決定者 2名 ・児童発達支援利用者 32名 ・放課後等デイサービス利用者 70名	A
令和5年度 (実績)	スポーツ	継続実施	・乳幼児健診時 相談69件 ・健診フォロー教室 18回、306人、相談5件	A
	子育て	子ども発達支援会議を開催	年0回(案件なしのため)	B
	福祉課	・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。 ・障がいまたは療育が必要な児を養育している保護者の相談に乗り、ニーズに合わせた障がい福祉サービスを紹介し利用に繋げる。	・巡回リハビリテーション延べ利用者数 20名 ・短期入所支給決定者 2名 ・児童発達支援利用者 33名 ・放課後等デイサービス利用者 81名	A
令和6年度 (実績)	子育て支援課	子ども発達支援会議を開催	・乳幼児健診時 相談55件 ・健診フォロー教室 18回、196人、相談9件 ・子ども発達支援会議 0回(案件なしのため)	B
	福祉課	・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。 ・障がいまたは療育が必要な児を養育している保護者の相談に乗り、ニーズに合わせた障がい福祉サービスを紹介し利用に繋げる。	・巡回リハビリテーション延べ利用者数 11名 ・短期入所支給決定者 5名 ・児童発達支援利用者 23名 ・放課後等デイサービス利用者 95名	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

86

事業名		園や学校における人材配置や相談体制		子育て支援課／学校教育課		
基本目標		6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向		6-1	配慮が必要な子どもへの支援			
当初計画						
事業概要		・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制整備を図ります。 ・臨床心理士等が、町内各幼稚園・保育所等・小・中学校を巡回し、特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援します。				
		学校教育	・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営します。			
目標値		子育て支援	子ども発達支援会議3回以上/年			
		学校教育	継続実施			
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	子育て支援	子ども発達支援会議を開催			年2回	B
	学校教育課	・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制整備を図る。 ・臨床心理士等が、町内各幼稚園・保育所・小・中学校を巡回し、特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援する。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。			・教育相談担当者連絡会を開催し、発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制の整備を図った。 ・教育研究所のスクールアドバイザー（臨床心理士）が小・中学校を巡回し、また、各校の要請に応じて特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援。	A
令和3年度 (実績)	子育て支援	子ども発達支援会議を開催			年0回(案件なしのため)	B
	学校教育課	・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制整備を図る。 ・臨床心理士等が、町内各幼稚園・保育所・小・中学校を巡回し、特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援する。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。			・教育相談担当者連絡会を開催し、発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制の整備を図った。 ・教育研究所のスクールアドバイザー（臨床心理士）が小・中学校を巡回し、また、各校の要請に応じて特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援。	A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子育て支援	子ども発達支援会議を開催	年0回(案件なしのため)	B
	学校教育課	・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制整備を図る。 ・臨床心理士等が、町内各幼稚園・保育所・小・中学校を巡回し、特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援する。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。	・各校の教育相談担当者を集めた連絡協議会を開催し、発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制の整備を図った。 ・教育研究所のスクールカウンセラー(臨床心理士)が小学校を巡回し、また、各校の要請に応じて特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援。	A
令和5年度 (実績)	子育て支援	子ども発達支援会議を開催	年0回(案件なしのため)	B
	学校教育課	・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制整備を図る。 ・臨床心理士等が、町内各幼稚園・保育所・小・中学校を巡回し、特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援する。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。	・各校の教育相談担当者を集めた連絡協議会を開催し、発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制の整備を図った。 ・教育研究所のスクールカウンセラー(臨床心理士)が小学校を巡回し、また、各校の要請に応じて特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援。	A
令和6年度 (実績)	子育て支援	子ども発達支援会議を開催	・子ども発達支援会議 年0件(案件なしのため) ・こども発達相談員が町内各幼稚園、保育園等を巡回し、幼児の発達面について保育士等に助言し、指導内容や指導方法の工夫に行かせるよう支援。	B
	学校教育課	・発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制整備を図る。 ・臨床心理士等が、町内各幼稚園・保育所・小・中学校を巡回し、特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援する。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。	・各校の教育相談担当者を集めた連絡協議会を開催し、発達障がい等を含む、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、関係機関等と連携した総合的な支援体制の整備を図った。 ・教育研究所のスクールカウンセラー(臨床心理士)が小学校を巡回し、また、各校の要請に応じて特別な支援が必要と思われる子どもの特性理解・対処方法などを助言し、発達促進を支援。 ・心理的・情緒的な問題を抱えて学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を活用し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援を充実させた。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

87

事業名	専門職による相談機能の充実			子育て支援課／福祉課／学校教育課 (～R5 スポーツ健康課／子育て支援課／福祉課／学校教育課)		
基本目標	6	心配りが必要な子どもたちへの支援				
施策の方向	6-1	配慮が必要な子どもへの支援				
当初計画						
事業概要	子育て	・子育て支援総合センターに専門の相談員を配置することにより、子育て中に生じる様々な問題などに対して適切な対応を行います。 ・発達の遅れなどが懸念される児童に対して相談記録シート(はぐくみサポートファイル)を作成し、ネットワークの強化に努めます。				
	スポーツ	・乳幼児について、随時保健師による健康相談・育児相談を行います。1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査時に子ども発達相談員による子ども発達相談を併設し、子どものことば、生活習慣、社会性、親子関係などの相談に対応します。健診フォロー教室を開催し、遊びを通して子どもの発達を促し、より良い親子関係が築けるように支援します。				
	福祉	・障がい児に関する総合的な相談支援を実施します。その他、児童相談所等と連携するとともに、委託相談支援事業所と障がい児の相談支援事業を実施します。 ・県立総合療育相談センター主催によりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたります。				
	学校	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営します。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施します。				
目標値	子育て	相談件数100件/年				
	スポーツ	継続実施				
	福祉	継続実施				
	学校	継続実施				
区分	新規		継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	課	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	子育て	専門の相談員(臨床心理士、言語聴覚士等)の配置			相談件数:539件/年	A
	スポーツ	継続実施			・乳幼児健診時 相談38件 ・健診フォロー教室 18回、144人、相談13件	A
	福祉課	・療育を希望する親の相談に乗り、放課後等デイサービスや障がい福祉サービス事業所の利用に繋げる。 ・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。			・巡回リハビリテーション利用者 15名 ・児童発達支援利用者 24名 ・放課後等デイサービス利用者 48名	A
	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施。			・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援。 ・教育研究所に配置した臨床心理士による教育相談実施。	A
令和3年度 (実績)	子育て	専門の相談員(臨床心理士、言語聴覚士等)の配置			相談件数:544件/年	A
	スポーツ	継続実施			・乳幼児健診時 相談38件 ・健診フォロー教室 18回、177人、相談24件	A
	福祉課	・療育を希望する親の相談に乗り、放課後等デイサービスや障がい福祉サービス事業所の利用に繋げる。 ・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。			・巡回リハビリテーション利用者 15名 ・児童発達支援利用者 21名 ・放課後等デイサービス利用者 57名	A
	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施。			・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーによる教育相談を実施した。	A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子育て	専門の相談員(臨床心理士、言語聴覚士等)の配置	相談件数:539件/年	A
	スポーツ	継続実施	・乳幼児健診時 相談51件 ・健診フォロー教室 18回、183人、相談21件	A
	福祉課	・療育を希望する親の相談に乗り、放課後等デイサービスや障がい福祉サービス事業所の利用に繋げる。 ・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。	・巡回リハビリテーション利用者 15名 ・児童発達支援利用者 32名 ・放課後等デイサービス利用者 70名	A
	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施。	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーによる教育相談を実施した。	A
令和5年度 (実績)	子育て	専門の相談員(臨床心理士、言語聴覚士等)の配置	相談件数:563件/年	A
	スポーツ	継続実施	・乳幼児健診時 相談69件 ・健診フォロー教室 18回、306人、相談5件	A
	福祉課	・療育を希望する親の相談に乗り、放課後等デイサービスや障がい福祉サービス事業所の利用に繋げる。 ・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。	・巡回リハビリテーション延べ利用者数 20名 ・短期入所支給決定者 2名 ・児童発達支援利用者 33名 ・放課後等デイサービス利用者 81名	A
	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施。	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーによる教育相談を実施した。	A
令和6年度 (実績)	子育て	専門の相談員(臨床心理士、言語聴覚士等)の配置	・保健師の健康相談・育児相談 1201件 ・乳幼児健診時 子ども発達相談55件 ・健診フォロー教室 18回、196人、相談9件 ・こども発達相談員の個別相談464件	A
	福祉課	・療育を希望する親の相談に乗り、放課後等デイサービスや障がい福祉サービス事業所の利用に繋げる。 ・県立総合療育相談センター主催の巡回リハビリテーションによりセンターの医師、理学療法士等が出張し、障がい児の機能回復・相談にあたる。	・巡回リハビリテーション延べ利用者数 11名 ・短期入所支給決定者 5名 ・児童発達支援利用者 23名 ・放課後等デイサービス利用者 95名	A
	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施。	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため教育支援室を運営した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーによる教育相談を実施した。 教育研究所での相談件数:336件	A

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

88

事業名	ネットワークの強化		子育て支援課		
基本目標	6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向	6-2	児童虐待防止体制の充実			
当初計画					
事業概要	・「要保護児童対策地域協議会」を活用し、家庭及び地域社会において子どもが健やかに成長し、発達できるよう、育児不安を抱えた家庭の子育てを支援するとともに、児童虐待に対応ができるネットワーク体制の充実を図ります。 ・「大磯町児童虐待相談・通告対応マニュアル」に基づき、速やかな対応を行う体制を強化します。				
目標値	・要対協議（代表者会議ほか）8回/年 ・研修会1回/年				
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 （実績）	要対協議 8回/年 研修会 1回/年			要対協議 4回/年 研修会 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	B*
令和3年度 （実績）	要対協議 7回/年 研修会 1回/年			要対協議 7回/年 研修会 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	B*

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	要対協会議 7回/年 研修会 1回/年	要対協会議 10回/年 研修会 1回/年(大磯町要保護児童対策地域協議会 研修会「児童虐待の対応の基礎及び通告等の対応に ついて」)	A
令和5年度 (実績)	要対協会議 7回/年 研修会 1回/年	要対協会議 11回/年(個別ケース検討会議除く) 研修会 1回/年(大磯町要保護児童対策地域協議会 研修会「児童虐待の役割と児童相談所の役割につい て」)	A
令和6年度 (実績)	要対協会議 10回/年(修正) 研修会 1回/年	要対協会議 6回/年(個別ケース検討会議除く) 研修会 1回/年(大磯町要保護児童対策地域協議会 研修会「地域ネットワーク構成員の専門性を図るた めの研修～ペアレントトレーニング ティーチャーズ・トレ ニング」)	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今 後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート				89			
事業名		早期把握や支援(乳幼児訪問・養育支援訪問)		子育て支援課 (～R5 スポーツ健康課／子育て支援課)			
基本目標		6	心配りが必要な子どもたちへの支援				
施策の方向		6-2	児童虐待防止体制の充実				
当初計画							
事業概要		スポーツ	・妊娠届出時から出生後まで、虐待のリスクがある事例については、産科医療機関と母子保健担当が連携して支援します。初めて出産した方を助産師や保健師が訪問し、保健指導を行うとともに、心配りが必要な母子については産科、小児科、精神科等に精通する看護職の配置のある事業所に委託している養育支援訪問事業等により支援します。				
		子育て支援	・「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導します。 ・「大磯町児童虐待相談・通告対応マニュアル」に基づき、相談・通告を受け付け、速やかな対応を行う業務体制を強化します。				
目標値		スポーツ	継続実施				
		子育て支援	こんにちは赤ちゃん事業(乳児全戸訪問事業)訪問率100%				
区分		新規		継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況		評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度		課	年度別事業目標		実績		評価
令和2年度 (実績)		スポーツ健康課	継続実施		・新生児・未熟児訪問 全数訪問(67件) ・養育支援訪問 4回		A
		子育て支援課	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%		訪問率 87.2%		B
令和3年度 (実績)		スポーツ健康課	継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。		・新生児・未熟児訪問 全数訪問(57件) ・養育支援訪問 12回		A
		子育て支援課	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%		訪問率 80.3%		B

年 度		課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	スポーツ健康課	継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。	継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。	・新生児・未熟児訪問 訪問済47件(対象53件) ・養育支援訪問 9回	A
	子育て支援課	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%	・訪問率 86.4%	B
令和5年度 (実績)	スポーツ健康課	継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。	継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。	・新生児・未熟児訪問 訪問71件 ・養育支援訪問 2回	A
	子育て支援課	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%	・訪問率 83.3%	B
令和6年度 (実績)	子育て支援課	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%、継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率100%、継続実施とともに、委託事業として訪問回数等を確保する。	保健師・助産師対応 訪問54件(対象36件) ※ うち令和5年出生児の訪問2件、訪問未実施対象については、里帰り出産1件、施設入所1件 ・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率86.5%	A
評価Cの場合					
未着手の理由と今後の対応等					

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

90

事業名	家事や育児への援助			子育て支援課	
基本目標	6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向	6-2	児童虐待防止体制の充実			
当初計画					
事業概要	ファミリー・サポート・センターの周知に努めるとともに、援助会員の研修を充実させ、心配りが必要な子どもへの安全な対応ができるように努めます。				
目標値	・利用件数200件/年 ・会員数200人				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努めます。			利用件数 415件 利用時間 2,176時間 援助会員数 25人 依頼会員数 125人 両方会員 2人	B
令和3年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努めます。			利用件数 608件 利用時間 1,578.5時間 援助会員数 25人 依頼会員数 128人 両方会員 2人	B

			90
年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努めます。	利用件数 395件 利用時間 1,135時間 援助会員数 27人 依頼会員数 124人 両方会員 2人 ・新たに、要保護児童等のうち支援が必要な者へ、ヘルパー派遣を行った。18回	B
令和5年度 (実績)	・子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努めます。 ・要保護児童等のうち支援が必要な者に対し、ヘルパーを派遣する。	・利用件数 502件 ・利用時間 1527.5時間 ・援助会員数 17人 ・依頼会員数 153人 ・両方会員 1人 ・新たに、要保護児童等のうち支援が必要な者へ、ヘルパー派遣を行った。32回	B
令和6年度 (実績)	・子どもを預けたい人と預かる人で会員組織を構成し、会員相互による育児援助活動を行うファミリー・サポート・センターの充実に努めます。 ・支援が必要な家庭に対し、子育て世帯訪問支援事業による家事・育児支援を行う。	・利用件数 433件 ・利用時間 1022.5時間 ・援助会員数 19人 ・依頼会員数 155人 ・両方会員 1人 要保護児童等のうち家事支援が必要な者へ、ヘルパー派遣を行った。48回	B
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

91

事業名	地域の見守りの充実			子育て支援課	
基本目標	6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向	6-2	児童虐待防止体制の充実			
当初計画					
事業概要	「こんにちは赤ちゃん事業」として、民生委員・児童委員や主任児童委員が第2子以降の方を訪問し、育児の不安などを聞き、必要に応じて保健師等が訪問指導します。そのフォローとして、2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」を実施します。				
目標値	・こんにちは赤ちゃん事業（乳児全戸訪問事業）訪問率100% ・2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」訪問率100%				
区分	新規	継続	拡充	完了 （事業終了）	その他
進捗状況	評価基準：A（事業達成または継続実施）、B（概ね成果あり）、B*（新型コロナの影響による）、C（未着手または検討段階）				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 （実績）	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100% ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年			・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率87.2% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率91.4% ・子育て講座「ベビーマッサージ」4回(2コース)/年 8人 ・健康に関する講座 2回/年 7人 ・イクメン講座 2回/年 4人 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた講座を一部中止とした。	B*
令和3年度 （実績）	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100% ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年			・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率80.3% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率92.2% ・子育て講座「ベビーマッサージ」3回(2コース)/年 17人 ・健康に関する講座 2回/年 7人 ・イクメン講座 2回/年 6人 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた3回の講座を1回中止し2回実施した。	B*

			91	
年 度	年度別事業目標	実績	評価	
令和4年度 (実績)	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100% ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率83.3% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率89.3% ・子育て講座「ベビーマッサージ」3回(2コース)/年 60人 ・健康に関する講座 6回/年 39人 ・土曜日講座(イクメン講座から名称変更) 2回/年 20人	B	
令和5年度 (実績)	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100% ・妊婦や乳幼児の保護者を対象とした子育て講座やイクメン講座の開催 10回以上/年	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率83.3% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率89.3% ・ペアレント・トレーニング 6日 17人 ・タッチセラピー 4日 28人	B	
令和6年度 (実績)	・こんにちは赤ちゃん事業・2歳児全戸訪問事業 訪問率100% ・ペアレント・トレーニング講座 6日 ・タッチセラピー講座 4日	・こんにちは赤ちゃん事業 訪問率86.5% ・2歳児全戸訪問事業 訪問率96.5% ・ペアレント・トレーニング 6日 22人 ・タッチセラピー 4日 30人	B	
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

92

事業名	児童虐待防止の予防			子育て支援課	
基本目標	6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向	6-2	児童虐待防止体制の充実			
当初計画					
事業概要	・子どものしつけ等についての講義、講座を開催します。親が「どのように子どもとコミュニケーションをとっていくか」という具体的な対応方法を身につけることにより、親が楽しく子育てに取り組むことを支援し、児童虐待の防止を図ります。 ・11月の児童虐待防止月間やオレンジリボンキャンペーンでは、チラシやオレンジリボンを配布し、広く町民に周知を図っていきます。				
目標値	子どものしつけ等についての講義、講座の開催				
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準:A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	年度別事業目標			実績	評価
令和2年度 (実績)	・子どものしつけ等についての講義、講座の開催 ・児童虐待防止の啓発としてオレンジリボンキャンペーンを実施する。			・お母さんのためのペアレント・トレーニング 8回/年 20人 ・児童虐待防止月間(11月)にオレンジリボンを配布した。	A
令和3年度 (実績)	・子どものしつけ等についての講義、講座の開催 ・児童虐待防止の啓発としてオレンジリボンキャンペーンを実施する。			・お母さんのためのペアレント・トレーニング 8回/年 15人 ・児童虐待防止月間(11月)にオレンジリボンを配布した。	A

年 度	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	・子どものしつけ等についての講義、講座の開催 ・児童虐待防止の啓発としてオレンジリボンキャンペーンを実施する。	・お母さんのためのペアレント・トレーニング 8回/年 26人 ・児童虐待防止月間(11月)にオレンジリボンを配布した。	B
令和5年度 (実績)	・子どものしつけ等についての講義、講座の開催 ・児童虐待防止の啓発としてオレンジリボンキャンペーンを実施する。	・お母さんのためのペアレント・トレーニング 6回/年 17人 ・児童虐待防止月間(11月)にオレンジリボンを配布した。	B
令和6年度 (実績)	・子どものしつけ等についての講義、講座の開催 ・児童虐待防止の啓発としてオレンジリボンキャンペーンを実施する。	・お母さんのためのペアレント・トレーニング 6回/年 22人 ・児童虐待防止月間(11月)にオレンジリボンを配布した。	A
評価Cの場合			
未着手の理由と今後の対応等			

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

93

事業名	相談者、スクールカウンセラーの配置			学校教育課／子育て支援課	
基本目標	6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向	6-3	いじめや不登校への対応			
当初計画					
事業概要	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者に対する援助や指導を行うため「教育支援室」を運営します。 ・教育研究所に配置した臨床心理士により、教育相談を実施します。			
	子育て支援	支援が必要な子どもに対して、専門の職員によるカウンセリングに努めます。			
目標値	学校教育課	継続実施			
	子育て支援	継続実施			
区分	新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況	評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度	課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図り、援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・スクールカウンセラーや心の教室相談員による校内教育相談体制を整備し、教育研究所に配置した臨床心理士することで子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決に向けた教育相談を実施する。	・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。 ・教育研究所に配置した臨床心理士のほか、各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を2名ずつ配置し、校内教育相談体制の整備を図った。		A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:2件		A
令和3年度 (実績)	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図り、援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・スクールカウンセラーや心の教室相談員による校内教育相談体制の整備し、教育研究所に配置した臨床心理士することで子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決に向けた教育相談を実施する。	・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーのほか、各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を2名ずつ配置し、校内教育相談体制の整備を図った。		A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:0件(案件なしのため)		B

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図り、援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・スクールカウンセラーや心の教室相談員による校内教育相談体制の整備し、教育研究所に配置した臨床心理士することで子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決に向けた教育相談を実施する。	・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーのほか、各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を2名ずつ配置し、校内教育相談体制の整備を図った。	A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:1件	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図り、援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・スクールカウンセラーや心の教室相談員による校内教育相談体制の整備し、教育研究所に配置した臨床心理士することで子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決に向けた教育相談を実施する。	・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーのほか、各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を配置し、校内教育相談体制の整備を図った。	A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:1件	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・心理的・情緒的な問題をもって学校に登校できない児童・生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図り、援助や指導を行うため「教育支援室」を運営する。 ・スクールカウンセラーや心の教室相談員による校内教育相談体制の整備し、教育研究所に配置した臨床心理士することで子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決に向けた教育相談を実施する。	・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。 ・教育研究所に配置したスクールカウンセラーのほか、各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員2名を配置し、校内教育相談体制の整備を図った。	A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:1件 面談回数4回/年 ・保護者に対して臨床心理士が面談を行い、児童の困り感に対する保護者の精神的負担の軽減を図った。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

94

事業名		保護者、児童の相談体制		学校教育課／子育て支援課		
基本目標		6	心配りが必要な子どもたちへの支援			
施策の方向		6-3	いじめや不登校への対応			
当初計画						
事業概要		学校教育課	・子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決を図るため、スクールカウンセラーや心の教室相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図ります。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の取組を町全体で円滑に進め、すべての子どもの健全育成及びいじめのない子ども社会の実現を目指します。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営します。			
		子育て	支援が必要な子どもに対して、専門の職員による個別相談を実施します。			
目標値		学校教育	継続実施			
		子育て	継続実施			
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)				
年度		課	年度別事業目標	実績		評価
令和2年度 (実績)		学校教育課	・子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決を図るため、スクールカウンセラーや心の教室相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図る。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の取組を町全体で円滑に進めていくことを目指し、すべての子どもの健全育成及びいじめのない子ども社会の実現を目指す。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営する。	・各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を2名ずつ配置し、校内教育相談体制の整備を図った。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、区長会や民生委員児童委員協議会、学校警察連絡協議会等、町内の様々な会議の場でいじめ防止に関わる連携協力や手立てについて周知した。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営し、子ども達が再び学校に登校できるよう支援した。		A
		子育て支援	・専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:2件		A
令和3年度 (実績)		学校教育課	・子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決を図るため、スクールカウンセラーや心の教室相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図る。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の取組を町全体で円滑に進めていくことを目指し、すべての子どもの健全育成及びいじめのない子ども社会の実現を目指す。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「適応指導教室」を運営する。	・各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を2名ずつ配置し、校内教育相談体制の整備を図った。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、区長会や民生委員児童委員協議会、学校警察連絡協議会等、町内の様々な会議の場でいじめ防止に関わる連携協力や手立てについて周知した。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営した。		A
		子育て支援	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:0件(案件なしのため)		A

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決を図るため、スクールカウンセラーや心の教室相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図る。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の取組を町全体で円滑に進めていくことを目指し、すべての子どもの健全育成及びいじめのない子ども社会の実現を目指す。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営する。(修正)	・各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を2名ずつ配置し、校内教育相談体制の整備を図った。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、町内の様々な会議の場でいじめ防止に関わる連携協力や手立てについて周知した。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営した。	A
	子育て支援	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:1件	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決を図るため、スクールカウンセラーや心の教室相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図る。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の取組を町全体で円滑に進めていくことを目指し、すべての子どもの健全育成及びいじめのない子ども社会の実現を目指す。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営する。(修正)	・各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を配置し、校内教育相談体制の整備を図った。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、町内の様々な会議の場でいじめ防止に関わる連携協力や手立てについて周知した。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営した。	B
	子育て支援	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:1件	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・子どもが抱えている心の悩み・不安・ストレスなどの軽減及び解決を図るため、スクールカウンセラーや心の教室相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図る。 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の取組を町全体で円滑に進めていくことを目指し、すべての子どもの健全育成及びいじめのない子ども社会の実現を目指す。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため「教育支援室」を運営する。	・各中学校区に県から派遣されたスクールカウンセラーを1名、各中学校に心の教室相談員を配置し、校内教育相談体制の整備を図った。 教育研究所での相談件数:336件 ・「大磯町いじめ防止基本方針」に基づき、町内の様々な会議の場でいじめ防止に関わる連携協力や手立てについて周知した。 ・不登校児童、生徒及びその保護者が抱える悩みなどの軽減を図るため教育支援室を運営した。	A
	子育て支援	専門の相談員(臨床心理士等)が対応する。	相談件数:1件 面談回数4回/年 ・保護者に対して臨床心理士が面談を行い、児童の困り感に対する保護者の精神的負担の軽減を図った。	A
評価Cの場合				
未着手の理由と今後の対応等				

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 進捗管理シート

95

事業名		スクールソーシャルワーカー等と福祉の連携			学校教育課／子育て支援課		
基本目標		6	心配りが必要な子どもたちへの支援				
施策の方向		6-4	子どもの貧困への対策				
当初計画							
事業概要		子どもが抱えている悩み・不安などの軽減及び解決を図るため、相談員による相談の充実や校内教育相談体制の整備を図ります。					
目標値		学校教育	継続実施				
		子育て	継続実施				
区分		新規	継続	拡充	完了 (事業終了)	その他	
進捗状況		評価基準：A(事業達成または継続実施)、B(概ね成果あり)、B*(新型コロナの影響による)、C(未着手または検討段階)					
年度	課	年度別事業目標			実績		評価
令和2年度 (実績)	学校教育課	・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談の充実を目指す。 ・家庭的・福祉的な問題に組織的な対応するため、ケース会議を開催する。			・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談、電話相談等を実施した。 ・子育て支援センター、児童相談所、教育支援室等と連携し、ケース会議を開催した。		A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)などが対応する。			相談件数:2件		A
令和3年度 (実績)	学校教育課	・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談の充実を目指す。 ・家庭的・福祉的な問題に組織的な対応するため、ケース会議を開催する。			・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談、電話相談等を実施した。 ・子育て支援センター、児童相談所、教育支援室、警察等と連携し、ケース会議を開催した。		A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)などが対応する。			相談件数:0件(案件なしのため)		B

年 度	課	年度別事業目標	実績	評価
令和4年度 (実績)	学校教育課	・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談の充実を目指す。 ・家庭的・福祉的な問題に組織的な対応するため、ケース会議を開催する。	・県や大磯町で配置しているスクールソーシャルワーカーによる訪問相談、電話相談等を実施した。 ・子育て支援センター、児童相談所、教育支援室、警察等と連携し、ケース会議を開催した。	A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)などが対応する。	相談件数:1件	A
令和5年度 (実績)	学校教育課	・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談の充実を目指す。 ・家庭的・福祉的な問題に組織的な対応するため、ケース会議を開催する。	・県や大磯町で配置しているスクールソーシャルワーカーによる訪問相談、電話相談等を実施した。 ※相談件数:116件 ・子育て支援センター、児童相談所、教育支援室、警察等と連携し、ケース会議を開催した。	A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)などが対応する。	相談件数:1件	A
令和6年度 (実績)	学校教育課	・スクールソーシャルワーカーによる訪問相談の充実を目指す。 ・家庭的・福祉的な問題に組織的な対応するため、ケース会議を開催する。	・県や大磯町で配置しているスクールソーシャルワーカーによる訪問相談、電話相談等を実施した。 ※相談件数:324件 ・子育て支援センター、児童相談所、教育支援室、警察等と連携し、ケース会議を開催した。	A
	子育て支援課	専門の相談員(臨床心理士等)などが対応する。	相談件数:1件 面談回数4回/年 ・保護者に対して臨床心理士が面談を行い、児童の困り感に対する保護者の精神的負担の軽減を図った。	A

評価Cの場合

未着手の理由と今後の対応等

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（幼児期の教育・保育）の進捗シート

1. 事業名	施設型給付の充実-1号認定子ども
2. 事業概要	幼稚園、認定こども園において、教育認定区分の子どもの保育を行う事業
3. 確保方策	第1期計画期間中において、公立幼稚園の統廃合を実施するとともに、幼保連携型認定こども園を2園新設することで、保護者の就労状況の変化にも対応しやすい施設を整備してきました。 しかし、増加傾向にある保育ニーズに注視し、既存施設の活用を図った上で、さらに公立幼稚園のあり方を検討していく必要があると考えており、1園を認定こども園へ移行する計画（定員の段階的見直し含む）となっています。 ■令和6年度 幼保連携型認定こども園 1園移行

1号認定について（当初計画）

1号認定		H30年度実績	実施時期				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①量の見込み		437人	353人	345人	365人	367人	340人
②確保方策	幼稚園 （施設型給付：公立）		330人	260人	244人	228人	155人
	幼稚園 （施設型給付：私立）		80人	80人	80人	80人	80人
	認定こども園 （幼保連携型：公立）		0人	0人	0人	0人	133人
	認定こども園 （幼保連携型：私立）		61人	61人	61人	61人	
	小計		471人	401人	385人	369人	368人
②-①			118人	56人	20人	2人	28人



1号認定について

1号認定	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績
①実績・見込	447	429	424	442人	409人	378人	333人
②確保方策			580	593人	580人	569人	569人
②-①			156人	151人	171人	191人	236人

5. 自己点検・自己評価

1号認定のニーズに対しては、幼稚園等において確保できた。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（幼児期の教育・保育）の進捗シート

1. 事業名	施設型給付の充実—2号認定こども
2. 事業概要	保育の必要性がある、満3歳以上の子どもを保育所、認定こども園等において保育する事業
3. 確保方策	第1期計画期間中において、公立幼稚園の統廃合を実施するとともに、幼保連携型認定こども園を2園新設することで、保護者の就労状況の変化にも対応しやすい施設を整備してきました。 しかし、増加傾向にある保育ニーズに注視し、既存施設の活用を図った上で、さらに公立幼稚園のあり方を検討していく必要があると考えており、1園を認定こども園へ移行する計画（定員の段階的見直し含む）となっています。 ■令和6年度 幼保連携型認定こども園 1園移行

2号認定について（当初計画）

2号認定 (保育ニーズ) (幼児期の学校教育の利用希望が多い)		H30年度 実績	実施時期				
①量の見込み		204人	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
② 確保 方 策	認可保育所 (公立)		223人	226人	230人	234人	261人
	認可保育所 (私立)		62人	62人	62人	62人	62人
	認定こども園 (幼保連携型：公立)		70人	70人	70人	70人	70人
	認定こども園 (幼保連携型：私立)		0人	0人	0人		147人
	幼稚園 (施設型給付：公立)		75人	75人	75人	75人	
	幼稚園 (施設型給付：私立)		10人	15人	15人	15人	5人
	幼稚園 (施設型給付：私立)		10人	10人	10人	10人	10人
小計			227人	232人	232人	232人	294人
②—①			4人	6人	2人	△2人	33人



2号認定について

2号認定 (保育ニーズ) (幼児期の学校教育の利用希望が多い)	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込	202人	250人	264人	259人	251人	261人	264人
②確保方策			227人	232人	232人	232人	232人
②—①			△37人	△27人	△19人	△29人	△32人

5. 自己点検・自己評価

2号認定の保育需要については、町内保育施設の定員拡充等により確保方策に取り組んできたが、保育ニーズの増加により、今後も供給不足が見込まれることから、令和9年度に町立大磯幼稚園の公私連携幼保連携型認定こども園移行事業を進め、確保方策を達成できるよう提供体制の確保をめざしていく。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（幼児期の教育・保育）の進捗シート

1. 事業名	施設型給付の充実－3号認定こども
2. 事業概要	保育の必要性がある、満3歳未満の子どもを保育所、認定こども園等において保育する事業
3. 確保方策	第1期計画期間中において、小規模保育事業所を1園、幼保連携型認定こども園を2園新設することで、保護者の就労状況の変化にも対応しやすい施設を整備してきました。 しかし、増加傾向にある保育ニーズを注視し、既存施設の活用を図った上で、さらに公立幼稚園のあり方を検討していく必要があると考えており、1園を認定こども園へ移行する計画（定員の段階的見直し含む）となっています。 ■令和3年度 小規模保育事業所・認定こども園（保育部）の定員拡充 ■令和6年度 幼保連携型認定こども園 1園移行

3号認定について（当初計画）

3号認定			H30年度実績	実施時期					
				R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	
①量の見込み			0歳	17人	23人	22人	22人	21人	21人
			1～2歳	126人	126人	126人	122人	119人	117人
			小計	143人	149人	148人	144人	140人	138人
②確保方策	認可保育所 (公立)	0歳		5人	5人	5人	5人	5人	
		1～2歳		23人	23人	23人	23人	23人	
	認可保育所 (私立)	0歳		12人	12人	12人	12人	12人	
		1～2歳		38人	38人		38人	38人	
	認定こども園 (幼保連携型)	0歳	公立	0人	0人	0人	0人	17人	
			私立	11人	11人	11人	11人		
		1～2歳	公立	0人	0人	0人	0人	69人	
			私立	39人	42人	42人	42人		
	小規模保育事業 (A型)	0歳		2人	2人	2人	2人	3人	
		1～2歳		6人	10人	10人	10人	12人	
	小計	0歳		30人	30人	30人	30人	37人	
1～2歳		106人		113人	75人	113人	142人		
合計				136人	143人	105人	143人	179人	
受給差 (②－①)			0歳	7人	8人	8人	9人	16人	
			1～2歳	△ 20 人	△ 13 人	△ 47 人	△ 6 人	25 人	



3号認定について

3号認定		H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績
①実績・見込	0歳	34人	25人	20人	18人	24人	16人	20人
	1～2歳	131人	151人	174人	168人	143人	139人	127人
	小計	165人	176人	194人	186人	167人	155人	147人
②確保方策	0歳			30人	30人	30人	30人	30人
	1～2歳			106人	113人	113人	113人	113人
	小計			136人	143人	143人	143人	143人
②－①			0歳	10人	12人	6人	14人	10人
			1～2歳	△68人	△55人	△30人	△26人	△14人

5. 自己点検・自己評価

3号認定の保育需要については、町内保育施設の定員拡充等により確保方策に取り組んできたが、保育ニーズの増加により、今後も供給不足が見込まれることから、令和9年度に町立大磯幼稚園の公私連携幼保連携型認定こども園移行事業を進め、確保方策を達成できるよう提供体制の確保をめざしていく。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）の進捗シート

1. 事業名	① 利用者支援事業
2. 事業概要	子育て期のいろいろな悩みごと・困りごと等について、専門職員と一緒に考えたり、必要な情報を提供したり、適切なサービスや支援機関を紹介しています。
3. 確保方策	現在は、子育て支援課窓口、子育て支援総合センター、子育て支援センターで、施設案内や連絡調整、各種サービスの利用支援を行っています。 子育て支援総合センター・子育て支援センターについては、令和5年度より基本型へ移行することで、両施設以外の公共施設等を活用して出張相談・訪問事業などを行うなど、事業を大幅に拡大し、子育て中の保護者に寄り添った支援をしていきます。

4. 進捗状況

提供区域	大磯町全体		指数	実施場所数（か所数）				
実施時期	H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
①量の見込み			3か所	3か所	3か所	3か所	3か所	
②確保方策			3か所	3か所	3か所	3か所	3か所	
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	



提供区域	大磯町全体		指数	実施場所数（か所数）			
実施時期	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込	2か所	3か所	3か所	3か所	3か所	3か所	3か所
②確保方策			3か所	3か所	3か所	3か所	3か所
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

令和6年度から利用者支援事業のこども家庭センター型を実施した。子育て支援総合センター、子育て支援センターと連携し、幅広い相談に応じるための体制を整えた。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）の進捗シート

1. 事業名	②	地域子育て支援拠点事業
2. 事業概要	子育て中の親子が気軽に集まって、子育てについての情報交換をしたり、お互いの不安・悩みを相談できるよう、子育て支援総合センターでは「つどいの広場」を開催しています。 また、町東部地区では、令和元年10月まで生涯学習館、高麗区民会館、東町福祉館、保健センターにおいて「つどいの広場」を週4日程度開催していましたが、令和元年11月から開設した石坂巻子記念子育て支援センターに集約し、自由遊びや育児相談を行っています。	
3. 確保方策	令和元年度より、新たに石坂巻子記念子育て支援センターを開設し、町東部地域の拠点として、子育て支援ニーズに対応できるようになっています。 今後は、さらなる子育て支援ニーズに対応できるよう運営方法なども含め検討していきます。	

4. 進捗状況

提供区域	大磯町全体		指数	年間延べ利用者数（人） ※利用人数×利用回数×12月				
実施時期	H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
①量の見込み	16,809人		17,052人	16,905人	16,316人	15,766人	15,344人	
②確保方策			常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所	
			17,052人	16,905人	16,316人	15,766人	15,344人	
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	



提供区域	大磯町全体		指数	年間延べ利用者数（人） ※利用人数×利用回数×12月			
実施時期	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込	常設1か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所
	12,641人	13,807人	5,817人	7,610人	10,608人	12,001人	11,127人
②確保方策			常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所	常設2か所
			17,052人	16,905人	16,316人	15,766人	15,344人
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

新型コロナウイルス感染症対策で中断していたランチタイムを令和6年度に再開し、親子にとってより過ごしやすい環境を整えた。また、令和6年度から子育て支援総合センターと子育て支援センターを「地域子育て相談機関」としても位置づけ、ひろばでのコンシェルジュなどへの相談に対し、「こども家庭センター」と適宜情報共有を行い、連携して相談支援に当たることができた。

1. 事業名	③ 妊婦健診
2. 事業概要	妊婦や胎児の健康の保持及び増進を図るため、妊婦に対する健康診査として、①健康状態の把握、②検査計測、③保健指導を実施するとともに、妊娠期間中の適時に必要に応じた医学的検査を実施する事業です。大磯町では、母子健康手帳交付時に、妊婦健康診査費用を補助するため、14枚の補助券を交付し、基本的な妊婦健診と健診に伴う自費の検査費用を補助しています。
3. 確保方策	実施は医療機関に委託している事業ですが、委託契約されていない診療機関において受診した場合でも、本人には償還払いされる形で対応しています。

4. 進捗状況

提供区域	大磯町全体		指数	年間延べ利用者数（人） ※年間利用人数×利用回数			
実施時期	H30年度 実績		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
①実績・見込	2,024人		2,674人	2,590人	2,534人	2,436人	2,366人
②確保方策			2,674人	2,590人	2,534人	2,436人	2,366人
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）



提供区域	大磯町全体		指数	年間延べ利用者数（人回） ※年間利用人数×利用回数				
実施時期	H30年度 実績	R 1年度 実績	R 2年度 実績	R 3年度 実績	R 4年度 実績	R 5年度 実績	R 6年度 実績	
①実績	2,024人	1,805人	1,875人	1,754人	1,488人	1,461人	1,167人	
②確保方策		2,674人	2,674人	2,590人	1,894人	1,865人	1,582人	
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	

5. 自己点検・自己評価

里帰り等で委託契約されていない医療機関等を受診した場合は、償還払いで対応した。妊婦の健康管理を図る上で重要な事業であるため、受診等についての周知を徹底し、妊婦の健康の保持及び増進が図られるよう本事業を継続実施していく。
--

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）の進捗シート

1. 事業名	④	乳児家庭全戸訪問事業
2. 事業概要	生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問することにより、子育てに関する情報の提供並びに乳児及びその保護者の心身の状況及び養育環境の把握を行うほか、療育についての相談に応じ、助言その他の援助を行う事業で、大磯町では「新生児訪問」「こんにちは赤ちゃん事業」として実施しています。 【新生児訪問】初めてのお子さんが生まれた時に、助産師が訪問し、発育の確認や育児などの相談を実施しています。 【こんにちは赤ちゃん事業】第2子以降のお子さんが生まれた時に、民生委員・児童委員（主任児童委員含む）が訪問し、4か月児健診の案内や子育て情報の提供、養育状況の確認を行っています。	
3. 確保方策	乳幼児家庭全戸訪問事業は、生後4か月までの乳児のいる家庭への訪問ということで、全数を対象としており、引き続き実施していきます。現在、新生児訪問を実施している保健師、助産師数、また、こんにちは赤ちゃん事業は、民生委員・児童委員の活動で実施していただいていますので、現在の実施体制を継続していきます。	

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	0歳児の人口推計数（人）				
実施時期		H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
①量の見込み				191人	185人	181人	174人	169人	
② 確保 方策	実施体制（保健師等）			8人	8人	8人	8人	8人	
	実施体制（民生委員・児童委員等）			54人	54人	54人	54人	54人	
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	



提供区域		大磯町全体		指数	0歳児の人口推計数（人）			
実施時期		H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績
①実績・見込	年間利用人数	149人	160人	150人	121人	112人	128人	96人
	実施体制（保健師等）			8人	8人	8人	8人	6人
	実施体制（民生委員・児童委員等）			53人	53人	50人	52人	45人
②確保方策	実施体制（保健師等）			8人	8人	8人	8人	10人
	実施体制（民生委員・児童委員等）			53人	53人	50人	54人	45人
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

第1子は助産師（委託）、第2子以降は子育てコンシェルジュと民生委員・児童委員が訪問、未熟児や継続的な支援が必要な家庭は町保健師の訪問とし、量の見込みを確保できる体制を整えた。
--

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）の進捗シート

1. 事業名	⑤－1	養育支援訪問事業、その他要支援・要保護児童等支援事業【養育支援訪問事業】
2. 事業概要	子育てに対して不安や孤立感などから養育支援が特に必要な妊産婦（産後概ね1年程度）の家庭（児童虐待の可能性のあるものを含む）に町職員が訪問し、継続して養育に関する指導、助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保するための訪問を民間事業者が行っています。	
3. 確保方策	平成29年1月より養育支援訪問するに当たり必要な産科、小児科、精神科等の看護に精通する看護職の配置がある民間事業者による訪問を実施し、人員体制を強化しました。 今後はこの体制を継続していきます。	

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	相談対応件数（人）				
実施時期		H30年度実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
①量の見込み				15人	15人	15人	15人	15人	
②確保方策	実施体制（委託）			1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	



提供区域		大磯町全体		指数	相談対応件数（人）			
実施時期		H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
① 実績・ 見込	年間利用人数（人）	4人	4人	4人	12人	9人	15人	0人
	実施体制（委託）			1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
② 確保 方策	実施体制（委託）			1か所	1か所	1か所	1か所	1か所
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

養育支援訪問は、1事業所に委託した。令和6年度の利用実績はなし。今後も養育支援が必要な家庭は一定数想定されるため、委託事業所と連携し、本事業を継続実施していく。

1. 事業名	⑤-2	養育支援訪問事業、その他要支援・要保護児童等支援事業【要保護児童対策地域協議会】
2. 事業概要	虐待をうけている子どもたちや、虐待をうけているのではないかとと思われる子どもなどの早期発見や支援を図るために関係機関が連携し、「要保護児童対策地域協議会」を設置しています。協議会では、関係者間で情報交換と支援の協議を行っています。	
3. 確保方策	地域の様々な関係団体、活動団体とも連携を深め、要保護児童の早期発見、適切な保護、対応につなげていきます。	

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	要保護児童数、要支援児童数の相談件数（人）				
実施時期		H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
①量の見込み		27人		31人	31人	31人	31人	31人	
② 確保 方策	実施体制 （コーディネーター）			3人	3人	3人	3人	3人	
②ー①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	



提供区域		大磯町全体		指数	要保護児童数、要支援児童数の相談件数（人）			
実施時期		H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込		27人	82人	107人	138人	178人	196人	174人
② 確保 方策	実施体制 （コーディネーター）			3人	3人	4人	4人	4人
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

「要保護児童対策地域協議会」の連携を強化し、児童虐待に対応ができるネットワーク体制を強化しながら早期発見、適切な支援や保護、DV等への対応に努めている。また、子ども家庭支援員などの専門職のコーディネーターを配置し、研修などで専門性の向上に努め、児童虐待の早期発見、適切な保護・対応につなげる。

1. 事業名	⑥	子育て短期支援事業
2. 事業概要	保護者の疾病等の理由により、家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行う事業（ショートステイ）及び、夜間養護等事業（トワイライトステイ事業）のことです。大磯町ではこれまで実施していません。	
3. 確保方策	ショートステイについては児童相談所等を介しての代替サービスにつなげていきます。 また、トワイライトステイについてはファミリー・サポート・センターの利用などにつなげていきます。	

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） ※年間利用人数×利用日数			
実施時期		H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①量の見込み		0人		1人	1人	1人	1人	1人
② 確保 方策	ショートステイ			1人	1人	1人	1人	1人
	トワイライトステイ			1人	1人	1人	1人	1人
②ー①					（確保）	（確保）	（確保）	（確保）



提供区域		大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） ※年間利用人数×利用日数			
実施時期		H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
② 確保 方策	ショートステイ			0人	0人	0人	1人	0人
	トワイライトステイ			0人	0人	0人	1人	0人
②－①				－	－	－	－	－

5. 自己点検・自己評価

施設側と調整したうえで、事業の実施について検討を進める。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）の進捗シート

1. 事業名	⑦	ファミリー・サポート・センター事業
2. 事業概要	育児の援助をしてほしい方（依頼会員）と援助したい方（協力会員）、そして依頼会員として子どもを預かってもらうこともあるが、時には預かることも可能な方（両方会員）とで会員を組織して、地域において会員同士で子育てを支援する相互援助活動を行うことを支援する事業です。 依頼会員：町内在住の、生後3か月から小学校6年生までのお子さんがいる方。 援助会員：町内在住で保育等に理解と情熱のある健康な方。（資格なし、研修あり）	
3. 確保方策	ファミリー・サポート・センター事業は引き続き、依頼会員・援助会員による活動を促進していきます。また、援助会員数の拡充を目指すとともに、支援内容の充実や援助会員のスキルアップを図ります。	

4. 進捗状況

提供区域	大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） ※年間利用人数×利用日数			
実施時期	H30年度実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①量の見込み	373人		339人	339人	339人	339人	339人
②確保方策			339人	339人	339人	339人	339人
②-①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）



提供区域	大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） ※年間利用人数×利用日数			
実施時期	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績
①実績・見込	373人	441人	415人	608人	395人	502人	433人
②確保方策			415人	608人	395人	502人	433人
②-①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

依頼会員に対し、援助会員数が十分に確保できているとはいえず、援助会員数の確保に努める必要がある。

1. 事業名	⑧-1 幼稚園における在園児を対象とした一時預かり（預かり保育）：一時預かり
2. 事業概要	幼稚園及び幼保連携型認定こども園に在園する児童を対象に、通常の教育時間の前後や、土曜・日曜・長期休業期間中に幼稚園が行う教育活動のことです。 公立幼稚園（2園）：週3回 14時～17時 ※令和4年度から週5回。 ※認定こども園移行までの間の待機児童対策として、令和5年度から大磯幼稚園のみ14時～18時に拡充、早朝保育を新規実施（7時30分～9時） 私立こいそ幼稚園：平日 7時30分～9時 14時～17時30分まで（長期休暇期間中も実施） 認定こども園あおばと：平日 7時～9時 14時～18時まで（長期休暇期間中も実施）（平成28年度～） サンキッズ国府：平日 7時～9時 14時～19時まで（長期休暇期間中も実施）（平成30年度～）
3. 確保方策	町では、私立幼稚園及び私立幼保連携型認定こども園が預かり保育を平日及び長期休業中に実施しているため、一定の数は確保されています。 女性の社会進出がより一層進むことを考慮し、計画期間中は公立で実施している週3回の預かり保育の実施に加え、長期休業中にも複数日実施することで、ニーズ対応してまいります。

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） ※年間利用人数×利用日数			
実施時期		H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
① ニ ー ズ 量	1号認定による利用	7,472人		6,151人	6,060人	6,356人	6,379人	5,968人
	2号認定による利用	-		228人	251人	296人	319人	319人
	小計	7,472人		6,379人	6,311人	6,652人	6,698人	6,287人
②確保方策				5か所	5か所	5か所	5か所	5か所
				6,379人	6,311人	6,652人	6,698人	6,287人
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）



提供区域		大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） ※年間利用人数×利用日数			
実施時期		H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
① ニ ー ズ 量	1号認定による利用	5,843人	5,392人	5,263人	6,546人	10,046人	10,346人	15,203人
	2号認定による利用	-	-	20人	0人	0人	0人	0人
	小計	5,843人	5,392人	5,283人	6,546人	10,046人	10,346人	15,203人
②確保方策				5か所	5か所	5か所	5か所	5か所
				5,283人	6,546人	10,046人	10,346人	15,203人
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

一時預かり事業については、町立大磯幼稚園の認定こども園移行までの間の待機児童対策として、令和6年度から大磯幼稚園で早朝保育（7:30～9:30）を新たに開始するとともに、保育時間終了後の預かり保育時間を1時間延長（17:00→18:00）し、実施体制の拡充を行った。 今後についても、各園と連携を図り、引き続き事業を実施していく。

1. 事業名	⑧-2 幼稚園における在園児を対象とした一時預かり（預かり保育）以外：一時保育
2. 事業概要	保護者の断続的・短時間の就労等や傷病、冠婚葬祭等、または育児等に伴う心理的・肉体的負担を解消するなどの通常保育所の対象外の児童に対し、一時的な保育サービスを実施する事業です。 サンキッズ大磯：平日・土曜日 7時から20時まで 日曜日・祝日 8時から18時まで サンキッズ国府：平日 7時から19時まで 土曜日 7時から18時まで
3. 確保方策	現在、サンキッズ大磯及びサンキッズ国府において実施しています。また、サンキッズ大磯では休日保育も実施しており、今後も多様なニーズに対応するため、事業の継続実施を支援していきます。

4. 進捗状況

提供区域	大磯町全体		指数	年間延べ利用者数（人） 年間利用人数×利用日数			
実施時期	H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①量の見込み	2,436人		2,675人	2,652人	2,661人	2,631人	2,599人
②確保方策			2,675人	2,652人	2,661人	2,631人	2,599人
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）



提供区域	大磯町全体		指数	年間延べ利用者数（人） 年間利用人数×利用日数			
実施時期	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込	2,436人	2,358人	1,857人	1,564人	1,353人	1,769人	1,568人
②確保方策			1,857人	1,564人	1,353人	1,769人	1,568人
②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

一時保育事業については、サンキッズ大磯、サンキッズ国府において実施しているが、今後についても、各園と連携を図り、引き続き事業を実施していく。

1. 事業名	⑨ 延長保育事業
2. 事業概要	保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日以外の日や、利用時間以外の時間において、保育所や認定こども園、小規模保育事業所にて保育を実施する事業です。 ・サンキッズ大磯 平日・土曜日 18時から20時まで ・国府保育所 平日 18時から19時まで ・もあなこびとのこや 平日・土曜日 18時30分から19時まで（平成27年度～） ・認定こども園あおばと 平日・土曜日 18時30分から19時30分まで（平成28年度～） ・サンキッズ国府 平日・土曜日 18時から19時まで（平成30年度～）
3. 確保方策	現在5園で実施しており、十分な対応が可能です。サービスを継続するとともに、就労する保護者の増加やそのニーズを捉え、より良いサービス提供となるよう工夫します。

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	年間利用実人数（人）				
実施時期		H30年度実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
①量の見込み		10,784人		11,642人	11,704人	11,704人	11,704人	12,486人	
②確保方策	実施施設数			5か所	5か所	5か所	5か所	5か所	
	実施体制（人）			20人	20人	20人	20人	20人	
	②－①			（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	



提供区域		大磯町全体		指数	年間利用実人数（人）			
実施時期		H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
① 実績・ 見込	年間利用実人数（人）	10,784人	10,637人	7,617人	7,553人	9,270人	8,566人	8,566人
	実施施設数			5か所	5か所	5か所	5か所	5か所
	実施体制（人）			20人	20人	20人	20人	20人
② 確保 方策	実施施設数			5か所	5か所	5か所	5か所	5か所
	実施体制（人）			20人	20人	20人	20人	20人
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

延長保育事業については、現行の事業実施により対応ができた。 今後についても、各園と連携を図り、引き続き事業を実施していく。
--

1. 事業名	⑩ 病児・病後児保育事業
2. 事業概要	児童が病中または病気の回復期にあって集団保育が困難な期間、保育所や医療機関等に付設された専用スペース等において保育及び看護ケアを行う事業です。 ・認定こども園あおばと 平日 7時30分から18時30分まで（平成28年度～）
3. 確保方策	町内では、平成28年度に幼保連携型認定こども園あおばとが開園し、同年6月から病後児保育事業を開始しました。 また、平成30年度からは広域利用として、隣接する二宮町の児童の利用を可能としています。

4. 進捗状況

提供区域		大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） 年間利用人数×利用日数			
実施時期		H30年度 実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①量の見込み		78人		90人	90人	90人	90人	90人
② 確保 方 策	病後児保育事業			90人	90人	90人	90人	90人
②－①					（確保）	（確保）	（確保）	（確保）



提供区域		大磯町全体		指数	年間利用延べ人数（人） 年間利用人数×利用日数			
実施時期		H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績
①実績・見込		78人	65人	20人	41人	43人	60人	53人
② 確保 方 策	病後児保育事業			20人	41人	43人	60人	53人
②－①				（確保）	（確保）	（確保）	（確保）	（確保）

5. 自己点検・自己評価

子どもの病気回復期の集団保育が困難な時期に保育を行うことで、保護者の子育てと就労の両立の支援を実施した。 また、委託先のあおばとの看護師により、町内各園に「もりのうさぎだより」を発行し、子どもの健康づくりの一助としての役割を果たした。 今後についても、受託先の事業者と連携を図り、引き続き事業を実施していく。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン 量の見込みと確保方策（地域子ども・子育て支援事業）の進捗シート

1. 事業名	⑪ 放課後児童クラブ
2. 事業概要	就労等により昼間保護者のいない家庭の児童に対し、授業終了後や長期休暇期間中の適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業で、大磯町では大磯学童保育クラブ及び国府学童保育クラブの2箇所で開催しています。
3. 確保方策	現在の施設でニーズ量は満たされますが、保護者の多様な就労形態やニーズに対応できるよう、引き続き運営委託先の事業者と連携を図ってまいります。 また、全児童を対象とした放課後子ども教室との連携に努めてまいります。

4. 進捗状況

【大磯学童保育クラブ】

提供区域	大磯町全体		指数	実利用者数				
実施時期	H30年度実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
① ニーズ量	低学年	80人	86人	79人	69人	66人	67人	
	高学年	33人	44人	43人	44人	39人	35人	
	合計	113人	130人	122人	113人	105人	102人	
② 確保方策			131人	131人	131人	131人	131人	
②-①			1人	9人	18人	26人	29人	



提供区域	大磯町全体		指数	実利用者数				
実施時期	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	
① 実績・見込	低学年	84人	90人	101人	108人	134人	140人	151人
	高学年	34人	40人	44人	39人	40人	37人	40人
	合計	118人	130人	145人	147人	174人	177人	191人
② 確保方策			145人	147人	174人	180人	193人	
②-①			0人	0人	0人	3人	2人	

【国府学童保育クラブ】

提供区域	大磯町全体		指数	実利用者数				
実施時期	H30年度実績		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
① ニーズ量	低学年	46人	64人	59人	51人	50人	50人	
	高学年	24人	33人	33人	33人	28人	25人	
	合計	70人	97人	92人	84人	78人	75人	
② 確保方策			112人	112人	112人	112人	112人	
②-①			15人	20人	28人	34人	37人	



提供区域	大磯町全体		指数	実利用者数				
実施時期	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	
① 実績・見込	低学年	68人	80人	72人	67人	66人	75人	86人
	高学年	22人	24人	33人	37人	45人	35人	26人
	合計	90人	104人	105人	104人	111人	110人	112人
② 確保方策			112人	112人	112人	112人	112人	
②-①			7人	8人	1人	2人	0人	

5. 自己点検・自己評価

現在、大磯学童保育クラブにおいて確保方策を超える利用ニーズとなっているが、職員体制や児童の安全性の確保を考慮した上で、小学校の敷地内の空いているスペース等を活用しながら、保護者の多様な就労形態やニーズに対応できるよう努めている。 今後についても、受託先の事業者と連携を図り、引き続き事業を実施していくとともに、新たな学童保育の実施場所の確保に向け検討する。

5. 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン総括

「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン」では、人口減少や少子高齢化など、こどもを取り巻く環境が大きく変化する中、基本方針として①安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進、②家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進、③多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実を掲げ、さまざまな施策に取り組んできました。令和6年度に計画期間最終年度を迎え、令和7年度から令和11年度を計画期間とすることおも計画での事業に反映させるため、第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの総括を行いました。

1. 計画の目標値と達成状況

第2期計画では、総人口に対する0～14歳人口の割合を評価指標として設定しました。しかし、令和6年度時点での割合は10.6%と、目標値を0.9ポイント下回っており、計画開始年度である令和2年度から徐々に減少傾向にあります。この目標値は達成できませんでした。

評価指標 (%)	現況 (平成30年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値
0～14歳の人口割合	11.5	11.1	11.1	10.9	10.8	10.6	11.5

※ 年齢別人口統計をもとに算出しています。

2. 計画事業の進行状況と評価

令和2年度から令和6年度までの計画期間中、毎年度、事業の進行管理を実施し、令和4年度には中間評価を行い、事業見込や確保方策を修正し、施策の改善などに取り組んできました。

(1) 年度別にみる事業評価

各年度の事業評価をみると、計画開始年度の令和2年度は、61事業がA評価であったのに対し、令和3年度、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による事業の縮小や中止で、A評価がそれぞれ56事業、57事業と減少しています。令和5年度になり、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことにより、67事業がA評価となっており、最終年度である令和6年度は、66事業がA評価になっています。

なお、令和6年度において事業評価がC評価となっている事業は、「平和学習」と「子育て短期支援事業」の2事業あり、事業実施にあたっての調整がつかなかったことにより未実施となっています。

年度	評 価			事業数
	A	B	C	
令和2年度	61	33	1	95
令和3年度	56	38	1	95
令和4年度	57	34	4	95
令和5年度	67	25	3	95
令和6年度	66	27	2	95

【評価】

A 事業目標を達成した、または達成した事業を継続的に実施できている。

B 事業目標に達していないが、概ね成果があった。

C 事業が未着手、または検討段階にある。

(2) 基本目標別にみる事業評価

基本目標ごとの継続的に事業実施している A 評価と概ね成果があった B 評価を合わせた事業数を計画開始年度の令和 2 年度と比較すると、年度ごとの増減はあるものの基本目標 1 ～ 5 いずれも同数の評価となっています。

基本目標 (A・B 評価の合計)		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり	19	19	18	18	19
2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	16	16	15	16	15
3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	23	23	23	23	23
4	地域が支える子育て環境づくり	13	13	13	13	13
5	子育てと仕事の両立支援	12	12	11	11	12
6	心配りが必要な子どもたちへの支援	11	11	11	11	11

3. 総括

現状と課題：「0～14 歳人口の割合」という目標値は達成できませんでした。また、事業評価で A または B と概ね成果があったと評価した事業においても、利用者数や利用率のさらなる向上が見込まれる取り組みもあります。また、計画どおり実施できていない取り組みもあります。

今後の展望：進行管理を徹底し、各所管課が把握している課題に基づき、効率的かつ効果的な事業運営をめざし、既存事業の実施方法の見直しや、新たな事業の展開を積極的に図る必要があります。

また、新規事業の展開において、大磯町だけでなく、国、神奈川県、近隣自治体及び民間企業などとの連携・協力を強化し、より広域的かつ多角的な支援体制を構築する必要があります。

「大磯町こども計画」に向けて：次期計画である「大磯町こども計画」における事業実施にあたっては、より質の高いこども・子育て支援サービスを実現するため、こども・若者、そして子育て当事者からの声を積極的に聴き、反映させることで、新規事業の提供や既存事業のさらなる充実を図ってまいります。

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン

進行管理書《令和6年度》

令和7年6月

大磯町町民福祉部子育て支援課

〒255-8555 神奈川県中郡大磯町東小磯183

電話 0463(61)4100 内線305・306